

授業力の向上と校内研究の 活性化に関わる支援の在り方

～対話的な学びのある授業づくりの促進を通して～



3

本の検証授業

本の所員担当研修講座

年次のまとめ

令和2年3月

後志教育研修センター

序

『難しいことは易しく、易しいことは重たく、そして広く』この言葉は、教育実践研究の根幹をなしています。誰もが「なるほど」と納得でき、多くの人に「自分でもやれそうだ」「自分もやってみよう」という気持ちにさせることが大切であり、その成果を他の人が使うことで、初めて価値が生まれるということです。

当センターでは北海道教育研究所連盟第16次共同研究『これからの時代の教員に求められる資質・能力の向上にかかわる支援の在り方』を主題とする研究に参画し、学習指導研究委員会は『授業力の向上と校内研究の活性化に関わる支援の在り方～対話的な学びのある授業づくりの促進を通して～』を研究主題として、3年次研究の最終年次としての研究を推進してまいりました。

今年度は日常の授業実践を第一として、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、具体的にどのように授業を改善していけばよいのかを子どもの学びの姿を通して見つめ直して行きました。検証授業は蘭越中学校、真狩小学校、倶知安西小学校樺山分校の3校で行うことができました。当センターとしましては研修講座と検証授業の連携を調査研究事業の柱としておりますので、この取組は当センターと学校が密接に連携し、教師の授業力向上と当該学校における校内研究の活性化にも大いに繋がり、研究内容を管内に広く発信することになっていきます。

中間報告となる、1月に開催した調査研究事業報告会では、多くの先生方に参加いただき、当センターの調査研究に各学校の関心が高まりつつあることを実感いたしました。研究協議の中では、校内研修のパッケージ化を進めていく上でファシリテーター役をセンター所員が担っていくこと、また授業検証と研修講座そして校内研修のパッケージ化の3本の柱を横断的に関連づけていくことの重要性を示唆していただきました。

当センターの調査研究の内容を後志管内の教職員が「なるほど」と納得し、各先生方が「この位なら自分でもできる、やってみよう」という気持ちになることを願います。そして、今後、実際に使ってみて、その成果はどうであったのかが確かめられ、そこで、初めて当センターの調査研究の価値が生まれることになります。また、今年度の新しい取組として、研究紀要のダイジェスト版を管内の教職員に配布し、当センターの研究の取組を少しでも知って頂こうと思います。

結びになりますが、公務多忙の中、調査研究に取り組まれた所員の方々、支えて頂いた校長先生、授業者の先生方、そしてご指導いただきました北海道教育庁後志教育局、教育関係機関の皆様にも厚く感謝申し上げます、発刊の言葉と致します。

後志教育研修センター
所長 長谷川 誠

令和2年3月

目 次

◇序

後志教育研修センター 所長 長 谷 川 誠

学習指導に関する調査研究委員会

【第1章】 研究の概要

- 1 研究主題および副主題……………研究の概要－1
- 2 主題設定の理由……………研究の概要－1
- 3 研究仮説……………研究の概要－2
- 4 研究の視点……………研究の概要－2
- 5 研究計画……………研究の概要－3
- 6 研究構造図……………研究の概要－5

【第2章】 研究の内容（所員担当研修講座）

I 研修講座「学習指導（授業づくり）」から 【担当：亀井・小西・鶴見】

- 1 「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりを目指して ……学習指導（授業づくり）－1～9
- 2 授業実践・研究協議の記録……………学習指導（授業づくり）－10～15
- 3 日常授業改善……………学習指導（授業づくり）－16～19
- 4 ICTを活用した授業づくり……………学習指導（授業づくり）－20～24

II 研修講座「学習指導（授業改善）」から 【担当：寺井・高岸・馬場・山崎】

- 1 授業改善のポイント……………学習指導（授業改善）－1～6
- 2 指導案づくり……………学習指導（授業改善）－7
- 3 研究授業……………学習指導（授業改善）－8
- 4 事後研から……………学習指導（授業改善）－9
- 5 アンケートから……………学習指導（授業改善）－10

III 研修講座「校内研修」から 【担当：本間・河合・笠原・清水】

- 1 研究主題解決のための研究仮説や研究計画の立て方……………校内研修－1～6
- 2 ワークショップ型討議の実際について……………校内研修－7～12
- 3 校内研修パッケージ化の取組……………校内研修－13～18

【第3章】 検証授業

- 1 蘭越町立蘭越中学校国語科の実践……………検証授業①－1～12
- 2 真狩村立真狩小学校算数科の実践……………検証授業②－1～5
- 3 倶知安町立西小学校樺山分校国語科の実践……………検証授業③－1～17

【第4章】 研究の成果と課題

◇あとかき

【第1章】

研究の概要

<第Ⅰ章>研究の概要

Ⅰ. 研究主題および副主題

授業力の向上と校内研究の活性化に関わる支援の在り方 ～対話的な学びのある授業づくりの促進を通して～

2. 主題設定の理由

現代社会は、少子高齢化に加え、知識基盤社会の到来やグローバル化の進展など、急速に変化を遂げている。特に、人工知能（AI）が飛躍的に進化し、「人工知能がさらに進化して、人間が活躍できる職業が無くなるのではないか」「今学校で学んでいることは、時代が変化したら通用しなくなるのではないか」と懸念されている。今を生きる子供たちが確実に未来の創り手となれるよう、必要な知識や力を確実に備えられる学校教育の実現が急務となっている。

こうした中、新学習指導要領について、中央教育審議会より改訂内容が答申された。次年度である令和2年度には小学校、令和3年度には中学校で全面実施される。そこでは、新しい時代に必要とされる資質・能力として「何を理解しているか、何ができるか（知識・技能）」「理解していること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力）」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性）」の3点が取りあげられ、これらの能力を育成するため「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。

【主体的な学び】・・学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

【対話的な学び】・・子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手がかりに考えること等を通じ、自己の考え方を広げ深める。

【深い学び】・・各教科等で習得した概念や考え方を活用したり、「見方・考え方」をはたらかせ問いを見出したり、解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする。

(Ⅰ)主題設定に関わる社会的背景

①今後の職業のあり方に関する予測から

2011年にアメリカの小学校に入学した子どもたちの65%は、大学卒業後、今は存在していない職業に就くだろう。

—— ニューヨーク市立大学大学院センター教授キャシー・デビッドソン氏

今後10年～20年程度で、半数近くの仕事が自動化される可能性が高い。

—— オックスフォード大学准教授マイケル・オズボーン氏

2045年には人工知能が人類を超える『シンギュラリティ』に到達する。

—— アメリカ人発明家レイ・カーツワイル氏

今後、児童生徒が社会を力強く生き抜いていくためには、他と関わり合い学び合う中で、新たな価値の創造に挑み、未来を切り拓いていく力が必要とされる。これらを踏まえ学習指導調査研究委員会では、「授業力の向上と校内研修の活性化に関わる支援の在り方」という研究主題のもと、3年次計画3年目の研究推進に取り組んでいく。特に、見通しを持てる単元構成や課題設定の在り方や、効果的な対話法について研究・推進を行うとともに、後志管内各校に組織的・計画的な校内研修の進め方の指針を提案していく。

3. 研究仮説

《仮説1》組織的な校内研究体制の確立とワークショップ型研修を推進することで、協働性と個々の資質・能力の向上を図ることができる。

《仮説2》児童生徒が主体的に対話できるような授業づくりの指針を示すことで、後志管内各校の校内研究推進のニーズに応えることができる。

4. 研究の視点

《視点1》実践的指導力の向上を図るための教職員研修の工夫・改善

- 組織的な校内研究体制の確立とワークショップ型研修の推進【研修講座「校内研修」】
- 校内研修のパッケージ化の推進

《視点2》確かな学力を育成するための授業改善

- 主体的・対話的で深い学びを目指した授業【研修講座「学習指導（授業改善）」】
- 若手教員のための、1時間の授業づくり【研修講座「学習指導（授業づくり）」】
- センター所員の所属校での検証授業の実施



上記の視点の具現化のために、本研究委員会では、左記の3本の柱を立てて、研究を推進していくこととした。いずれも後志管内各校に、本研究の情報発信が可能な方策であると考えたためである。「検証授業」については、センター所員が所属する学校で3本の授業を行った。「研修講座」については、センター所員が講師となり、本研究の内容を基盤とした3つの講座を開講することとした。「校内研究のパッケージ化」については、センター所員が所属する学校の研修をベースに、汎用性のあるものを提案することとした。

5. 研究計画

(1) 年次計画

【第3年次】令和元年度（2019年度）「理論研究と実践のまとめ」

- 「研究主題」「主題設定の理由」「研究仮説」「研究の視点」の検証
- 理論研修と資料収集により、具現化した授業構築の検証と提案
- 検証授業を通しての、単元構成、対話方法の検証と提案
- 研修講座「学習指導（授業づくり・授業改善）」「校内研究」の開催、運営

① 「見通しを持てる単元構成・課題設定」「対話的な学び」の検証授業の実践

10月24日 (木)	蘭越町立蘭越中学校2年「国語科」の授業実践 教材名「根拠を明確にして意見文を書こう」 (授業者：須貝 満恵 教諭)
10月31日 (木)	真狩村立真狩小学校1年「算数科」の授業実践 教材名「ひきざん」 (授業者：松本 純一 教諭)
12月13日 (木)	倶知安町立西小学校樺山分校1年「国語科」の授業実践 教材名「たぬきの系車」 (授業者：橋谷 紘彰 教諭)

②部員による研修講座の実施

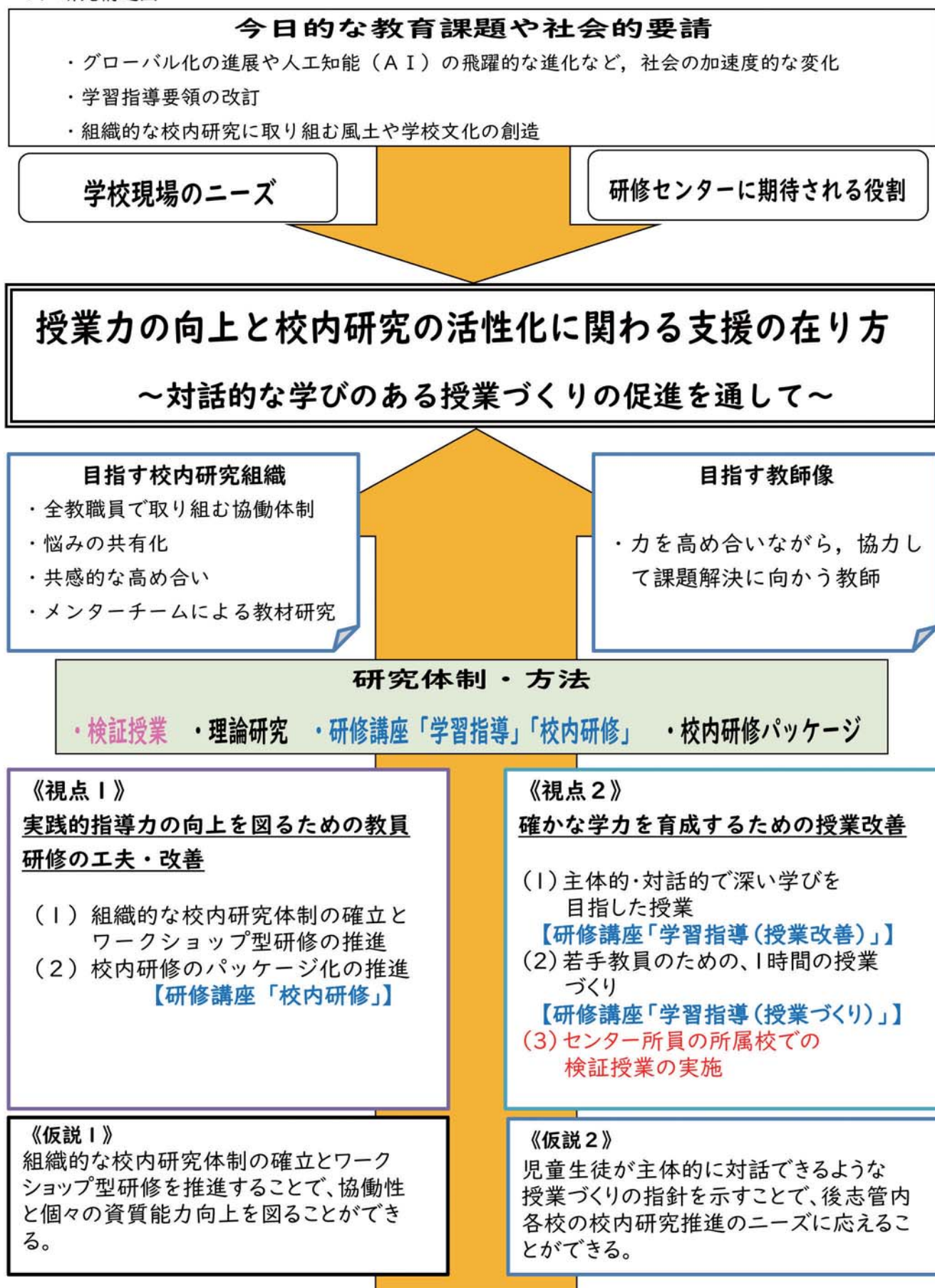
6月11日 (火)	研修講座「学習指導（授業づくり）」 対象：初任段階層（1～5年程度の経験年数） 児童・生徒がわかる1時間ごとの授業づくり
6月12日 (水)	研修講座「校内研修」 対象：分掌チーフ・ミドルリーダー層（5年程度～）、研究担当者 全員参加の校内研修を目指して
8月28日 (水)	研修講座「学習指導（授業改善）」 対象：分掌チーフ・ミドルリーダー層（5年程度～） 児童・生徒の学ぶ意欲を高める授業を目指して



(2) 今年度の年間計画

回	日 時	名 称	内 容
1	5月21日（火）	第1回 調査研究委員会	①推進委員長、副委員長の選出 ②研究主題の確認 ③年間計画の作成 ④研修講座講師決定（検証授業校、授業者の決定）
2	5月28日（火）	第2回 調査研究委員会	①研修講座「校内研修」講座内容の確認・検討 ②研修講座「学習指導（授業づくり）」講座内容の検討
3	★6月11日（火）	研修講座 「学習指導 （授業づくり）」 調査研究委員会A	①運営、講師、参加
4	★6月12日（水）	研修講座 「校内研修」 調査研究委員会B	①運営、講師、参加
5	7月30日（火）	第3回 調査研究委員会	①研修講座「学習指導（授業改善）」講座 内容の検討
6	8月02日（金）	第4回 調査研究委員会	①「校内研修」講座内容の振り返り ②「学習指導（授業づくり）」講座内容の振り返り ③研修講座「学習指導（授業改善）」講座内容確認 ○後志教育講演会 運営、参加
7	★8月28日（水）	研修講座 「学習指導 （授業改善）」 調査研究委員会C	①運営、講師、参加
8	◎10月24日（木）	検証授業① （第5回調査研）	蘭越中学校公開研究会 ①授業検証（個別の見取り） ②事後研への参加
9	◎10月31日（木）	検証授業② （第6回調査研）	真狩小学校校内研 ①授業検証（個別の見取り） ②事後研
10	11月08日（金）	調査研究委員会D	①検証授業①のまとめ確認 ②検証授業②のまとめ確認 ③検証授業③の参加者確認とまとめ方の確認 ④調査研究発表会に向けた、報告内容検討と役割分担
11	◎12月 5日（木）	検証授業③ 事前指導案検討 （第7回調査研）	樺山分校における模擬授業 ①指導案検討
12	◎12月13日（金）	検証授業③ （第8回調査研）	樺山分校ニセコ複式教育研究会研究大会 ①授業検証（個別の見取り） ②事後研への参加
13	1月 9日（木） 午前	第9回 調査研究委員会	① 調査研究事業報告会に向けた、報告内容検討 役割分担の確認
14	1月 9日（木）	調査研究事業 報告会 （第10回調査研）	①プレゼン発表 ②運営、参加 ②研究紀要骨子、役割分担の確認
15		第11回 調査研究委員会	必要に応じて開催
16	2月 10日（水）	第12回 調査研究委員会	①研究紀要原稿の最終チェック ※第3回所員会議終了後

6. 研究構造図



【第2章】

研究の内容

I 研修講座「学習指導（授業づくり）」

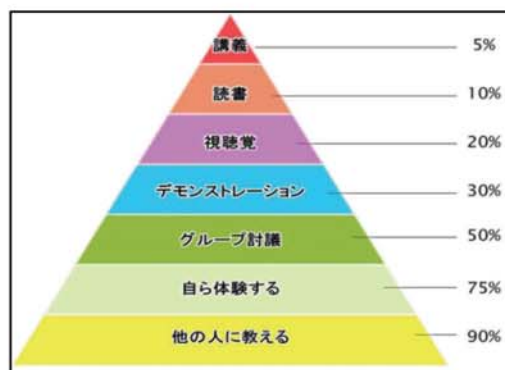
I 講義「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりを目指して

島牧村立島牧中学校 亀井 孝志

【1】 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善についてのおさえ

(1) ラーニングピラミッド

アメリカ国立訓練研究所（National Training Laboratories）の研究によって、いわゆる講義、資料や書籍を読むことに比べ、グループ討議、体験、他の人に教えるなど、より能動的・主体性が必要なことになるほど学習定着率が高い（＝教育効果が高いと）言える研究結果が出ている。



(2) NITS「実現したい子供の姿」ピクトグラム

独立行政法人教職員支援機構（NITS）次世代型教育推進センターでは、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の質的改善により実現したい子供の姿を、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」のそれぞれにおいて、ピクトグラムでイメージ化している。

学習指導案作成時など授業づくりで活用することにより、主体的・対話的で深い学びをより明確に位置付けることが期待できる。

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
興味や関心を高める	互いの考えを比較する	思考して問い続ける
見通しを持つ	多様な情報を収集する	知識・技能を習得する
自分と結び付ける	思考を表現に置き換える	知識・技能を活用する
粘り強く取り組む	多様な手段で説明する	自分の思いや考えと結び付ける
振り返って次へつなげる	先哲の考え方を手掛かりとする	知識や技能を概念化する
	共に考えを創り上げる	自分の考えを形成する
	協働して課題解決する	新たなものを創り上げる

(3) 各教科等における見方・考え方

新学習指導要領解説には、特に「深い学び」の鍵となるものとして、各教科等の特質に応じて「見方・考え方」が示されている。

「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。

各教科等における見方・考え方	
教科等	見方・考え方
国語	【小・中学校】 言葉による見方・考え方 言葉による見方・考え方を働かせることは、児童（生徒）が学習の中で、対象と言葉、言葉と対象との関係を、言葉の意味、働き、使い方を着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること （根拠：小・中）学校学習指導要領解説 国語編
社会	【小学校】 社会的現象の見方・考え方 社会的現象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること （根拠：小学校学習指導要領解説 社会編） 【中学校】 社会的現象の地理的な見方・考え方（地理的分野） 社会的現象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人々の営みと関連付けすること 社会的現象の歴史的な見方・考え方（歴史的分野） 社会的現象を、時系列、経緯などに着目して捉え、類似や連続などを明確にし、事象同士との関係性などを関連付けすること 現代社会の見方・考え方（公民的分野） 社会的現象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や価値観など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や価値観などを関連付けすること （根拠：中学校学習指導要領解説 社会編）
算数・数学	【小学校】 数と量・図形及びそれらの関係などに着目して捉え、概念を基に筋道を立てて考え、総合的・発展的に考えること （根拠：小学校学習指導要領解説 算数編） 【中学校】 数と量・図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的・総合的・発展的に考えること （根拠：中学校学習指導要領解説 数学編）
【小・中学校】 【算数】	

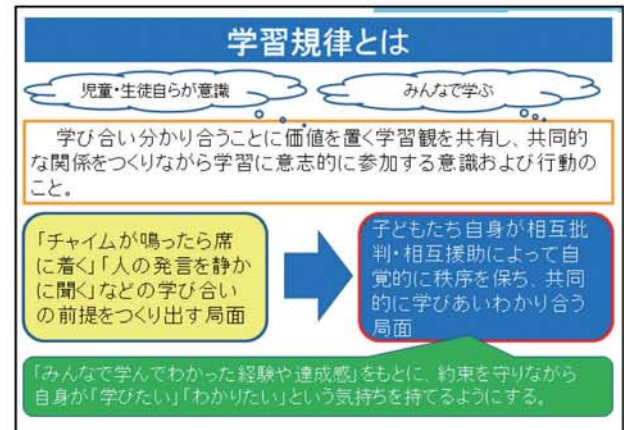
【2】 学習規律

受講者の日常実践における課題や悩み、解決策の交流を行ったのち、当センターの研究をもとに次のような説明を行った。

（1）学習規律とは

学び合い分かり合うことに価値を置く学習観を共有し、共同的な関係をつくりながら学習に意志的に参加する意識および行動のことであると定義した。

みんなで学んでわかった経験や達成感をもとに、約束を守りながら、子供自身が「学びたい」「わかりたい」という気持ちを持てるようにすることが目的である。



（2）学習規律の具体

〈発問〉 子どもの課題意識や学習意欲を高めたり、思考を促すもの

- a 多様な考えを引き出し、思考を揺さぶるような工夫をする。
- b 本時の課題に基づき、子どもの思考に寄り添った発問の吟味をする。
- c 本時の目標にせまる主発問と、主発問を補ったり詳しくしたりする補助発問を整理する。

～発問のポイント～

- ・ 全員の手を止め、発問を聞くことに集中させる。
- ・ 言葉を精選、吟味し簡潔に話す。（文が長すぎず、難解な言葉、あいまいな言葉にしない。）
- ・ 言い直し、繰り返しはしない。補足が必要であれば、一度手を止め、しっかりと全員に伝える。

～発表・発言のポイント～

- ・ 発表者の吟味、決定
 - 黒板に貼られた子どものネーム、自力解決時の子どもの見取り、子どもの実態や前時までの見取り等を考慮する。
- ・ 発表の仕方
 - 「まず～です。ここまです。」「わかりました。」等のように、発表の仕方にルールをつくる。（このようなルールの場合、短い文で考えを伝えることができるようになり、ルールがあることで安心して話すことができるようになる。聞き手も落とさずに聞く態度が身につく）
 - 「つなげる人いますか。」
同じ考えをもう一度他の子どもに話してもらうことで、全員がしっかりと理解することへの手立てとなる。

※ 教師は子どもの発表を言い直さない。「最後は先生が正しい答えを言う」と考え、友だちの話を聞かなくなる。

〈板書〉 1時間の学習の流れがわかるもの

- 問題，課題，見通し，解決までの子どもの思考のつながりがあること。板書を見れば，学習過程が全てわかるようにする。
- 多様な考えが表され，みんなで考える場，思考を整理する場となるようにする。

～板書のポイント～

- ・ 黒板は，常にきれいにし，白い黒板や消した跡が見えないようにする。
- ・ 書く位置をパターン化することで子どもの混乱を防ぐ。子どもに直接書かせる場合，スペースの位置や広さに注意する。問題，式，課題，考え方等，子どもにとって，「いつもの場所」に「いつものもの」が書いてあることは，スムーズな思考につながる。ノート指導にも役立つ。
- ・ 色チョークを使い分け，色の役割を決める。
- ・ 発言を全部書いてしまったり，書き過ぎたりしないように注意する。単に発言が列挙されているのみでは思考を促さない。ポイントのみを簡潔に記す。
- ・ 対立意見は明確にする。同じような意見は付加部分のみとする。
- ・ 発言した子どもが納得するように記述する。

〈ノート指導〉 毎時間の学習過程を通した自分の思考の過程を記録するもの

- 学習した筋道が，後で見えてわかるように書かせるよう指導する。
- 既習を確かめるときに活用する習慣を身につけ，自主的に振りかえることができるようにする。
- ノートを大切にすること意識づけをする。ノートが必要な場に立たせ，大切さや必要感を与える。（過去のノートを捨てないようにする。）

～ノート指導のポイント～

- ・ 書く時間をしっかり保障する。
- ・ 日付やナンバー等，毎回必ず書くことが決まっている。
（※ナンバーは，あとで振り返りたい時に，素早く探すことに役立つ。）
- ・ 教科や目的に応じて，使い方やレイアウトを指導する。
- ・ メモをとったり，考えや感想は自由に書いたりしてもよいということを意識づけ，実践できるように指導する。
- ・ いいノートを紹介する。
- ・ ノートを利用して評価する。
- ・ コメントを入れる。

【3】 単位時間の授業づくり

本研修講座は，経験年数1～5年目程度の職員を対象としていることから，既述の内容を踏まえながら，特に単位時間の授業の流れをどのように構築し，どのような学習活動を位置づけるかについて重点を置いた。

(1) 「しりべし 授業づくりの6つの視点」から

本研修講座の講師を務める所員が作成した指導案について，後志町村教育委員会協議会資料「しりべし 授業づくりの6つの視点」をもとに，それぞれの視点がどこに位置付けられているか，また，改善点は何かを検討する演習を行った。



＜「しりべし 授業づくりの6つの視点」を用いた演習で使用した指導案＞

算数科2年「たし算とひき算」指導案

日 時:平成30年7月13日(水) 第2校時

場 所:岩内西小学校2年1組教室

児 童:第2学年1組 31名

指導者:鶴 見 卓 哉

1 単元目標

筆算形式による2位数+1,2位数=3位数, 3位数-1,2位数=2位数の計算のしかたについて理解し, それを用いる能力を伸ばす。

- 2位数+1位数=百何十何の繰り上がりのある加法計算のしかたを理解し, 筆算が確実にできる。A(2)ア
- 百何十何-2位数=1・2位数の繰り下がりのある減法計算のしかたを理解し, 計算が確実にできる。A(2)ア
- 簡単な場合について, 3位数+1・2位数, 3位数-1・2位数の計算ができる。(百の位への繰り上がり, 百の位からの繰り下がりのない) A(2)イ

2 単元について

☆指導の系統

1 年	2 年	3 年
・3つのかずのたしざん, ひきざん	・たし算	・たし算とひき算
・たしざん	・ひき算	・分数
・ひきざん	・100より大きい数	・小数
・大きなかず	◆本単元	
	・1000より大きい	

(1)教材観

・領域:A数と計算

本単元では, 扱う数の範囲が100以上に拡張されたことで繰り上がりや繰り下がりが2回ある計算を経験することになる。既習事項を生かして考えさせたり, 計算のしかたを子ども自らに考えさせながら指導を行う。

(2)児童観

・発言意欲:高い ・思考表現:ノート(式、図)

2年生になり, ノートに, 課題や自分の考え, まとめて整理してまとめることができてきた。そのノートにまとめた式や図, 算数用語を使って友だちに説明できる力を養いたい。

(3)指導観

繰り上がりや繰り下がりには, 10まとまと次の単位になるという十進位取り記数法における単位の考えが根幹にあることを大切にしたい。その際, 友だちにわかりやすく説明したり, 自分なりにまとめることで, 理解を深めていきたい。

(4)単元の評価基準

関心・意欲 ・態度	・百の位への繰り上がりのある加法や, 百の位からの繰り下がりのある減法の計算のしかたを考え, 生活や学習に活用しようとしている。
数学的な 考え方	・百の位への繰り上がりのある加法や, 百の位からの繰り下がりのある減法の計算のしかたを, 既習の計算をもとに図や式などをもちいて考えている。

評価基準 明確に

技能	・2位数+1・2位数=百何十何-2位数=1・2位数の計算が確実にできる。
知識・理解	百の位への繰り上がりのある加法や, 百の位からの繰り下がりのある減法の筆算のしかたについて理解している。

3 単元の指導計画(8時間扱い)

1	も:72+63の答えを出そう。 か:くり上がりのあるたし算のしかたを考えよう。(百の位へ) ま:百の位にくり上げて計算する。
2	も:83+49の答えを出そう。 か:くり上がりのあるたし算のしかたを考えよう。(十, 百の位へ) ま:十の位, 百の位に2回くり上げて計算する。
3	も:68+37の答えを出そう。 か:筆算のしかたを考えよう。(こたえが空位) ま:十の位が0になるときは0とかく。
4	も:125-73の答えを出そう。 か:くり下がりのあるひき算のしかたを考えよう。(1回) ま:十の位で計算できないときは, 百の位からくり下げる。
5	も:163-79の答えを出そう。 か:くり下がりのあるひき算のしかたを考えよう。(2回) ま:十の位から一の位, 百の位から十の位にくり下げて計算する。
6	も:104-37の答えを出そう。 か:筆算のしかたを考えよう。(もんだいが空位) ま:前時と同じ。
7	も:106-98の答えを出そう。 か:筆算のしかたを考えよう。(もんだいとこたえが空位) ま:答えが十の位も百の位も0になるときは1の位だけでよい。
8	か:ちからをのばそう。 単元の学習内容の習熟を深める。

4 研究の視点との関わり

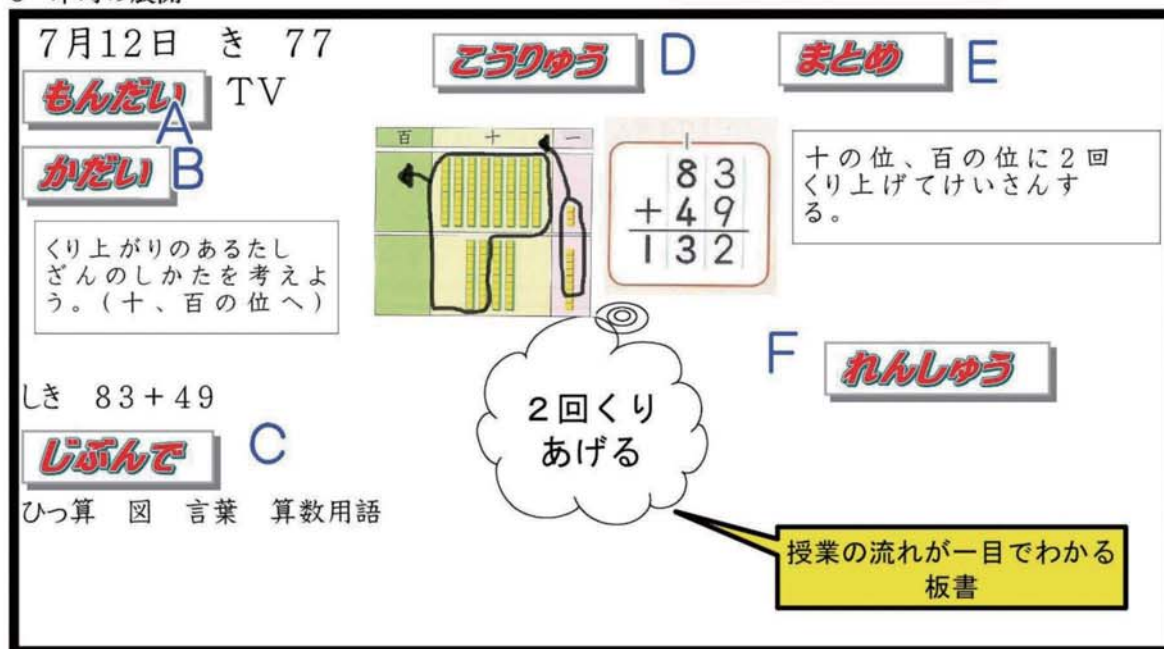
視 点 ①	＜指導言・評価言＞ □説明・指示・発問の区別 □フォロー技術の習得 ・指導言を整理して活動のテンポを上げる。活動にはフォローを入れることで意欲を高めることができるだろう。 発問:丁寧語 フォロー:日常語 ＜アウトプット＞ □アウトプットの活動の確保 ・発問, 指示の言葉を精選し, 子どもたちに「書く」「話す」「説明する」「話し合う」活動を確保することで, 主体的に学ぶことができるだろう。
視 点 ②	＜板書・ノート＞ □思考の流れが分かる板書・ノート作りの工夫 ・ノートに自分の疑問や気づき, 数学的な考えが表れる考えなどを吹き出しに書くことで思考が整理されるだろう。 ＜表現方法＞ □自分の考えをわかりやすく伝える方法の選択と効果的な活用 ・自分の考えを伝える場面では, 発表のしかたの基本型を意識し, 算数用語を使用することでわかりやすく説明することができるだろう。 算数用語(本時):くり上がり, 一の位, 十の位, 百の位

5 本時の目標

2位数+2位数で繰り上がりが2回ある加法計算ができる。

授業のねらい明確に

6 本時の展開



時間	記号A:学習活動 ☆子どもの予想される反応 吹き出し:フォロー	枠:発問 ※働きかけ □評価
9:25	計算フラッシュ(たし算) A 問題把握 ☆「5, 6, 7, 8, 9」 ☆「一の位もくりあがりそう。」 発問・指示わかりやすく 学習準備 「はやいね」「さすが」「先生よりはやいね」	※問題:板書 前時との違いを問う。 くり上がりがおきそうな数字はいくつありますか？
9:35	B 課題把握 ☆「図で説明しよう。」 ☆「筆算で説明しよう」 ☆「算数用語を使おう。」 見通しを持たせる。シンプルな課題 自力解決の様子 「すごい」「わかりやすいね」「この言葉いいね」	わかりやすく説明するためにどれを使いますか？
9:40	C 自力解決【図・筆算・言葉】 自分の考えを書く活動 説明の3セット	※机間巡視を行い、子どもたちの考え、つまづきなどを見取る。 2位数+2位数で繰り上がりが2回ある加法計算のしかたを考えている。 （ポート・発言）
9:50	D 交流 ペア交流→全体交流 ☆「まず、一の位は3+9をたして12になるから、十の位に1くり上がります。次に十の位は、1+8+4で13になるから百の位に1くり上がります。だから答えは132になります。」 共感的な関わり 交流の様子 「算数用語使ったね」「話し方がわかりやすいね」	※子どもの発言や説明の中で、わかりやすい言葉や気づき、疑問などがあれば吹き出しにして板書していく。 みんなの説明で出てきた言葉は何ですか？
10:00	☆「十の位や百の位に2回くり上げているところ。」 E まとめ ☆「十の位、百の位にくり上げる。」 ☆「2回くり上げる」	※答えが132になることを確認する。 今日の学習をどのようにまとめますか？
10:05	G 習熟問題 3 4(プリント) 学習の振り返り	※2回繰り上げて計算することをまとめる。 考2位数+2位数で繰り上がりが2回ある加法計算のしかたを理解している。 プリント・発言)

(2) 各場面の目的と方法

当センターの研究より、「導入」、「自力解決」、「集団解決」の3つの場面について、その目的と方法について次のとおり説明した。

<導入>

本時の目標実現に向け、子どもが主体的に解決に向かおうとすることができる。

- a 学習の目標や内容が理解できるように
- b 興味や関心、問題意識が高まるように。
- c 学習の見通しが持てるように。

<自力解決>

自力解決に向けて、解決への見通しをもつことができる。

- a 前時までの学習を振り返り、具体的な解決方法をイメージできるように。
- b 考え方のおよその方向性を共有できるように。
- c 自分なりの解決方法を選択し、決定できるように。

<集団解決>

共に学ぶことのよさを味わい学びを深める。

- a 「学校とはみんなで学ぶところ」であることを理解し意識できるように。
- b 自分とは違う考え方に触れ、比較したり、関連づけたりして深めさせるように。
- c よりよい見方、考え方、表し方を価値づけるように。
- d 互いに理解、尊重しあう関係を築くように。

(3) 交流場面で活用できるグループ技法

(1) Think-Pair-Share

自分の考えを明確にし、他者の意見と対比しながら考えを深めていくのに有効である。また、クラス全体での討論の準備にもなる。

- ①教員が全体に一つの質問をする（あるいは問題を出す）。
- ②数分、個別に考える。
- ③ペアを組んで互いに答を紹介し合う。違いがある場合にはそれぞれの根拠を明確にする。あるいは双方の意見を併せて一つの見解にすることを試みる。
- ④4人～6人組になり、それぞれのペアで話し合った内容を紹介する。

(2) ブレインストーミング

質問や評価をせずに、新しい考えを次々に生み出していくことが目標である。出てきた考えは記録していき、次段階の課題（KJ法的にまとめるなど）に用いる。

- ①教員が全体に一つの質問をする（あるいは問題を出す）。
- ②教員から注意事項として、質問や評価を挟まずに素早く簡潔にアイデアを出していくよう指示する。
- ③誰からスタートするか決め、開始する。

(3) KJ法

蓄積された情報から必要なものを取り出し、関連するものをつなぎあわせて整理し、統合する手法の一つである。

- ①ブレインストーミングなどでキーワード収集（カード記録）をする。
- ②カードのグループを編成していく。

(4) ピア・レスポンス

レポートやプレゼンテーションなどの準備過程で、アウトラインを他者の目を通して検討し改善のヒントを得るとともに、他者の文章を率直な読み手として吟味し感想や改善案を伝えるものである。書き手と読み手の双方の視点を体験しフィードバックし合うことで、表現能力を高めることができる。

- ①ペアになり、互いのアウトラインを読み合う。
- ②一方が自分のアウトラインを説明する。他方は聞き手になる。
- ③聞き手は相手のアウトラインを自分の言葉で再生し、適宜確認する。
- ④聞き手はアウトラインのよいところ、改善した方がよいところを伝える。
- ⑤役割を交代し、②～④を繰り返す。
- ⑥相手からのフィードバックを参考に、各自でアウトラインを改善する。

(5) ワールドカフェ法

与えられたテーマについて各テーブルで数人がまず議論し、次にテーブルホスト以外は他のテーブルへ移動し、そのホストから前の議論の内容を聞いてからさらに議論を深め、これを何回か繰り返した後に、各テーブルホストがまとめの報告を全員にする方法である。

- ①カフェ・スタイルのテーブルに4～5人で座る。（3ラウンド行う）
- ②ラウンド1では各テーブルの中で、質問・テーマについて自由に話し合いを行います。その中で出たアイデアや疑問などは、テーブルに敷いた模造紙に自由に書き込まれる。
- ④最初のラウンドが終わったら、1人が「ホスト」としてテーブルに残り、後の人は、他のテーブルに「ゲスト」として移動する。
- ⑤ホストは、新しく来たゲストを暖かく迎え、そこでどんな話し合いが行われていたかをゲストたちと共有する。ゲストたちもアイデアや質問で貢献し、さらに話し合いを続ける。
- ⑥もとのテーブルに戻って、他のテーブルで得られて知見を報告する。

(6) ジグソー法

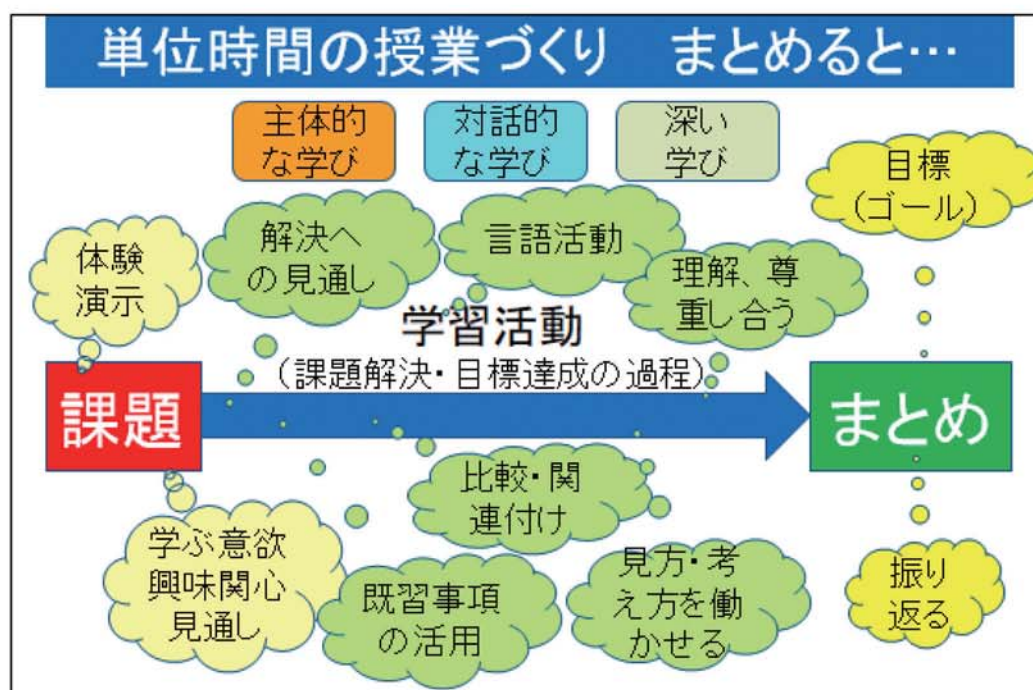
グループ内の各メンバーが自分に割り当てられた学習内容を別グループで深め、元のグループに「専門家」として戻り、互いに教え合う方法である。教えることができるためには、理解が十分深まっていないといけないうことに着目したもの。最後にクラス全体で理解の確認や討論を行うことが望ましい。

- ①教員から、学習するテーマとそれをいくつかに分けて細分化した学習内容を提示する。
- ②グループ内で各メンバーが担当する学習内容を決め、一旦グループを解いて、学習内容別に「専門家」グループをつくる。
- ③各「専門家」グループで担当内容の学習を深めるとともに、それを他者にわかりやすく教える方法を工夫する。
- ④「専門家」グループを解き、もとのグループに戻って担当内容を教え合う。

(4) 単位時間の授業づくりのまとめ

ここまでで扱った内容について、課題把握（課題提示）→学習活動→まとめという単位時間の授業の流れに沿って、下図のようにまとめた。

- ①課題把握（課題提示）においては、学ぶ意欲や興味・関心を高めることが大切である。ここでは、体験や演示などを取り入れることも効果的である。
- ②課題解決・目標達成の過程である学習活動においては、主体的・対話的で深い学びを効果的に位置付ける。ここでは、解決の見通しを持たせうえて、既習事項の活用や比較・関連付け、言語活動の充実、各教科等における見方・考え方を働かせることが大切である。また、特に集団解決においては、日頃から子供どうしが理解し、尊重しあう人間関係づくりも大切である。
- ③まとめにおいては、本時の目標（ゴール）として、子供自身が学習活動を通してどのようなことを身につけたか実感できるよう振り返ることで、確実な定着が図れるようにする。



【4】単元の指導計画

単位時間の授業づくりをする前提としておさえておきたい、単元の指導計画の必要性について説明した。次の①、②については、本研修講座における公開授業の指導案を使って例示した。

＜なぜ、単元の指導計画が必要か。＞

①単元を通して育成させたい資質・能力を明確にするため。

⇒単元の目標、評価規準

(例)



深い学び
 「自分の考えを形成する」

5. 指導目標と評価規準

《単元の指導目標》

◎人物の行動や会話、場面の様子などについて、想像を広げながら読むことができる。

○自分の経験と結び付けながら、自分の感想を書きまとめ、伝え合うことができる。

《単元の評価規準》

関心・意欲・態度	読むこと	伝・国に関する事項
・主人公の行動や会話に注意しながら物語を読み、感想を書こうとしている。	・登場人物の行動や会話から、場面の様子について理解している。(1)ウ ・自分の気持ちに合う言葉で感想を表し、どうして、その感想をもったかを理解している。(1)オ	・感想を表す言葉を使っている。(1)イ(ウ)

6. 単元の指導計画（全10時間扱い 本時 第6時）

次	時	目標	学習活動	評価規準
第1		単元のためてをつかみ、学習計画	○『スイミー』を読んで、学習計画を立てよう。 ・単元のためてを把握するとともに、感想文の	関単元の学習の見通しをもち、感想を書く

②育成させたい資質・能力について、単元を通してバランスよく学習活動を位置づけるため。

⇒学習活動（主体的・対話的で深い学び）の位置づけ、評価規準の位置づけ

(例)

対話的な学び		場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。	○『スイミー』の1～5の場面 ・音読し、話など、場面の様子や会話を具体的に想像する。 ・スイミーに話しかけるように感想を書く。	評価規準 （単元の評価規準を、より具体化してバランスよく各単位時間に位置付ける。）	
第3次	8・9	「スイミー」を読んだ感想と、そのわけを自分の気持ちを表す言葉を選んで書く	○「スイミー」を読んだ感想を文章に書こう。 ・これまでに書いた場面ごとの感想を振り返り、いちばん心に残った場面を考える。 ・「スイミー」を読んだ感想を、その感想のわけを明らかにして書く。その際、「言葉の宝箱」を使って自分の気持ちを表す言葉を考える。 ・感想文を読み返し、間違いなどを直す。	読物 読	読物 読
	10	友だちが紹介した作品を読み、学習全体を振り返る。	○「スイミー」の感想を友達と交換して読もう。 ・友達と、感想文を交換して読む。 ・読んだ感想を友達に伝える。 ・単元の学習全体を振り返る。	関 関	関 関

③学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標達成に必要な内容を組織的に配列していくため。

⇒カリキュラム・マネジメント

(例) 言語能力、問題発見・解決能力、情報活用能力

授業実践・研究協議 記録

研修講座 学習指導（授業づくり）では、主体的で対話的な深い学びの実現を目指した、小学校2学年国語科の研究授業を参観し、研究協議を行った。

第2学年 国語科学習指導案

日 時 令和 元年 6月11日(火) 5校時

児 童 余市町立黒川小学校 2年1組 21名

授業者 教諭 小西 淳樹

1. 単元名 お話を 読んで かんそうを 書こう

教材名 「スイミー」（レオ＝レオニ 作 谷川 俊太郎 訳）

2. 言語活動について

本単元では、単元を通した言語活動として、人物の行動や会話に気を付けて読み、根拠とともに感想を書く活動を設定した。読み取りの際には、登場人物の行動やその理由などについて具体的に想像させたい。その上で、一人一人が自分の思いをもち、それを的確な言葉で表すことを目指す。児童には、「友達と見せ合う感想カードを書くために、スイミーのしたことや言ったことに気を付けて読もう」と提示し、友達という相手意識、感想カードの作成という目的意識を持たせ、主体的な活動となるようにした。

3. 単元について

（1）児童について

入門期である第1学年の国語科を通して、様々な経験を積んできたものの、国語科の学習内容、あるいは学習規律や学習活動の仕方について十分に定着していない部分も少なくない。例えば、自分の思いや考えを言葉で表現することは、経験が乏しく苦手とする子が多い。友達と自分の思いや考えを伝え合う交流活動の経験は少ないものの、交流活動に対して意欲的である。基礎的な学習規律については、日常的に指導し、少しずつ身に付けている段階である。2年生での文学的な文章については、音読に重点をおいた『ふきのとう』を扱っただけで、本格的な読み取りの学習は、本単元が最初である。

（2）教材について

『スイミー』は、主人公の行動によって、物語が展開していく。スイミーの行動に着目しやすい書きぶりで、その行動を通して物語の展開を押さえていくことが容易である。そのため、登場人物の行動や会話を手掛かりとしながら、主な出来事や結末などを捉え、登場人物の行動を具体的に想像する活動にふさわしい。また、印象的で大きな挿絵も、読み取りの大切な手掛かりとなるであろう。

（3）指導について

本単元は、日常授業の改善・充実という観点から、創意工夫を生かした言語活動を取り入れることよりも、教科書の指導書に示された指導計画をもとに、いかに授業づくりに取り組むかという視点を重視した。また、指導計画の策定に当たっては、新学習指導要領に示されたものをできる限り取り入れる一方で、移行期間であることから、評価に関しては現行の学習指導要領に拠った。

4. 授業づくりの視点

（1）学習過程の定型化～〈構造と内容の把握〉→〈精査・解釈〉→〈考えの形成〉→〈共有〉～

国語科の「読むこと」においても、大まかな授業の流れを定型化して日常授業を行うことで、児童は1単位時間の学習活動に見通しを持つことができる。学習過程の定型化は、安心して授業に参加し自信を持って発言することにつながり、活発な学習活動を生み出すと考える。本単元では、国語科の学習指導要領に示された学習過程に沿って、〈課題把握〉→【〈構造と内容の把握〉→〈精査・解釈〉→〈考えの形成〉→〈共有〉】→〈振り返り〉とした。〈構造と内容の把握〉と〈精査・解釈〉は、いわゆる読み取り、〈考えの形成〉は自力解決の場面であり、〈共有〉は交流や集団解決の場面である。

（２）対話的な学びを生み出す交流活動の工夫 ～ペア交流と自由交流～

「共有」に位置付けられる児童相互の交流活動では、文章を読むことで形成した自分の考えを表現し、互いの考えを認め合ったり、比較して違いに気付いたりすることを通して、自分の考えを広げていく。本単元では、「ペア交流」と「自由交流」を意図的に設定する。一斉指導の全体交流では、１単位時間の中で発言できる機会は限られてしまうが、「ペア交流」「自由交流」によって、全ての児童が自分の考えを話して伝える機会を保障することができる。

（３）「考えの形成」を支える語彙指導 ～「言葉の宝箱」の活用～

今回の学習指導要領の改訂にあたって、国語科では、自分の考えを形成する学習過程が重視された。感想をもったり考えをまとめたりする際に、適切な語句の選択が不可欠である。しかし、必要な語彙が不足しているために、自分の思いや考えを言葉で表現することが難しい児童も少なくない。そこで、本単元では、人物の様子を表す語彙や気持ちを表す語彙を一覧にした「言葉の宝箱」を活用する。これを手元に置くことで、漠然とした思いを言葉として表出したり、より適切な言葉を使って書いたりすることができるだろう。

（４）主体的・対話的で深い学び ～単元のまとめ～

主体的・対話的で深い学びは、１単位時間の授業の中でその全てが実現されるものではない。単元のまとめを見通して、それぞれの学びの場面をどこにどのように位置付けるか、意識的に学習計画を組み立てることが必要である。本単元では、それぞれに重点を置く時間を明確にした。（ピクトグラム引用元：NITS）

	主体的な学び 「見通しを持つ」
	対話的な学び 「互いの考えを比較する」
	深い学び 「知識・技能を習得する」
	深い学び 「知識・技能を活用する」
	深い学び 「自分の考えを形成する」

５．指導目標と評価規準

《単元の指導目標》

- ◎人物の行動や会話、場面の様子などについて、想像を広げながら読むことができる。

- 自分の経験と結び付けながら、自分の感想を書きまとめ、伝え合うことができる。

《単元の評価規準》

関心・意欲・態度	読むこと	伝・国に関する事項
・主人公の行動や会話に注意しながら物語を読み、感想を書こうとしている。	・登場人物の行動や会話から、場面の様子について理解している。（１）ウ ・自分の気持ちに合う言葉で感想を表し、どうして、その感想をもったかを理解している。（１）オ	・感想を表す言葉を使っている。（１）イ（ウ）

６．単元の指導計画（全１０時間扱い 本時 第６時）

次	時	目標	学習活動	評価規準
第１次	１	単元のめあてをつかみ、学習計画を立てる。 	○『スイミー』を読んで、学習計画を立てよう。 ・単元のめあてを把握するとともに、感想文のモデルに触れ、単元の見通しをもつ。 【単元のめあて】 感想カードをつくるために、スイミーのしたことや言ったことに気を付けて読もう。	関単元の学習の見通しをもち、感想を書くことに興味を持っている。【発言・観察】
	２	あらすじを押さえて、初発の感想をもつ。	○お話の流れを確かめて、初めの感想を書こう。 ・挿絵をもとに、場面を分ける。 ・初発の感想をもつ。	読あらすじを押さえて、初発の感想を持つ。【ノート】

第2次	3	物語の設定を読み取り、登場人物を捉える。	○スイミーのことをしょうかいしよう。 ・スイミーの人物像をとらえる。 ・スイミーを紹介する。	読 物語の設定を読み取り、登場人物を紹介している。【ノート】
	4	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 	○スイミーのしたことや、言ったことに気を付けて2の場面を読み、感想を書こう。 ・音読し、場面の様子や登場人物の行動や会話など、内容の大体を捉える。 ・場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像する。 ・スイミーに話しかけるように感想を書く。	読 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。【教科書への書き込み】 読 登場人物の行動を具体的に想像する。【発言】
	5	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。 	○スイミーのしたことや、言ったことに気を付けて3の場面を読み、感想を書こう。 ・音読し、場面の様子や登場人物の行動や会話など、内容の大体を捉える。 ・場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像する。 ・スイミーに話しかけるように感想を書く。	読 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。【教科書への書き込み】 読 登場人物の行動を具体的に想像する。【発言】
	6 (本時)	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、感想を伝え合う。 	○スイミーのしたことや、言ったことに気を付けて4の場面を読み、感想を書こう。 ・音読し、場面の様子や登場人物の行動や会話など、内容の大体を捉える。 ・場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像する。 ・スイミーに話しかけるように感想を書く。	読 スイミーに話しかけるように書いた感想を伝え合っている。【ノートへの記述、交流場面の観察】
	7	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉え、感想を伝え合う。 	○スイミーのしたことや、言ったことに気を付けて5の場面を読み、感想を書こう。 ・音読し、場面の様子や登場人物の行動や会話など、内容の大体を捉える。 ・場面の様子に着目して、登場人物の行動や会話を具体的に想像する。 ・スイミーに話しかけるように感想を書く。	読 スイミーに話しかけるように書いた感想を伝え合っている。【ノートへの記述、交流場面の観察】
第3次	8・9	「スイミー」を読んだ感想と、そのわけを自分の気持ちを表す言葉を選んで書く。 	○「スイミー」を読んだ感想を文章に書こう。 ・これまでに書いた場面ごとの感想を振り返り、いちばん心に残った場面を考える。 ・「スイミー」を読んだ感想を、その感想のわけを明らかにして書く。その際、「言葉の宝箱」を使って、気持ちを表す言葉を考える。 ・感想文を読み返し、間違いなどを直す。	読 物語を読んだ感想を、そのわけを明らかにして書いている。【ワークシート】 伝国 自分の気持ちを表す言葉を適切に選んでいる。【ワークシート】
	10	友達と感想を読み合い、学習全体を振り返る。 	○「スイミー」の感想を友達と交換して読もう。 ・友達と、感想文を交換して読む。 ・読んだ感想を友達に伝える。 ・単元の学習全体を振り返る。	関 進んで友達と感想文を読み合い、互いの思いを分かち合おうとしている。【発言・観察】

7. 本時について

(1) 本時における授業づくりの視点

①学習過程の定型化

本時においても、〈課題把握〉→〈構造と内容の把握〉→〈精査・解釈〉→〈考えの形成〉→〈共有〉→〈振り返り〉という流れで、学習を展開している。〈課題把握〉では、ペア交流による前時想起と学習計画表から本時の課題を持ち、学習活動の見通しを持たせる。〈構造と内容の把握〉では、スイミーの行動と会話を見つけ出し、4の場面の内容を捉える。〈精査・解釈〉では、スイミーの会話と小さな赤い魚たちの行動について、その理由を具体的に想像する。〈考えの形成〉では、4の場面の感想を、スイミーに話しかけるようにという形で書き表す。〈共有〉では、自由交流を通して、互いの思いを分かち合ったり、感じ方を認め合ったりする。〈振り返り〉では、ノートに振り返り(学習感想)を書き、本時の活動を振り返る。

②対話的な学びを生み出す交流活動の工夫 ～ペア交流と自由交流～

スイミーや小さな赤い魚たちの行動を具体的に想像する際に、ペア交流で確認する場面を設定する。短時間の自力解決の後に、ペア交流を設定し、その中で読みが深まることを期待する。ペア交流で自信を持った児童は、全体への発表にも意欲的になるだろう。

その後、自分の感想を書き留めたノートを拠り所にして、友達と伝え合う自由交流を設定する。自分の考えを伝える、あるいは相手の考えを共感的に受け止めることで、お互いの思いや考えを分かち合えるようにする。こうした交流を児童が相互に認め合う人間関係作りにつなげ、自尊感情を高めたい。

③「考えの形成」を支える語彙指導 ～「言葉の宝箱」の活用～

自分の考えを形成する、スイミーに話しかけるように感想を書く場面で、「言葉の宝箱」の活用を促す。スイミーについて、人物の様子を表す語彙を使ってスイミーに語りかけたり、自分が感じたことにぴったりの気持ちを表す語彙を選び出したりといった活用を想定する。

④主体的・対話的で深い学びの実現

単元のまとまりの中で、本時は、「互いの考えを比較する」対話的な学びに重点を置いた時間である。ペア交流や自由交流を通して、自分の考えを友達に伝え、相手の考えを受け止める。そうしたやり取りの中で互いの考えを比べ、自分の考えに確信を持ったり互いの考えの違いに気付いたりする活動を実現したい。

(2) 本時のねらい

4の場面の様子について、登場人物の行動や会話に着目しながら、想像を広げて読み、スイミーに話しかけるように感想を書いて伝え合う。

(3) 本時の展開 ※次頁参照

(4) 本時の板書計画

六月十一日(火)

か スイミーのしたことや言ったことに気をつけて読み、スイミーに言ってあげたいことを書こう。

☆スイミー したこと

○4のばめん

①できごと

○スイミーは見つけた。

そっくりの小さな魚のきょうだいたち

②「出てこいよ。」

いっしょにたのしく

すばらしいものたくさん

③「ためだよ。」

「たべられてしまう

大きな魚、こわい

④ スイミーはかんがえた

②「大きな魚のふりをしておようんだ。」

スイミーは教えた

はなればなれにならないうこと

もちばなはなれないこと

③ スイミーに言ってあげたいこと

時 分

まて

じゆうにつたえる

名前を書く

同じ人・にしている

人に ○をつける

そっくりのきょうだい、よかったね

スイミー、かしこいね

いいアイデア、すまじいね

子どもの活動・思考	教師の支援・評価
○単元を通した言語活動や前時までの学習活動を想起する。 【単元のめあて】「感想カードをつくるために、スイミーのしたことや言ったことに気を付けて読もう。」	・主体的な活動となるよう、単元を通した言語活動を確認める。 ・ペア交流で前時までの活動を振り返る。その際、学習計画表を参照する。 ・主語に注目して、登場人物の言動を確認めるよう促す。 ・自力で探せない子については、掲示物などを活用し、主語を示す助詞やかぎかっこを手掛かりにするよう促す。
◎本時の課題をつかむ。 スイミーのしたことや、言ったことに気を付けて4の場面を読み、感想を書こう。	課題把握
○スイミーの行動に傍線を引き、スイミーの会話に㊦の印を付ける。 スイミーのしたこと、言ったことを見つけましょう。 したことは、「スイミーは」を探そう。「」は言ったことだね。 「スイミーは見つけた」にまつぐな線。「出てこいよ。～」に㊦。 ・傍線を引いたところ、㊦の印を付けたところを全体で確認する。	構造と内容の把握
○4の場面でのスイミーなどの行動の理由を具体的に想像する。 スイミーはなぜ「みんなであそぼう」と言ったのでしょうか？ いっしょに楽しく暮らしたいから。海には素晴らしいものがいっぱいあるから。 ・ペア交流の後、全体交流で確認する。 小さな赤い魚たちはどうして岩陰にいるのでしょうか？ 大きな魚が怖くて、逃げているから。大きな魚に食べられてしまうから。 ・ペア交流の後、全体交流で確認する。	精査・解釈 ・全ての児童が自分の読みを伝え合い、確かめる場として、ペア交流を設定し、全体交流の場で、正確な読みを確認する。 ・既習の場面に着目することで、行動の理由を具体的に思い描くようにする。
○スイミーに話しかけるように、ノートに4の場面の感想を書く。 「言葉の宝箱」も使ってみよう。 大きな魚になることを思いつくなんて、スイミーは、ちえがあるね。いいアイデアを思いついたね、スイミー。うまいくいといね。 小さな魚のきょうだいが見つかってよかったね。	考えの形成 ・自力で書き進められない子に対しては、「言葉の宝箱」の活用などを個別に支援する。また、自由交流の中でほかの子の考えに触れさせ、自分の考えを持てるようにする。
○4の場面の感想を自由に友達と伝え合う。 ・自由交流をする。相手の名前をノートに書き、同じ・似ている考えの人の名前を赤で囲む。 ぼくの書いたのと似ているな。私のとそっくりだ。 ぼくのととは違うな。私とは違うけど、◇◇さんの考え、いいな。	共有 ・互いの思いを分かち合い、自分と同じ考えや似ている考えに気づいたり自分とは異なる考えに触れて認め合ったりするよう促す。
○みんなに4の場面の感想を伝える。 ・全体交流をする。 素敵言葉だね。スイミーのことをよく考えているな。	読 スイミーに話しかけるように書いた感想を伝え合っている。（ノートへの記述、交流場面の観察）
○まとめをする。 ・本時の課題を振り返る。 ・ノートに学習感想を書き、相互指名で発表する。	振り返り ・全体交流では、意図的に指名し、多様な考えがあることに気づかせるとともに、質の高い児童の考えを認め、価値付ける場とする。 ・全員が感想を書けたこと、交流活動での気づきなどを確認する。 ・学習計画表をもとに、本時の活動と単元を通した言語活動とのつながりに触れる。
○次時の見通しをもつ。 ・学習計画表をもとに、次時以降の学習活動を確認める。	

研究協議から

◇視点1【学習過程の定型化】

- 同じ流れで授業を組み立てているので、児童が見通しを持つことができていた。
- 学習過程が定着しており、児童はスムーズに次の活動を始めていた。
- 授業の流れが決まっていることで、次に取り組むことが分かっていて、安心して学習に取り組んでいた。

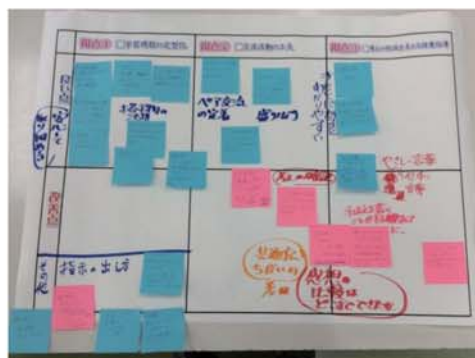


◇視点2【交流活動の工夫】



- 小刻みなペア交流があった。ペア交流が定着しており、しっかり交流し合っていた。
- ペア交流では、相手に体を向けて話す、終わったら正面を向くというルールが定着していた。
- 発言しやすい雰囲気があり自由交流が盛り上がっていた。
- 席を立って自由交流を行うことで、より多くの友達と交流することができていた。
- ペア交流よりも自由交流の方がより対話的な学びだった。

- ノートに相手の名前を書き、自分と同じ・似ている考えの丸を付けるのは、有効な手立てだと思う。
- 自分と同じ考えに丸を付けるのがあまりできていなかった。全体交流でも、具体的に確認すべき。
- 共通点や違いなどに着目させ、互いの考えを比較するための仕掛けが必要だった。



◇視点3【「考えの形成」を支える語彙指導】

- 「言葉の宝箱」はかなり有効だと思う。安心感につながり、語彙力の向上も期待できる。
- 「言葉の宝箱」の活用で、子ども達は手が止まることなく、感想を書けていた。
- 感想を書く場面で、自分の考えを書けない子がいなかった。
- 「言葉の宝箱」は、今まで使った言葉に印を付けると語彙の広がりをもっと感じられると思う。



◇その他

- ペアでの前時想起が慣れており、短時間でできていた。
- 児童の注意を引き付ける指示の出し方がされていた。
- 交流の時間とやり方といった、説明が数多くある場合に、黒板に掲示する方法をとっていた。
- 授業の終末にふり返りの時間がきちんと確保されていた。
- 単元目標や考えの形成のやり方が教室に掲示されていた。
- 物語文の内容把握の方法を確立しておくとうい。

日常授業改善

岩内町立岩内西小学校 鶴見卓哉

以下は当日の研修講座のパワーポイント資料をまとめたものです。

☆授業づくりと学級づくりはどちらが大事ですか？

初任者だった頃、授業づくりが大切なのか、学級づくりの方が大切なのか、悩んだ経験があります。もちろん、今となればどちらも大事と答えるのですが、「**授業を通して学級をつくる**」というのが自分としての答えになりました。この頃、授業が上手になりたいなあ毎日思っていました。授業が終わり、子どもが帰ったあと、反省ばかりでした。丸つけ、分掌業務、保護者対応、会議・・・などに追われ、教材研究に充てる時間がない・・・そんな毎日でした。

以下の内容は、自分で考えたオリジナルのものではなく、先輩方からの助言や岩内西小学校としての取り組み、たくさんの本を読み読んで学んだこと、色々な先生方から学んだことなどを自分でアレンジしたものです。はじめは、「やり方」のみを学び、実践をしてみてもうまいかないという日々が続きました。そして、「やり方」に加えて教育の「あり方」を学び、自分で考えたことが大きな収穫となりました。

(1) 授業を通して学級をつくる！（在り方）

まずは、どんな学級をつくりたいか、構想を立てると、授業中にどんなことを意識するか見えてきます。例えば・・・

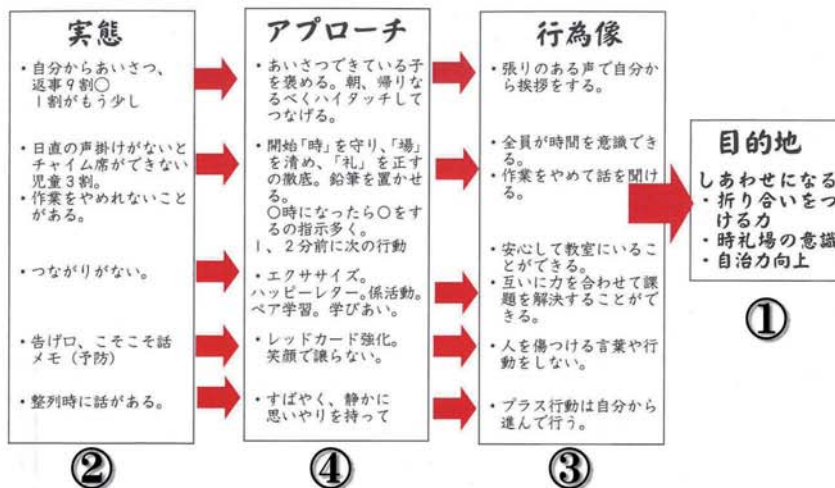
- ①交流場面でつながりを持たせる。
- ②最後まであきらめない気持ちを育てる。
- ③支持的風土を育てる。間違いは宝！
- ④集団で協力して課題を解決する気持ちを感じさせる。

(2) 現在地と目的地を確認する！（在り方）

学級集団のゴール像をイメージし、月ごとにどんなアプローチをしていくかを考えます。

- ①学級集団としてのゴール像（目的地）を設定する。
- ②学習面、生活面の実態を捉える。
- ③行為像を設定する。
- ④行為像に向けたアプローチを考える。
- ⑤月末に振り返り、次の月の計画を考える。

HOME 学級づくり 5月



(3) 良い授業がしたい!学力を向上させたい! (在り方)

①指導方法・技術の習得。

②教材の理解。

③学習である子どもの理解。

指導方法や技術は色々な本に出ています。インターネットで調べてもたくさん情報が出てきます。しかし、③の学習者理解については、調べても出てはきません。子どもたちの様子(学習面、生活面)は、担任にしかわからないこともたくさんあります。学習者に合わせた授業づくりを行うことで、授業の展開も大きく変わってきます。

(4) おしゃべり授業をやめよう! (やり方)

イメージとしては教師が話している割合を95%→50%

いいね!すごい!
さすが!なるほど!
わかりやすいね!



元横浜市小学校教諭野中信行先生が提唱されていましたが、指導言(□説明…事柄の内容や意味を説明すること、□指示…行動を促す ~しなさい、□発問…問いかけ)をしっかり整理し、子どもたちにアウトプットの活動を保障させることを意識します。また、活動にはかならずフォローをいれていくことで子どもたちのやる気にもつながっていきます。

(5) 授業のテンポを上げよう! (やり方)

今の子どもたちはTVやインターネットの影響もあり、早口に慣れています。ユーモアも交えながらスピードとテンポを意識しながら授業を進めます。

授業は必ず45分で終わるようにし、授業や活動では空白の時間をつくらないようにします。空白の時間とは、作業が終わった子どもが次に何をしたいのかわからないことです。

(6) 全員参加型の授業を目指そう! (やり方)

①挙手して指名するやり方からの脱却。

状況に応じた指名→列指名、全員指名、グループ指名
自力解決時に学習状況を把握し指名

②ペア交流

隣の人に自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞くことで、参加率が上がります。

(7) 表現方法を鍛えよう①算数編 (やり方)

☆岩内西小学校「西小の算数」より

発表のしかた
算数用語の使

問題
課題

自分の考え
図・式・言葉

説明の
3セット

伝える方法
アイテムの選択

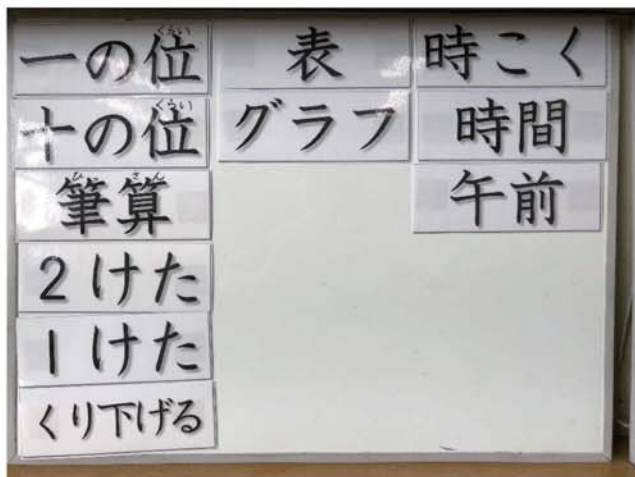
書画カメラ
発表ボード

(8) 表現方法を鍛えよう②算数編（やり方）

☆岩内西小学校「西小の算数」より

算数用語

各学年に出てくる算数用語や記号を指導者がしっかり意識して使用するとともに、子どもたちに学習ノートや発表場面で適切に使用させていきます。写真のように教室に掲示しておく、いつでも算数用語を使う習慣が生まれてきます。



(9) 表現方法を鍛えよう③学校編（やり方）

☆岩内西小学校「発表のしかた」より

個人で取り組めることもあれば、学校全体ではないと取り組めないこともあります。校内で、授業中に子どもたち「発表のしかた」を統一することで、担任の先生が変わっても同じスタイルで指導にあたることができます。

発表のしかた

A. 自分の意見を発表する時

①話し方（基本）

- ☐ はい、…です。
- ☐ はい、わたしは…だと思います。
- ☐ どうしてかという、…だからです。
- ☐ どうですか？

②話し方（説明）

- ☐ まず、…します。次に…します。
- ☐ 最後に…します。
- ☐ だから、答えは…です。

B. 反だちと意見を交流する時

①さんせい

- ☐ わたしは、〇〇さんの考えにさんせいです。
- ☐ 〇〇さんにつけたしで、わたしは…と答えました。

②はんたい

- ☐ わたしの考えは〇〇さんとちがって…です。
- ☐ どうしてかという、…だからです。

(10) 明日の授業づくりをしよう！（やり方）

日々、色々な業務に追われ、教材研究をする時間がない…という悩みがあります。そこで、授業づくりに充てることができるわずかな時間の中で、これだけはやっておきたいということがあります。1教科、5～10分で簡単に明日の授業づくりを行います。

- ①この授業でどんな力をつけさせたいかを押さえ、授業の流れを考える。
- ②どんな教材で、どんな発問をするかを決める。
- ③簡単な板書計画を考える（子どもの学習をイメージしながら）。

(11) やることをリスト化しよう! (働き方改善)

①やることをルーチン化する。

②その日にやることリストを作る。

一日の仕事の流れをルーチン化することで仕事に集中することができます。なかなか、「この時間の中では終わらない。」ということもありますが、時間を意識することで、終わっていなくても割り切るということも時には必要だと考えています。帰宅時間を決め、逆算の考えで何ができるかということを考え、優先順位をつけていくことも大切になります。

また、その日に「やることリスト」を作り、計画的に仕事を進めることも効率化につながっていきます。

また、仕事は一人ではできません。日々職員室の先生方との対話を大切にし、子どもたちの話をするようにしています。時間がないのに・・・と思われがちですが、職員室の対話を大切にする事で先生方との協力体制を生み、困っている時に助けてくれたり、教えてくれるということも多々あります。

5/24 リスト

★学年

- ・通信
- ・時間割
- ・教室、○つけ
- ・日常準備
- ・机搬入 6.18 3.4h
- ・クラブ調整来週まで
- ・宿泊研修 大枠 運動会明けまで
- ・ノート代支払い
- ・裁縫セット注文斡旋

★分掌研修

- ・道徳科重点項目設定

★運動会

- ・応援団選出 5/23
- ・応援団指導の仕方 提案
- ☐購入物☐CD☐指導☐歌詞カード☐制服
- ・放送原稿 5/24
- ・種目説明図 5/24

仕事ルーチン化

- 7:10 出勤、出勤簿に押印
- 7:20 教室整理
- 7:30 職員室 宿題など準備
- 7:45 教室へ
子どもと対話、様子観察
- 15:30 教室片付け、○つけ
会議など
- 16:00 分掌業務、授業準備
学年打ち合わせ
保護者対応

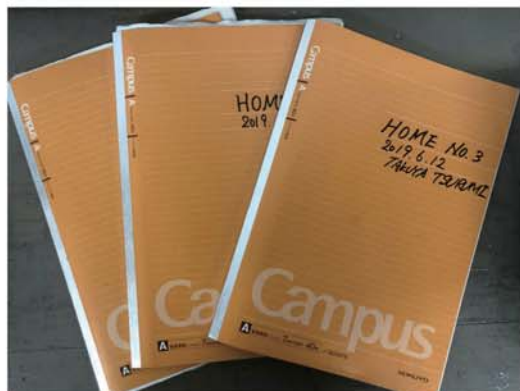
(12) 1冊のノート (働き方改善)

働き方には色々なスタイルがあり、大切なことは自分に合ったスタイルを見つけるということです。私は、授業づくりも学級づくりも、A4ノート1冊にまとめています。上越教育大学教職大学院准教授の赤坂真二先生の本から教えていただいた取り組みです。

A4ノートは、B5よりは大きく、1ページにたくさんの情報を書くことができます。また、行事の提案、保護者からの連絡、子どもの様子など必要なものがあれば、コピーをしてノートに貼るようにしています。

ノートの内容は、本当に単純なメモ程度です。(10)の明日の授業づくりをしようでも記したように、授業の流れ、この授業でつけさせたい力、簡単な板書計画をメモしていきます。以前は、授業は授業ノート、生徒指導は生徒指導ノートというように分けていましたが、続きませんでした、忙しいからです。ノート1冊は簡単だからこそ続けました。

はじめに書きましたが、働き方のスタイルはそれぞれです。自分に合ったスタイルを早く見つけ、定着させることが働き方改善につながります。



ICTを活用した授業づくり

余市町立黒川小学校 小西淳樹

学習指導(授業づくり)講座では、日常の授業にICTを活用するためのポイントを取り上げた。ここでは、授業の流れに沿って、ICTの教師による活用の紹介するとともに、インターネットを活用した教材集め、実物投影機の活用、iPadなどタブレット端末の活用について、講義で扱った内容をまとめた。

【1】授業での教員による活用

『教育の情報化の手引き』（平成22年10月、文部科学省）では、授業での教員によるICTの活用について、一般的な授業の流れに沿って、右の4つに整理している。ここでは、『手引き』に挙げられた具体例のいくつかについて、その実践例を紹介する。このように、普段の授業にICTの活用をプラスすることで、日常授業の改善が期待できる。研究授業で使う特別なものでなく、普段使いのICTを目指したい。

授業での教員による活用

- 1 学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるための教員によるICT活用
- 2 児童生徒一人一人に課題を明確につかませるための教員によるICT活用
- 3 わかりやすく説明したり、児童生徒の思考や理解を深めたりするための教員によるICT活用
- 4 学習内容をまとめる際に児童生徒の知識の定着を図るための教員によるICT活用

〔1〕学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるための教員によるICT活用

例1) 小学校 第6学年 理科

「月と太陽」において、月の表面の様子について、児童に驚きや感動を与えるように、デジタルテレビなどを活用して、大画面で鮮明な映像を拡大提示する。

例2) 小、中、高等学校 全学年 国語

プロジェクタ、教科書準拠デジタルコンテンツなどを活用して、教科書や図書資料などの挿絵や写真を拡大提示し、説明的な文章や文学的な文章を読む際に、内容への関心を高めるようにする。



〔2〕児童生徒一人一人に課題を明確につかませるための教員によるICT活用

例1) 小学校 算数、中学校 数学

大型ディスプレイ、教科書準拠デジタルコンテンツなどを活用して、教科書の問題文を拡大提示し、学習のねらいを確実に確かめさせるようにする。



例2) 小, 中, 高 体育

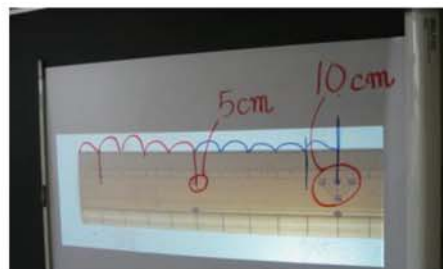
デジタルビデオカメラなどで自分の動きを撮影し, 模範演技と比較したりして, 演技や運動での課題を見付けさせ, より良い運動ができるように考えさせるようにする。



〔3〕 わかりやすく説明したり, 児童生徒の思考や理解を深めたりするための 教員による ICT 活用

例1) 小学校 第3～6 学年, 中学校 国語 (書写)

大型ディスプレイ, 実物投影機などを活用して毛筆書写の模範を提示し, 穂先の動きや点画のつながりを意識して書かせるようにする。



例2) 小学校 全学年 算数

プロジェクタ, 実物投影機などを活用して, 分度器やものさしなどの計器を拡大提示して, 正しい使い方を指し示しながら説明する。

〔4〕 学習内容をまとめる際に児童生徒の知識の定着を図るための 教員による ICT 活用

例1) 小学校 第3, 4 学年 社会

フラッシュ型教材等を用いて, 47 都道府県の名称と位置を確実に理解できるようにする。

【2】 インターネットを活用した教材集め

〔1〕 google 画像検索の利用

大手検索サイトである google には, 画像検索という機能がある。キーワードに関連した写真などの画像を瞬時に大量に検索することができる。これを活用することで, 授業のねらいに沿った画像を数多く探すことができる。こうした画像は, 児童生徒のイメージを拡充するために利用できる。



例えば, 小学校低学年の図画工作で, 紙粘土でクッキーを作るという課題では, 単元の導入において, 「クッキー」をキーワードにし, 画像検索で得られた様々なデザインのクッキーの写真を児童に提示した。児童は, 発想を豊かに広げて創作活動に取り組むことができた。

〔2〕 NHK for school の活用

「NHK for school」(<https://www.nhk.or.jp/school/>) は, NHKの学校教育放送のホームページであり, テレビ放送されている教育番組を見ることができることに加え, 約5000本のクリップ(番組から切り出した, 30秒～2分程度の短い動画)も見ることができる。教科や学年, 任意のキーワードをもとに, 検

索し、閲覧することができる。さらに、番組に関連した様々なデジタル教材も提供されている。また、Android 版・iOS 版のアプリも提供されており、タブレットを使って、利用することもできる。

[3] YouTube の利用

最大級の動画投稿サイトであり、学習に利用できる動画もある。ただし、その動画は玉石混淆あり、授業のねらいに合った動画を選択するようにはする必要がある。文部科学省チャンネルもあり、小学校体育(運動領域)のデジタル教材などが、アップロードされている。



[4] フラッシュ型教材

フラッシュ型教材は、従来のフラッシュカードに ICT のよさ、便利さが加わった教材であり、課題を瞬時に次々と提示することによって、どきどき、わくわくとしたゲーム感覚の楽しさが生まれる。短い時間で集中して反復練習することによって、基礎・基本の知識を定着させる効果がある。フラッシュ型教材活用のポイントとしては、授業の中で、短い時間で使う、テンポ良く使う、繰り返し使う、ほめまくって使うことが挙げられ、顔があがる、緊張感が生まれる、集中する、自信がつくといった効果が期待できる。短い集中の時間で基礎学力が向上する効果が期待できる。

フラッシュ型教材とは？

授業の中で

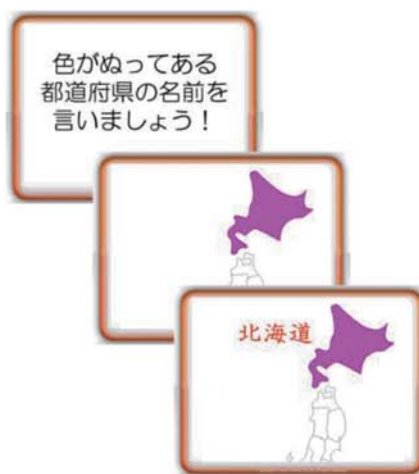
- ・短い時間で使う
- ・テンポ良く使う
- ・繰り返し使う
- ・ほめまくって使う

→

- ・顔があがる
- ・緊張感が生まれる
- ・集中する
- ・自信がつく

短い集中時間で基礎学力が向上する

(富山大学 高橋 純)



フラッシュ型教材は、市販されているものもある。PowerPoint などのプレゼンテーションソフトを使って自作することもできるが、すでに作成されたフラッシュ型教材を無料でダウンロードすることができる会員制サイトもある。「e-teacher」(<https://eteachers.jp/>)では、各教科の小・中学校向けのフラッシュ型教材合計1万点以上が配布されており、無料の会員登録をすれば、ダウンロードすることができる。教科や学年、任意のキーワードで検索することができる。そのまま使うこともできるが、power point 形式で配布されているため、児童の実態や授業の進度に合わせて、編集することもできる。



既存の教材を編集したり、新たに自作したりする場合には、マイクロソフトの PowerPoint を用いる。スライドの追加や修正が可能である。他の互換性のあるプレゼンテーションソフトウェアでも同様の作業をすることができる。また、授業で使うだけなら、無料のソフト PowerPoint Viewer を利用することもできる。

近年では、Android や iOS(iPhone・iPad)でも、アプリが提供されており、タブレット端末やスマホでも PowerPoint のファイルを開くことができ、フラッシュ型教材を利用することができる。

【3】実物投影機の活用

〔1〕実物投影機とは

実物投影機は、教科書や紙の資料、立体物などを大きく映し出すことができる ICT 機器である。操作が簡単で、紙の教材（教科書、プリント等）をそのまま使うことができ、プロジェクターや大型テレビに接続し、教材を大きく映して児童生徒に提示することができる。カメラでズームし、拡大・縮小することができるほか、カメラの角度も変えることもでき、例えば、向こう側の児童生徒の様子まで写すことができる。

また、実物投影機は、カメラに撮影されるものをリアルタイムに映し出すため、動画のように、“動き”も見せることができる。毛筆の筆先の動きや、実験器具の操作など、教師がその場で演示する様子を大画面で児童生徒に見せ、説明することができる。一方で、静止画を撮影して写したり、その画像を SD カードに保存したりして、後で映すこともできる。



〔2〕実物投影機による拡大提示の効果

教科書や資料集、ワークシートなど、普段から使っている教材を大きく映す(拡大提示)するだけでも、さまざまな効果が期待できる。拡大提示されたものを示しながら行うことで、指示・説明・発問などをわかりやすく、的確なものにすることができる。右に示した通り、拡大提示には様々な効果が期待できる。

まず、児童生徒みんなで見ることができ、目線を集め、集中させることが挙げられる。机上有る教科書の紙面に注目させるよりも、児童生徒の意識を把握しやすい。また、小さくてそのままでは見せにくいものも、大きく見せることができるというメリットもある。例えば、小さな自由研究の作品をテレビ画面に映し、みんなで見ながら、作品の紹介をするといった活用ができる。さらに、注目すべきポイントを共有することができることも、授業の中で効果が大きい。児童生徒の思考を瞬時に共有化するのである。例えば、自力解決で導き出した考えを全体交流で発表するときにノートの紙面を拡大提示し、式や図を指し示しながら説明させることで、聞いている児童生徒の理解を促進することができる。

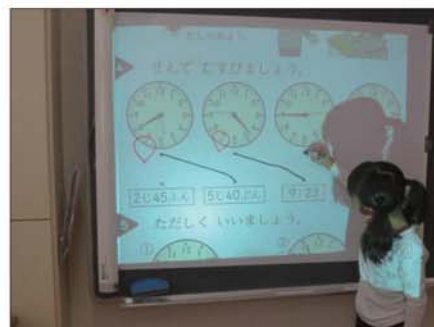
拡大提示の効果

- A) 児童生徒みんなで見る
ことができ、目線を集め、集中
させる
- B) 小さくてそのままでは見せ
にくいものも見せることが
できる
- C) 注目すべきポイントを共有
することができる

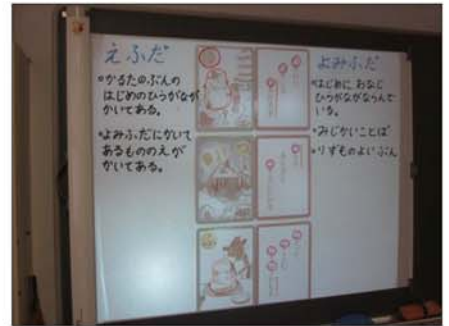
〔3〕拡大提示したものに書き込むことでの効果

実物投影機で拡大提示したものに、書き込みを加えることで、さらに活用の効果を高めることができる。

例えば、拡大提示しながら教師が行った指示や説明を、文字や図で書き残すことで、視覚的



に理解を助けるとともに、そのまま提示しておくことで、後から確認することもできる。また、注目させたい部分にラインを引いたり丸を付けたりして強調することもできる。教科書やドリルの紙面を拡大提示したものに、補足や解答を書き加えることで、効率的に説明することもできる。さらに、児童が発表するときに、書き込みながら説明することで、児童の思考の可視化して、聞いている児童の理解を促すこともできる。



【4】タブレット端末（iPad）の活用

札幌市では、平成29年度から段階的に教員が活用する「授業用タブレット端末」の整備が行われている。児童1人1台の整備が話題になることの多いタブレット端末だが、教師が授業で使うツールとしてタブレット端末が導入されることで、日常の授業でICTの活用が進むことが期待できる。ここでは、代表的なタブレット端末である「iPad」の授業での活用を紹介する。授業で教師が活用するICT機器としてiPadを考えると、その特徴として、1台で何役も役割を果たすこと、直感的な操作ができること、大型テレビなどのディスプレイやプロジェクターにつなぎやすいといった点が挙げられる。なお、周辺機器やアプリは、iPadに依存するものだが、活用方法としては、AndroidのタブレットやWindowsタブレットでも変わらない。

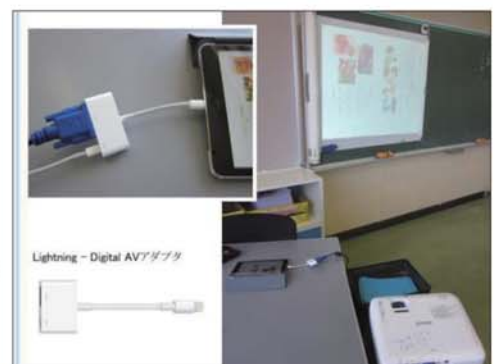
【1】iPadとディスプレイの接続

iPadと大型テレビやプロジェクターなどのディスプレイを接続するには、専用の変換アダプターを用いる。これでiPadとディスプレイをつなぐと、iPadの画面と全く同じものを大きなディスプレイに映し出す“ミラーリング”をすることができる。また、AppleTVという周辺機器をつかい、ワイヤレスでミラーリングすることもできる。



【2】様々な機器の代わりとして

iPadは、様々なICT機器の代わりとして使うことができる。「カメラ」アプリで撮影し、「写真」アプリで表示することで、実物投影機の代わりとして、教科書の紙面や児童のノートなどを拡大提示することができる。さらに、別のアプリを活用することで撮影したものに文字や書き込んで説明することもできる。また、デジタルカメラのように、教室の外に持ち出し、撮影した写真を保存しておくことで、持ち込めないものを教室で見せることもできる。例えば、屋外の畑で栽培した作物を撮影し、教室で拡大提示しながら観察するといった活用が想定される。あるいは、前時の板書を記録しておき、次時に提示することで前時想起に役立てることもできる。また、ビデオカメラの代わりとして、国語のスピーチの発表など動きのあるものを撮影しておき、後から丁寧に評価するといった学習評価での活用もできる。



Ⅱ 学習指導(授業改善)

『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた具体的手だて』を目的として、講座を行った。

Ⅰ 授業改善のポイント

①主体的・対話的の確認

具体的な姿を共有するために、右のカードを紹介し、普段の授業や指導案作りに生かせるようにした。

②授業改善のポイント

授業改善について参加者が聞きたい項目について紹介していった。

参加者も自分の実践を紹介し、互いの実践を共有することで、普段の授業に役立てられるようにした。また、必要なデータを参加に渡し、すぐに活用できるようにした。

なお、紹介した項目は以下の通りである。

実現したい子供の姿カード	
主体的な学び  興味や関心を高める	主体的な学び  見通しを持つ
主体的な学び  自分と結び付ける	主体的な学び  粘り強く取り組む
主体的な学び  振り返って次へつなげる	対話的な学び  互いの考えを比較する
対話的な学び  多様な情報を収集する	対話的な学び  思考を表現に置き換える
対話的な学び  多様な手段で説明する	対話的な学び  先哲の考えを手がかりとする
対話的な学び  共に考えを創り上げる	対話的な学び  協働して課題解決する
深い学び  思考して問い続ける	深い学び  知識・技能を習得する
深い学び  知識・技能を活用する	深い学び  自分の思いや考えと結び付ける
深い学び  知識や技能を概念化する	深い学び  自分の考えを形成する
深い学び  新たなものを創り上げる	

研修担当の先生へこの用紙を切り分けてお使いください。

学習指導(授業改善)研修講座

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた具体的手だて

クイズ「アタック授業改善！」

① 主体的	④ 単元計画	⑦ 習得
② 対話的	⑤ 学習過程 (授業の流れ)	⑧ 板書
③ 深い学び	⑥ 交流	⑨ 学級づくり

《ルール》

1. 主体的・対話的で深い学びについてお話しをします。
2. 主体的、対話的、深い学びについてのクイズに答える。
3. クイズの正解者が、次の項目を選ぶ。
4. 優勝者にはアタックチャンスに挑戦してもらう。
5. 見事アタックチャンスをクリアした場合、素敵なプレゼントがもらえる。

- ①主体的とは、子どものどんな姿ですか。
- ②対話的とは子どものどんな姿ですか。
- ③深い学びとは、子どものどんな姿ですか。
- ④単元が始まる前に準備していること(用意しているもの)は何ですか。
- ⑤自分の授業の、1時間の学習の流れを言いましょう。
- ⑥全体交流で気をつけていることを答えてください。
- ⑦あなたは、習得の問題をどのように取り組んでいる？
- ⑧学校で決まっている板書のきまりを答えましょう。

a 単元計画

単元のはじめに、子どもの興味・関心を引き、単元の流れを見通すことのできる実践を紹介した。

文字を使った式

数マジック大会をしよう！
～タネあかしができた数はすごい！～

学習する内容	○△
①今までの口や○や△のかわりに、 Σ や α や b などの文字を使うことができる。	
②まだわかっていない数を Σ などの文字を使って式に表して、答えを求めることができる。	
③2つの数量の関係を、 Σ や $\frac{1}{2}$ などの文字を使って表すことができる。	
④いろいろな数があてはまる時に、 a 、 b 、 c 、などの文字を使って表すことができる。	
⑤実際の場面で文字を使うことができる。	
⑥関点を見つけよう！	
⑦テスト	
⑧マジック大会をしよう！	

☆単元の1時間目に配付
☆その時間が終わったら○△記入
☆生活で利用する場面を最後の方に☆全部作るのはしんどいので、作った人たちがシェアしましょう！

分数の計算

分数カードバトル大会！
～カード王はだれだ？～

第1クール

学習する内容	○△
①式の立て方がわかる。	
②レベル1の計算のしかたを説明することができる。	
③レベル2の計算のしかたを説明することができる。	
④レベル3の計算のポイントをまとめることができる。	
⑤レベル4の計算ができる。	
⑥レベル5の計算ができる。	
⑦分数でも計算のきまりが使えるか調べることができる。	
⑧1になる数の見つけ方がわかる。	
⑨関点を見つけよう！	
⑩テスト その1	

☆子どもが見通しを持って学習できる。
☆テスト勉強を計画的にするようになる。
☆予習をする子が出てくる。

b 学習過程

ねらいに則した展開の工夫のために、具体的方法を紹介した。

*学習のしかた*パターン1

1. 復習 (分)
- ↓
2. 問題
- ↓
3. 課題
- ↓
4. 自分の考えをノートに書く
- ↓
5. 交流
- ↓
6. まとめ
- ↓
7. 答え
- ↓
8. どらえ問 (分)
- ↓
9. ふりかえり (分)

*学習のしかた*パターン2

1. 復習 (分)
- ↓
2. 覚える
- ↓
3. 練習
- ↓
4. どらえ問 (分)
- ↓
5. ふりかえり (分)

学習内容によって、過程を変える

*学習のしかた*パターン3

1. 復習 (分)
- ↓
2. 練習
- ↓
3. ふりかえり (分)

形式的な内容の学習では、パターン2を行うと、「身につけたいこと」がしっかり身に付く

8/1 分数のわり算 ⑧-2

1. 分数のわり算のしかたをまとめよう。

例 $0.7 \div \frac{2}{10} = \frac{7}{10} \div \frac{2}{10} = \frac{7}{10} \times \frac{10}{2} = \frac{7}{1} = 7$

① 分数に $\frac{10}{10}$ をかけよう。
② 逆 $\frac{10}{2}$
③ 一歩 $\frac{21}{20}$

2. 分数のわり算のしかたをまとめよう。

例 $\frac{3}{5} \div \frac{2}{10} = \frac{3}{5} \times \frac{10}{2} = \frac{3}{1} \times 2 = 6$

① 分数に $\frac{10}{10}$ をかけよう。
② 逆 $\frac{10}{2}$
③ 一歩 $\frac{21}{20}$

3. 分数のわり算のしかたをまとめよう。

例 $\frac{3}{5} \div \frac{2}{10} = \frac{3}{5} \times \frac{10}{2} = \frac{3}{1} \times 2 = 6$

① 分数に $\frac{10}{10}$ をかけよう。
② 逆 $\frac{10}{2}$
③ 一歩 $\frac{21}{20}$

4. 分数のわり算のしかたをまとめよう。

例 $\frac{3}{5} \div \frac{2}{10} = \frac{3}{5} \times \frac{10}{2} = \frac{3}{1} \times 2 = 6$

① 分数に $\frac{10}{10}$ をかけよう。
② 逆 $\frac{10}{2}$
③ 一歩 $\frac{21}{20}$

c 交流

話し合いのルールや雰囲気づくり、活発になる発問例などを紹介した。

交流のさせ方

《できた時にすること》

- ①ネームを黒板にはる。
- ②黒板に考えを書く。
- ③他の友だちの考えを、自分のノートにうつす。
- ④考え方で、同じこと、違うことを見つけ、黒板に書く。
- ⑤まとめを考える。
- ⑥違う考えの友だちと、どちらがいいか話し合う。
- ⑦黒板に書いていることを、ノートにうつす。
- ⑧練習問題を探し、できるか確かめる。
- ⑨問題を考え、みんなに出す。

《できない時にすること》

- ①先生を呼ぶ。
 - ②友だちに聞きに行く。
 - ③前の時間のノートを見る。
 - ④教科書を見る。
 - ⑤黒板に書いている友だちの考えを見てヒントにする。
 - ⑥黒板の考えを、まですつしてみる。
 - ⑦黒板に書いている友だちに説明してもらう。
- わからない時こそ自分から動く！！

☆教室に掲示しておいて、子どもたち「次、どれやるの〜？」と声をかけるだけでOK
→自分から動くようになる！

交流を浸透させるために

「〇〇しない子がするためには、
〇〇している子をほめる」

「Aさんがすぐに書いて問題を言ってくれたから授業がスムーズに進んだね！」

「今はナイスリアクションだね。発表したBさんも嬉しいよね〜」

「Cさんが黒板に考えを書いておいてくれたから、授業が時間内に終わったね。ありがとう！」

「Dさんは、もう自分の考え書いている！あ、Eさんは黒板の考えまで書いていた！びっくり！」

「Fさん、まとめ書いてくれている！先を読んでいるのがすごいなあ！」

「Gさん、今、大きくなすいた！分かっていることがよくわかったよ。」

☆この言葉だけで、他の子が動く！

全体交流の手だて

☆学級に掲示

NH!	NP!	NR!
ナイス発表！	ナイスパス！	ナイスリアクション！
●〜さんと似ていて…	★今の話わかりました？	◆わかった！
●〜さんとちがって…	★今の説明ではわからない人！	◆うんうん。
●〜さんにつけたしで…	★もう一回言ってくれる人！	◆へえ〜。
●同じこと言えます。	★自分の言葉で言ってくれる人！	◆うわ〜！
●〜さんの考えを	★ヘルプ！！	◆なるほど。
ひとことと言うと	★〜さんもう一回言ってください。	◆わかるわかる！
	(当てる)	◆ちょっと待って！！
	★〜さんはどう思いますか？	◆う〜ん、わからない！
	(当てる)	◆もう一回お願いします！



○〜〜です。
◆…(無視)



全体交流の発問例

「Aが一番人数が多いから、Aが答えということで。」
 「〇〇さんがいるので、Bが答えということで。」
 「やっぱり、先生が書いたから、Cが答えでしょ。」（誤答を書いて）
 「分からないことがある人いますか？」
 「じゃ、みんななかったということで、練習問題全員100点だね！」
 「Aは少ないってことは、違うんだね？」
 「同じものどれ？」

※そのほかは、授業のポイント（指導事項やまとめ）になる場所をねらってボケてみます。

※Aの考えを説明してください。
 という順に説明していくことはあまり行いません。
 子どもが「聞きたい」と思っていないからです。

☆一問一答ではなく、子どもたちが
 「？」
 「言いたい！」
 を持つきっかけに。

☆事前にいくつも用意して
 授業に臨むといいですね。

教師のリアクション

- 「先生は、分かった～！」（自慢げな顔で）
- 「先生はわからなかったんだけど…」（助けを求める顔で）
- 「え？」
- 「今の言葉をもう一度言える人！」
- 「・・・」
- ×「いいですか」「どうですか」
- ×「いい考えだね」
- ×発表の復唱

☆子どもが自分から話す「しかけ」

d 習得

短時間で習得問題を用意できるようにデータを共有した。

購入ドリルの活用



児童用はバラになっているものを使用

授業の習得の場面や単元のまとめで使用する。

自作問題

どうえ問
 縦が $\frac{4}{5}$ m、横が $\frac{4}{5}$ mの長方形の紙があります。
 横の長さは、縦の長さの何倍でしょうか。
 式 $\frac{4}{5} \div \frac{4}{5} = 1$ 答え ()

どうえ問
 水が、水には $\frac{1}{3}$ し、やかんには $\frac{3}{8}$ し入ります。
 水には、やかんの量の何倍の水が入りますか。
 式 $\frac{3}{8} \div \frac{1}{3} = \frac{9}{8}$ 答え ()

どうえ問
 $2\frac{5}{7}$ mの赤いひもと、 $2\frac{3}{8}$ mの青いひもがあります。
 青いひもの長さは、赤いひもの長さの何倍ですか。
 式 $2\frac{3}{8} \div 2\frac{5}{7} = \frac{21}{40}$ 答え ()

どうえ問
 1 $\frac{5}{9}$ kgの油の量をはかったら、 $\frac{5}{6}$ しありました。
 この油1しは重さは何kgですか。
 式 $\frac{5}{9} \div \frac{5}{6} = \frac{2}{3}$ 答え ()

どうえ問
 4 1m^2 の花だんに $\frac{7}{8}$ しの水をまきます。 $\frac{12}{5}\text{m}^2$ の花だんでは、水が何し入りますか。
 式 $\frac{12}{5} \div \frac{7}{8} = \frac{96}{35}$ 答え ()

3ステップドリル

① 分数の計算の練習として、10問を解いてください。
 ② ①の答えをすべて書き出して、答えを比較してください。
 ③ ①の答えをすべて書き出して、答えを比較してください。
 ④ ①の答えをすべて書き出して、答えを比較してください。

① 分数の計算の練習として、10問を解いてください。
 ② ①の答えをすべて書き出して、答えを比較してください。
 ③ ①の答えをすべて書き出して、答えを比較してください。
 ④ ①の答えをすべて書き出して、答えを比較してください。

データあるのでほしい方いれば差し上げます。

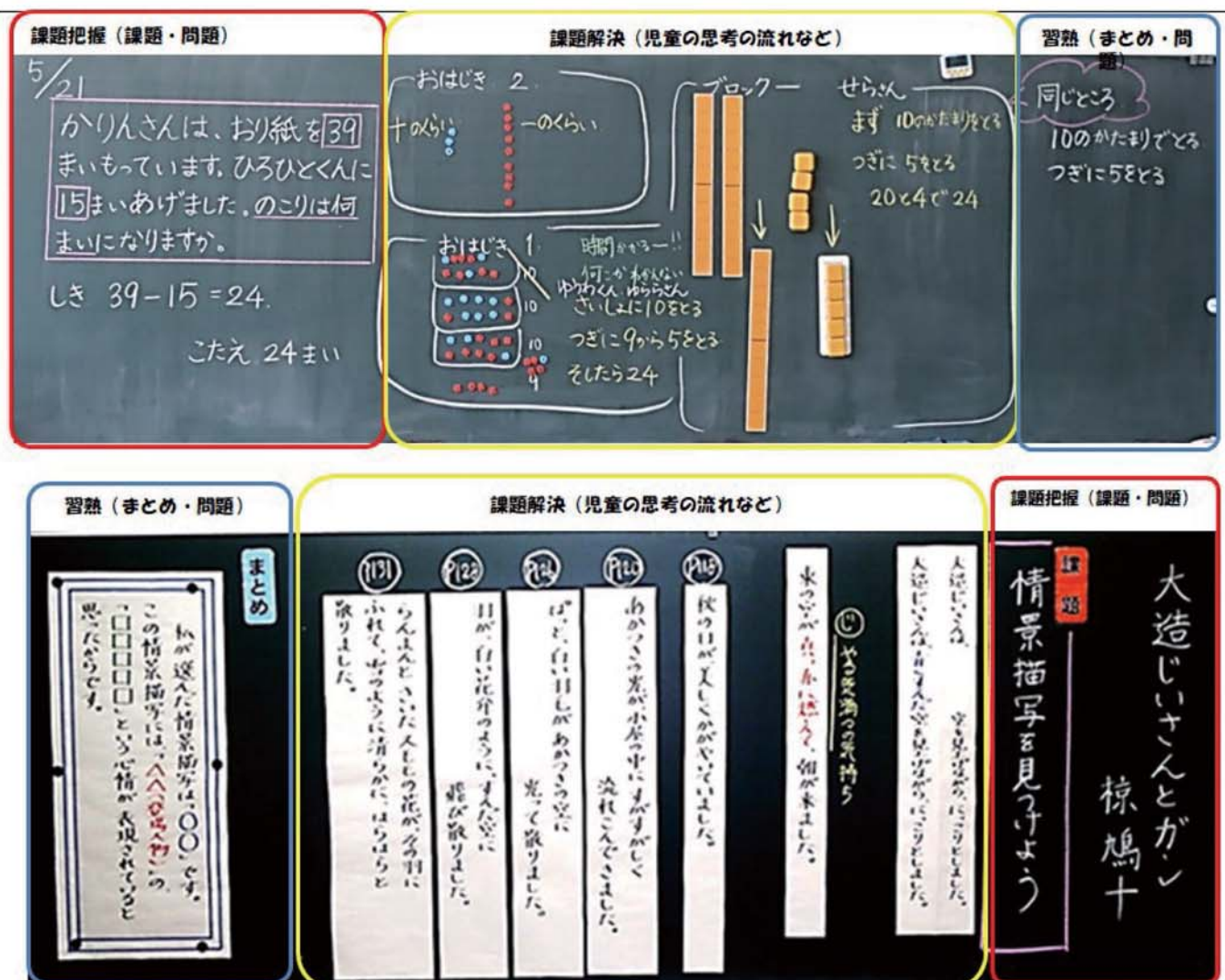
教育出版のサイトでもダウンロード可能

テストのスキャンデータの活用



e 板書

各学校で基本となる板書例を交流した。



f 学級づくり

授業の基盤となる学級づくりの手立てについて紹介した。

学活での活動

自己開示する&相手の気持ちを受止めながら聞く練習

エンカウンター
してみよう
つぼみもみれませんか？

- ★「言い換えると」ゲーム
- ★「わたしの好きなところ」ゲーム
- ★「ありがとうのメッセージ」
友達に、日頃の感謝の言葉を書きます。(付箋)
↓
友達の背中の紙に、書いた付箋を貼っていきます。

朝・帰りの活動 その1

相手の意図・気持ち、話の内容を考えながら聞く練習



左の本を参考に、朝のちよこつとの時間でやっています。

例えば…

- ・(子)健康観察で名前を呼ばれたら、返事+「好きなもの」を言う。
→(T)全員言い終わったら後、クイズを出す。
「〇〇が好きな人どこへ来た？」

- ・(T)「これから読む本の中から問題を出します！」と予告し、
短い絵本の読み聞かせを行う。読み終わった後「登場人物が
出てきた順番に言ってみよう！」などのクイズを出す。
→(子)注意深く話を聞いて、答える。

朝・帰りの活動 その2

相手につながつて話す練習(会話のキャッチボール)

比べる挑戦！

- うさんと似ていて…
- うさんと一緒に…
- うさんと同じで…
- うさんとちがって…



お題の例

「きのこ派?たけのこ派?」「給食で一番美味しいメニュー」「好きなものを最後に食べる?最初に食べる?」「ついつい言ってしまう口癖」「今まで行った中で一番遠い場所」

朝の会「1分間トークタイム」

ルールとにかく会話を止めさせない!
ペアは必ず二人ともしゃべる!

そのためには…?

- ・相づちを打つ
- ・自分の考えを言う
- ・質問する 等

現在は、これらの言葉を使い、教師から出すお題に沿って1分間トークをしています。

その他の取り組み

子どものできたことを積極的に掲示



集中力を高めるゲーム



新聞の読者の声欄などを読み、短い意見文を書く



2 指導案づくり

午前中の講義をもとに、本時の指導案作成作業を行った。その際、授業を担当する寺井講師から資料①の条件が示された。

資料① 授業者と共に参観者で創り上げる授業と授業改善

講座の流れ

① 本講座の説明 → ②指導案作成 → ③授業参観 → ④研究協議

研修に参加しているみなさんに、指導案を作成してもらいます。授業の場面は、2年 算数「三角形と四角形」の6時間目、正方形の性質です。みなさんが作った指導案に沿って、寺井が授業をします。

研修の目的

○主体的で対話的で深い学びの授業作りを参加者全員で創り上げる資質の向上を目指す。

○学んでいる子どもの姿を授業記録から捉え直し、授業改善に生かすことができるようになる。

留意点

(指導案作り)

○問題は、こちらで用意させてもらいました。皆さんが考えるのは、それ以外です。

○付けたい力は、単元計画を見てください。

○現在求められている授業改善の姿は、「主体的で対話的で深い学び」です。今回の授業は、そのことを意識し作成してください。子どもの対話のある場面をどこかで設定してください。

(本時の参観の仕方)

○子どもの対話の場面を各自記録してもらいます。その記録を基に、授業研をします。

(授業研)

○記録した子どもの姿をもとに、話し合いを行います。発言や様子から、子どもが主体的だったか、対話的だったかなどを振り返ってください。子どもが主体的で対話的でなかった場合には、「どうすれば良かったか」という対案を必ずしめしましょう。

参加者はこの条件のもとグループごとに話し合い、ワークシート(資料②)を用いながら本時の指導計画を考えていった。

指導目標が達成させることはもちろん、子供たちの対話場面をどこに設定したらよいか、課題はどのような言葉にするか、どのような活動を取り入れるかなどについて話し合われた。



資料②

II 本時の展開 (6/10)

1. 本時のねらい

正方形の意味、性質、辺の相等関係を理解する。

2. 本時の展開

時間	学習活動 (※は予想される児童の姿)	教師の関わり評価
	① 問題場面を把握し、解決の見通しをもつ。	⑤/今日学習する図形について
	④長方形の紙を、下のようにおいて切ります。どんな形ができるでしょうか。	
	① 課題題 形の辺と角のどこがは?	
	② 紙を折り、切る。	→ 折った形の形は?!
	③ 正方形についてセオリーは?	折った形の形は?!
	④ これは長方形とまっすぐ同じ形か?	★用語を揃え!
	⑤ 質問してね	

作業終了後、作成した指導案をグループごとに発表し、本時に用いる指導案を決定した。今回は一番若手の参加者がいるグループの指導案が採用された。

3 研究授業

実際に
出来上がった
指導案

Ⅱ 本時の展開（6/10）

1. 本時のねらい 正方形の意味、性質、辺の相等関係を理解する。

2. 本時の展開

時間	学習活動（※は予想される児童の姿）	教師の関わり【評価】
	① 前時の振り返り（長方形の性質） ② 問題場面を把握し、解決の見通しをもつ。 ④長方形の紙を、下のようにおって切りま す。どんな形ができるでしょうか。 ※真四角ができる。※長方形とは何か違うね。 ※折り紙のような形になるんじゃないかな。	●前時に学習した長方形を想起させ、できた形と長 方形の違いについて考えさせていく。辺の長さが 等しいなど、構成要素につながる発言があれば取 り上げ、④の活動につなげる。
	③ 紙を折ってから切り、本時の課題を確認する。 「この前の形（長方形）と一緒にかな？」 ※ちがうよ。 ※同じだよ。 ※長方形より小さいよ。 ⑤これは長方形といえるのか。調べてみよう。 ～かどの形や辺のかたちにもちゅうもくして～	●教師が前で提示しながら活動する。 ●「こんな形になったんだけど」「これってどんな 形」「この前と一緒に」などと発問する。 主体的 振り返って次につなげる姿 ●子ども達の発言を取り上げ、角の形や辺の長さ に着目すればよいことを確認する。
	④ できた四角形の特徴を調べる。 ※4つの角が全て直角なのは同じだね。 ※向かい合う辺の長さが同じなのは長方形と同じだ よ。 ↓ 対話的 共に考えを創り上げる姿 ※向かい合うというより全部の辺の長さが同じだよ。	●「辺」「長さ」「同じ」「角」「直角」などの用語を 使えていない子どもには、机間指導で促す。 考直角や辺の相等関係に着目して、正方形の 特徴を見いだしている。 《行動観察・発言・ノート》
	⑤ 正方形という言葉を知る。学習をまとめる。 ⑥4つのかどがみんな直角で、4つの辺もみ んな同じ長さになっている形を正方形とい う。長方形とは、辺の長さのことが違う。	深い学び 知識・技能を活用する姿 知識や技能を概念化・構造化する姿
	⑥ 本時のまとめを活用して、問題を解く。 ④～⑥の中から正方形を見つけよう。また、 正方形でないものは、そのわけをいまいし よう。 ⑦ みのまわりから長方形や正方形を見つける。	知正方形の意味を理解している。 《行動観察・発言・ノート》 関身の回りから、長方形や正方形を見つけよ うとしている。《行動観察・発言》 ●算数的用語を使い理由や定義を説明できるよう に促す。
	⑧ 学習を振り返る。 ※正方形と長方形は違う形で、名前があることが分かった よ。 ※色々なところに長方形や正方形が隠されているんだね。	●学びの成果に喜びを感じることができるように、 これまでの学習とつながったこと、これから使っ てみたいと思うこと、もっと考えてみたいこと等 振り返りの視点を与える。

出来上がった指導案をもとに研究授業を
行った。直前に参加者が指導案を作ること
によって、参加者自身も主体的に授業を見るこ
とができた。授業を参観する際のポイントと
して観察する児童を決め、その児童の理解
について、教師の手立ては妥当であったか
を見ていった。



4 事後研から



事後研は、それぞれ観察した子どもたちが子どもたちの「主体的な姿」「対話的な姿」「深い学びに向かう姿」が実際に見られたかについて話し合った。

子どもの実際の動きを追うことで、受講者が的確な授業改善の視点を持つことができた。

Ⅱ 本時の展開（6/10）

1. 本時のねらい 正方形の意味、性質、辺の相等関係を理解する。
2. 本時の展開

時間	学習活動（※は予想される児童の姿）	教師の関わり評価
	① 前時の振り返り（長方形の性質） ② 問題場面を把握し、解決の見通しをもつ。 ③ ④長方形の紙を、下のようにおって切ります。どんな形ができるでしょうか。 ※真四角ができる。※長方形とは何か違うね。 ※折り紙のような形になるんじゃないかな。 ③ 紙を折ってから切り、本時の課題を確認する。 「この前の形（長方形）と一緒にかな？」 ※ちがうよ。 ※同じだよ。 ※長方形より小さいよ。 ④ これは長方形といえるのか。調べてみよう。 ～かどの形や辺のかたちに着目して～ ④ できた四角形の特徴を調べる。 ※4つの角が全て直角なのは同じだね。 ※向かい合う辺の長さが同じなのは長方形と同じだよ。 ↓ 対話的 共に考えを創り上げる姿 ※向かい合うというより全部の辺の長さが同じだよ。 ⑤ 正方形という言葉を知る。学習をまとめる。 ⑥ 4つのかどがみんな直角で、4つの辺もみんな同じ長さになっている形を正方形という。長方形とは、辺の長さのことが違う。 ⑥ 本時のまとめを活用して、問題を解く。 ⑦ ④～⑤の中から正方形を見つけよう。また、正方形でないものは、そのわけをいまいしょう。 ⑦ みのまわりから長方形や正方形を見つける。 ⑧ 学習を振り返る。 ※正方形と長方形は違う形で、名前があることが分かったよ。 ※色々なところに長方形や正方形が隠されているんだね。	●前時に学習した長方形を想起させ、でき 方形の違いについて考えさせていく。辺 等しいなど、構成要素につながる発言があれば取 り上げ、④の活動につなげる。 ●教師が前で ●「こんな 形」「こ ま の発言 着目すればよいこ ●「辺」「長さ」「 使えていない子と 考直角や辺の相 特徴を見いだ 深い学び 知識・技能を 知識や技能を概 知正方形の意味を理解している。 《行動観察 評価シート》 関身の うとして ●算数的用語を に促す。 ●学びの成果に喜 これまでの学習 てみたいと思う 振り返りの視点を

子どもの見取りから

＊「角」「辺」2つの着目点があったが「角」への着目が少なかったのではないかな。

⇒着目点が複数あり、子どもの視点が偏っている場合は、視点を絞って順に話し合わせるなどの工夫が必要。

＊一方の子だけが話すペアも見られた。

⇒十分な時間の確保。

⇒時間を区切り、両者が話す時間を作る。

※伝え合って終わるペアがいた。

⇒一方の子が説明したことをもう一方の子が確かめてみる、書かせるといった活動も考えられる。

※見た目だけで「直角」を判断する子もいた。

⇒子どもからの声や教師の問いかけにより、「本当にこれは直角か？」を確かめようとする気持ちを持たせたり、どうしたら確かめられるかを考えさせたりする。

5 アンケートから

I, 自分の課題にあった内容はありましたか。

- ・単元を通して、「この授業は、この活動や視点を取り入れよう」というイメージを持っていないことが多く、今日の講座で意図的にそれらを組み込むイメージの例として参考になりました。
- ・自分の授業を振り返るととても良い機会でした。
- ・主体的で対話的で深い学びを単元の中にどう組み込んでいくかが大切。一時間ですべてを見取ろうとするのは厳しいということが改めてわかった。
- ・「主体的・対話的で深い学び」とはということかよくわかっていなかったのですが、今回プリントをいただいて、何を授業のねらいにするか、おさえることができました。
- ・授業内容の習得について、いろいろな提要問題を教えてもらえたことや、その前段となる、学級指導・雰囲気づくりのためのエンカウンターなど。

II, 学校(職場)に戻って取り組んでみたい内容、同僚に紹介したい内容はありましたか。

- ・ピクトグラムを使っの表現。
- ・「主体的～」のプリントのポイントを授業で取り扱っていききたい。単元計画を子どもたちに伝えておく。学級づくりのポイントなど、取り組んでみたいと思います。
- ・実現したい子どもの姿カードは参考になると思ったので、これを見ながら授業作りや評価をしていきたい。
- ・単元計画の掲示。
- ・授業の見方。全体＜子どもの発言に着目して見る。

III, 受講した内容を、今後どのように活用したいですか。

- ・自校の研修でも広めていきたい。まずはいろいろな形でチャレンジすることだと思う。
- ・「授業改善」ということで、改めて「自分の授業だったら…」と考えることができました。今後少しずつ学級や授業で取り入れていきたいと思います。
- ・日頃の授業から、子どもたちがどんな姿になればよいのか、どんなことができるようになればよいのかをイメージして授業作りをしたい。

IV, その他、受講された感想をお書きください。

- ・受講者が考えた授業を講師の方に行ってもらったり、クイズ形式の講座や一人の子に注目した授業参観をしたりと、新しい形の講座が、視点を変えてのぞめてよかったです。
- ・少しでもリラックスしながら受講させてもらえるように工夫していただき、ありがとうございます。
- ・子どもの思考は書かせることで見取っていましたが、それだと書くことが苦手な子を見取ることは難しいと感じていました。少人数だからこその取り組みかもしれませんが、子どもたちの声を聞き取ることも大切だと感じました。
- ・子どもを一人一人見て、活動の様子・発言をチェックするのはとても新鮮な気持ちになりました。今後、研修などで授業を見るときは、やってみたいと思いました。
- ・小学校ならではの提携授業スタイルから、なかなか考えを指導案に反映させることができなかったのが、中学校向け、もしくは校種別交流となると話しやすいと思いました。

- 「実現したい子どもの姿カード」のピクトグラムと、それらを意識した授業作りの提案ができた。先生方が普段の授業づくりで活用できるものを広められた成果は大きい。
- 「受講者の方に考えてもらった指導案で授業をする」「クイズ形式の講座」という新しい取り組みにより、受講者参加型の講座にすることができた。
- どの校種の方も参加しやすく話し合いやすい講座にするために、内容や進め方をさらに工夫していく必要がある。

〈第2章〉Ⅲ 研修講座「校内研修」から

Ⅰ 研究主題解決のための研究仮説や研究計画の立て方

ねらい

校内研修の充実を目指し、日常の実践を踏まえた組織的・計画的な校内研修の在り方について研修を深める。

① 校内研修と校内研究

校内研修とは：「研究」と「修養」を学校で推進すること

研 究

「よく調べ考えて真理を究めること」であり、教育の新しい内容や方法などを発見し、創造すること

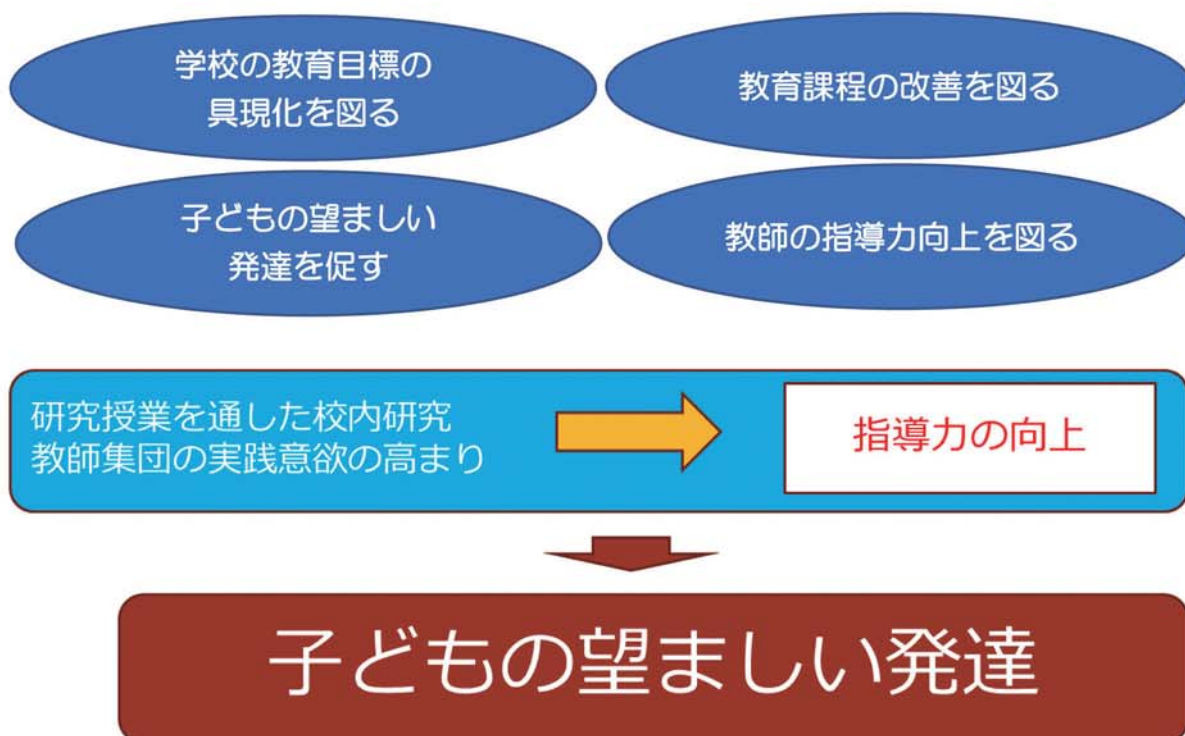
修 養

「精神を錬磨し、高度の人格を形成するように努めること」です、教職に関する知識を高め、品性を磨くよう努めること

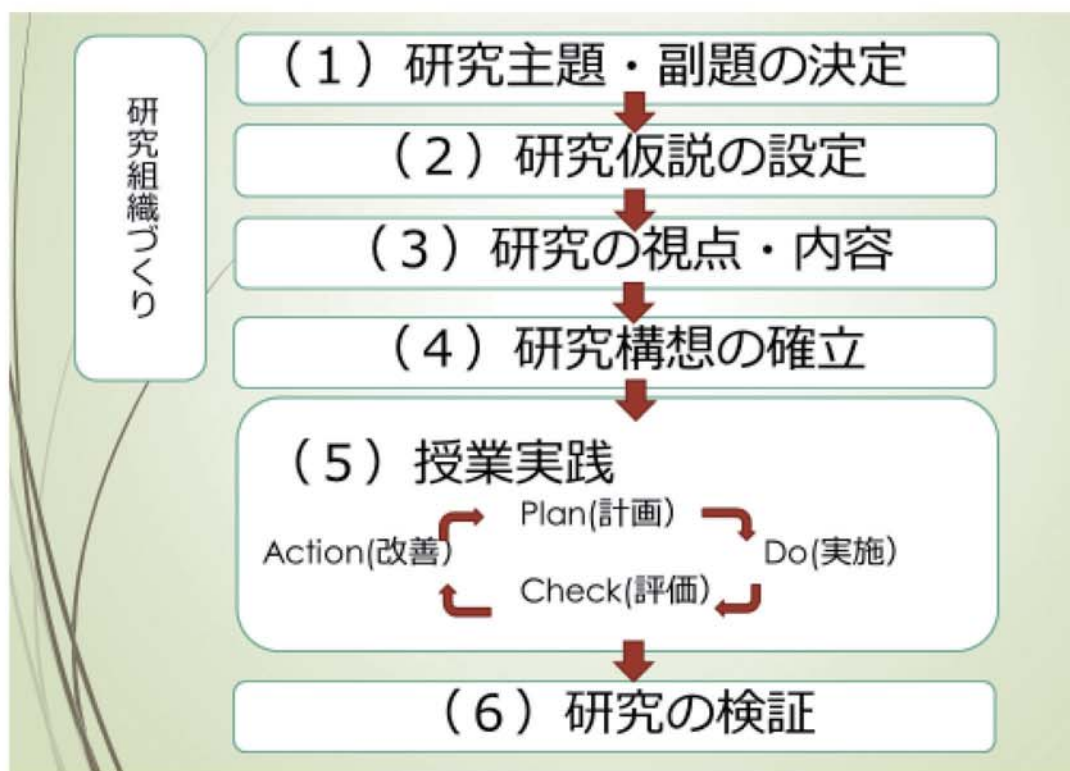
校内研究とは：学校の実践上の教育課題を取り上げて研究主題を設定し、教師が共同で取り組む研究活動

校内研究は校内研修の中核であり基盤である

② 校内研究の意義



③ 校内研究を進めるための手順

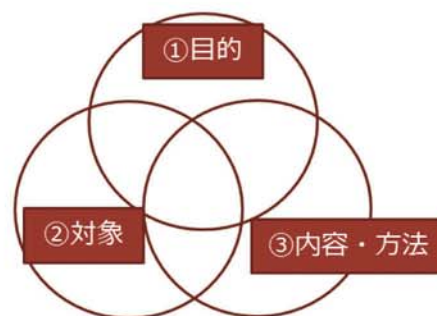


④ 研究主題、副主題の設定

研究主題の設定に当たっては、学校の教育目標との関連を踏まえ、地域や子どもの実態、保護者や教師の願いや学校の教育課題などから研究推進上の課題を焦点化するとともに、研究の目的や対象、内容・方法が明確になるよう、表現を工夫することが大切です。

研究主題を設定する際の 3 つの要素

- ・ 目的 → 研究の目指す姿
- ・ 対象 → 研究の領域・分野
- ・ 内容・方法 → 研究の手立て



研究の目的、対象、内容・方法の 3 つの要素を位置付け、
端的に表現することが大切

研究主題、副主題の設定の例

例①	例②
主題 自分の考えを豊かに表現する子の育成 ①目的	主題 ①豊かな心で人とのかかわる力をはぐくむ ②道徳教育の充実 ②対象
副題 ～②国語科における①言語活動の指導の工夫・改善を通して～ ②対象 ③内容・方法	副題 ～③心に響く体験活動との関連を図った道徳の授業の工夫を通して～ ③内容・方法

例③
主題 ①豊かにかかわり、 自ら学び高めていく子どもの育成 ①目的
副題 ～子どもの居場所がある授業を通して～ ②対象 ③内容・方法

教科、領域、分野の選定について

限定する（しぼる）

【利点】共通した話題で研究することができ、研究の積み上げがしやすい。取り上げた教科等を得意としている教員のリードを期待することができる。

【欠点】専門教科外の教員の研究意欲が減退する場合がある。取り上げた教科等だけで、無理に児童生徒を伸ばそうとしてしまうことがある。

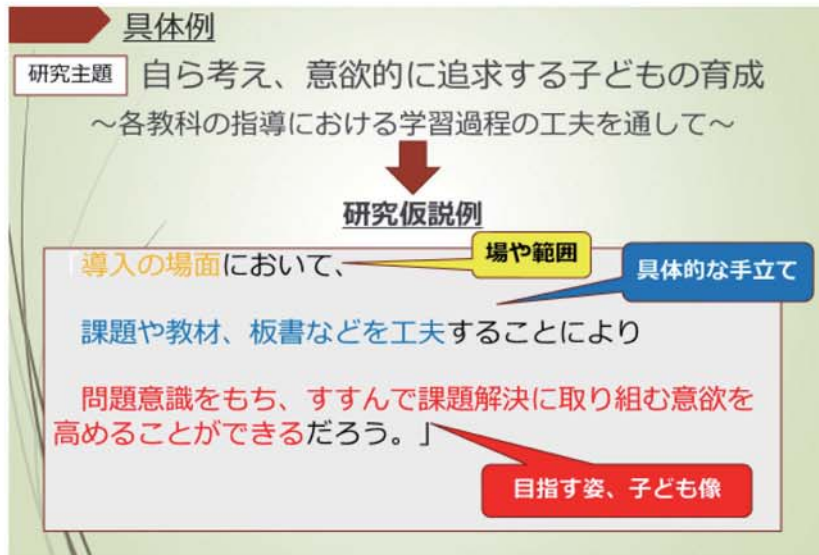
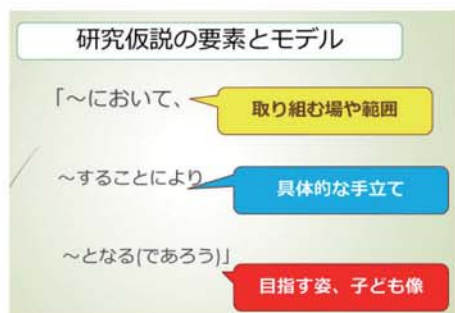
限定しない（ひろげる）

【利点】各教員が自分の興味、感心をもっている教科などで主題に迫ることができるので、研究意欲がわきやすい。

【欠点】「何から取り組んでよいか」わかりにくい。共通した話題での研究の積み上げが難しく、広く浅い研究になりがちである。共通理解を十分行わないと、研究成果が拡散しまとめるのが困難になる。

⑤ 研究仮説の設定

- ポイント 1→「目指す子ども像」を設定し、研究主題の目的を具体化する
 ポイント 2→研究仮説は、目指す子ども像に迫る手立てを明らかにして設定
 ポイント 3→研究内容の具体的な取り組みを明らかにして設定



⑥ 研究推進計画の作成

○研究課題を解決する期間や研究過程の各段階の手順、作業内容などを明確にする。

留意点

- ・ 学校教育目標、教育の全体計画との関連を図る。
- ・ 推進計画と研究年間計画との関連を明らかにし、具体的な見通しを立てる。
- ・ 計画全体について全職員が共通理解できるよう整理する。
- ・ 必要に応じて計画の見直しができるような柔軟性を持たせる。



3年間の大まかな流れを計画。必要に応じて加除修正がしやすい

P【計画】D【実施】C【点検】
 A【改善】のマネジメント・サイクルの視点を重視した計画



俱知安西小学校樺山分校の実践例

1. 校内研究は…

校内研究は、
畑の土作り

「畑の土づくり」とは、以下のようなイメージです。

それぞれの野菜が好む土にしてあげれば「よく育つ」のでは…

色々な野菜を育てたいなあ

それぞれの野菜について特徴を調べてみよう！

1年間のサイクル

大収穫！！

畑の周りの環境を整えてみよう！

害虫や動物対策も必要だ！

樺山分校は、今年度から新たに3年計画で校内研究に入ります。研究主題と仮説については、以下のようになります。

1 研究主題

「わかる」経験と「できる」喜びを未来につなげる樺山っ子
～ユニバーサルデザインの考えを取り入れた国語科授業づくりを通して～

5 研究仮説と内容

【仮説1】国語科授業ユニバーサルデザイン
ユニバーサルデザインの考えを取り入れた国語科授業作りを行うことで、樺山っ子に「わかる」経験と「できる」喜びを実感させることができる。

【研究内容】①「わかる（読解力）」を養った9年次生
②「しぼる（焦点化）」を養った1年間の進め方
③「シェア（共有化）」を養った1年間の進め方

【仮説2】教室環境（学校環境）ユニバーサルデザイン
ユニバーサルデザインの考えを取り入れた教室環境（学校環境）を作ることで、これまで以上に集中して授業に取り組むことができる。

【研究内容】①教室環境（学校環境）ユニバーサルデザインの取組
②心身の発達段階を踏まえた授業環境を築いた教室作り
③学びの楽しさを味わった児童の心身の発達

★前年度までの授業の実践と、今年度の学校環境に焦点を絞った研究主題を仮説とした研究主題になっています。

★2つの仮説については、研究主題をより具体的な研究内容としておとしめていくものとして考えました。

UD（ユニバーサルデザイン）とは？

「ユニバーサルデザイン7原則」

原則1： **だれでも**公平に使用できること。

原則2： 使う上で自由度が高いこと。

原則3： 使う方が**簡単に**すぐわかること。

原則4： **必要な情報がすぐに理解できる**こと。

原則5： うっかりミスや危険につながらないデザインであること。

原則6： 無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること。

原則7： アクセシビリティやスペースと大きさを確保すること。

この考え方を教育に当てはめた考え方が学校教育でのUDの考え方となります。

「校内研究」に置き換えると、こうなります。

それぞれの児童に通じた支援ができれば「わかる」「できる」が増えるのでは？

子どもたちを育てたいなあ

それぞれの児童の実態把握しよう！

1年間のサイクル

「わかる」「できる」が増えた！

教室（学校）環境を整えよう！

授業の集中を妨げるものもありそう！

2. 前年度に「しかけ」をしておく。

前年度の研修の総括終了後、教務提案として、低学年での「つくし」PLANというサークル対話の取組を提案しておきました。

次年度の研修の土台作りとして、スタートカリキュラムを埋め込むことで、職員には心の準備をしてもらいました。

2019年度の1年間の振り返るために
樺山分校
低学年スタートカリキュラム
「つくし」PLAN
の提案

倶知安町立西小学校樺山分校
2018年度 教務

3. 「1年間のサイクル」をイメージしやすい形で

1年間の研修の予定をイメージしやすい形で「見える」形で提案することを目指しました。

研修日	研修内容	研修場所	研修時間
5月23日(木)	第3回 校内研修	本校	14:30～
5月24日(金)	第4回 校内研修	本校	14:30～
5月25日(土)	第5回 校内研修	本校	14:30～
5月26日(日)	第6回 校内研修	本校	14:30～
5月27日(月)	第7回 校内研修	本校	14:30～
5月28日(火)	第8回 校内研修	本校	14:30～
5月29日(水)	第9回 校内研修	本校	14:30～
5月30日(木)	第10回 校内研修	本校	14:30～
5月31日(金)	第11回 校内研修	本校	14:30～
6月1日(土)	第12回 校内研修	本校	14:30～
6月2日(日)	第13回 校内研修	本校	14:30～
6月3日(月)	第14回 校内研修	本校	14:30～
6月4日(火)	第15回 校内研修	本校	14:30～
6月5日(水)	第16回 校内研修	本校	14:30～
6月6日(木)	第17回 校内研修	本校	14:30～
6月7日(金)	第18回 校内研修	本校	14:30～
6月8日(土)	第19回 校内研修	本校	14:30～
6月9日(日)	第20回 校内研修	本校	14:30～
6月10日(月)	第21回 校内研修	本校	14:30～
6月11日(火)	第22回 校内研修	本校	14:30～
6月12日(水)	第23回 校内研修	本校	14:30～
6月13日(木)	第24回 校内研修	本校	14:30～
6月14日(金)	第25回 校内研修	本校	14:30～
6月15日(土)	第26回 校内研修	本校	14:30～
6月16日(日)	第27回 校内研修	本校	14:30～
6月17日(月)	第28回 校内研修	本校	14:30～
6月18日(火)	第29回 校内研修	本校	14:30～
6月19日(水)	第30回 校内研修	本校	14:30～
6月20日(木)	第31回 校内研修	本校	14:30～
6月21日(金)	第32回 校内研修	本校	14:30～
6月22日(土)	第33回 校内研修	本校	14:30～
6月23日(日)	第34回 校内研修	本校	14:30～
6月24日(月)	第35回 校内研修	本校	14:30～
6月25日(火)	第36回 校内研修	本校	14:30～
6月26日(水)	第37回 校内研修	本校	14:30～
6月27日(木)	第38回 校内研修	本校	14:30～
6月28日(金)	第39回 校内研修	本校	14:30～
6月29日(土)	第40回 校内研修	本校	14:30～
6月30日(日)	第41回 校内研修	本校	14:30～
6月31日(月)	第42回 校内研修	本校	14:30～

4. 校内研修の時間そのものを「研究内容」で

★研究の【仮説1】の研究内容を「校内研修」の進め方そのものに当てはめて進めることを意識しています。

①「見える」 (視覚化)	②「しぼる」 (焦点化)	③「シェア」 (共有化)
◆パワーポイントによる提案を進めています。 ◆研修のはじめに、内容の時間設定を提案しています。【見出し】 ◆写真や動画を使いながら説明をしています。 ◆UDフォントの使用	◆1回の研修内容を、焦点化し、活動を明確にしています。 ◆1回の活動の進め方は、スモールステップで！ ◆はじめにトピックを示すことで研修時間のゴールを示しています。	◆研修の時間に内容に関わる「フリートーク」や「振り返り」を入れています。 ◆研修係が伝えきれない内容なども書籍や動画を紹介することで共有化します。 ◆研修図書の実践と係の情報収集

sample

2019年度
第3回 校内研修
5月23日(木) 14:30～

具体的研究内容の提案【仮説1】

SDQ 質問紙の分析と今後の手立て

倶知安町立西小学校樺山分校 研修部

sample

ウォーミングアップQUIZ再び

経営ビジョンの中の「目指す子供像」についての記述の中での資質・能力を上げています。その3つとは？

もちろん「」、「」、「」の3つです。

②今年度から始まった校内研修の研究教科は、「国語科」ですが、研究主題について、次のの中にあてはまる言葉を思い出しましょう。

【研究主題】

「」経験と「」喜びをにつなげる樺山っ子

sample

【第①回 研修(5月23日)の内容】(75分間)

I. 榊山「学習面での困り感CheckSheet」
(説明+作業) 【2分+20分】

II. SDQ 質問紙とUD-CheckSheetの分析交流
と手立ての確認 【3分+30分】

III. 【仮説1】に関わる“国語科授業のイメージ”
【5分+15分】

sample

I. 榊山「学習面での困り感CheckSheet」
(説明+作業) 【2分+20分】

今年度の個人カルテの1つとして考えて欲しいと思います。学習面での困り感について、6つの領域で児童把握をしていきたいと思ひます。前回のSDQと合わせることで、より細やかな対応ができると考えます。このSheetについては、0~3の4段階評価となります。

まずは、学級の児童分を作成してみましょう。

sample

II. SDQ 質問紙とUD-CheckSheetの分析交流
と手立ての確認 【3分+30分】

SDQ質問紙の表に○を入れてもらおうと、児童で集計セルに記録されます。小計の数字に合わせて、セルの色がL(水色)S(黄色)H(赤)となります。

抽出児童~この児童がしっかりと授業に参加していたかどうかでUDを意識した授業ができていたかがわかる児童。

それぞれの領域毎に、取り組むべき課題や、気を付けていくことを書いていきましょう。

sample

UD-CheckSheet

それぞれの領域毎の小計です。毎回記録。

今回の○○先生の三角チャートです。2回目三回目と違う色の線で重ねていきます。

それぞれの領域の○が付かなかった番号と、今後の取組の見通しです。係が入れています。

sample

III. 【仮説1】に関わる“国語科授業のイメージ”
【5分+15分】

授業として、いくつかの資料を準備しています。授業のイメージも付けておいたので、まずは、目を通していきましょう。

↓

今後は、今回取り組んだ、「学習面での困り感CheckSheet」の集計と分析に入ります。これで、授業案作成前の準備ができたということになります。

↓

次回からは、いよいよ指導案作成に向けての提案を行います。シンプルな板書構成や、子どもたちにも「見て」流れがわかる単元構成を探っていくことになります。

sample

今回の研修は、5月30日(木)S研修②です。
NITSを使った特別支援教育に関わる視聴研修です。

★児童の実態把握とともに教師のUD度を点検するCSも取り組んでいます。

榊山UD-CheckSheet

★左が「児童の強さと困難アンケート(SDQ)」と中が「学習面でのCheckSheet」です。

★LDCの集計と、SDQの集計をグラフ化し、学年としての学習に對する困り感や、情緒性などを視覚化する。授業でのUDの考え方を取り入れた、進め方の参考にしていきます。

★児童と向き合う教師としてのUD度を定期的に△チャートで表示(視覚化)することで、今後バランスよく学級経営で取り組むべきことを把握し、実践へとつなげていくことをねらっています。

Yの榊山UD-CheckSheet

毎回PP提案の最後のページは、次回の研修日と研修内容のお知らせをしています。

2. ワークショップ型討議の実際について

ワークショップ型研究討議 Q & A

※Q & A形式でワークショップについて説明していきます。

<ワークショップ型研究討議>

小集団交流を用い、話し合いの活性化と共有化を図る研究討議の方法。付箋紙を用いた技法を多用します。

Q 1 ワークショップ型の討議とは何ですか？

A 1 「ワークショップ」とは、「体験型講座」を表し、参加者が経験や作業を披露したり、ディスカッションしたりしながらスキルを伸ばす場の意味です。～型講座とは、その形態を利用した討議のことです。

Q 2 どのように行えばよいのですか？

A 2 ワークショップに、「これ」といった決まった方法があるわけではありません。

Q 3 ワークショップ型で行うメリットは何ですか？

A 3 全員の参画意識を高め、研究の成果や課題、改善策の共有化を図ることができます。

Q 4 ワークショップ型討議はどのような場面で活用することができますか？

A 4 研究授業の事後研が代表的ですが、指導案検討の場や、年度末のまとめ、新年度の主題設定の場合など様々な場面での活用が可能です。

<ワークショップ基本モデル>

事前準備

- 準備物 … 付箋紙・サインペン・カラーマジック・ワークシート・ホワイトボード・移動黒板など
- グループ構成 … グループ内の役割分担
- 実施方法の検討 … 付箋紙の色使い・付箋紙の書き方

事前準備 編

Q 5 付箋紙には「きまり」がありますか？

A 5 付箋紙は、その大きさや色、書く内容などワークショップの方法によってさまざまなものが考えられます。

Q 6 カラーマジックは何に使うのですか？

A 6 付箋のグループ化や関係づけをするとき、テーマごとに色分けするとき、改善策をまとめるときなどに使います。

Q 7 ワークシートとはどのようなものですか？

A 7 「拡大指導案」「概念化シート」「マトリクス表」など様々です。

Q 8 グループはどのように組めばよいのですか？

A 8 経験年数、担当教科、担当学年などを考慮し、協議が広がり、深まるようにします。(4～5名)

Q 9 グループ内の役割分担にはどのようなものがあるのですか？

ファシリテーター：議論に対して中立な立場を保ちながら話し合いに介入し、議論をスムーズに調整しながら、合意形成や相互理解に向けて深い議論がなされるよう、調整する役割を負った人。

研究協議

《授業者から》

○授業者による説明 … 授業についての補足説明

《グループ討議》

○ワークシート上に付箋を貼り出す。 ○貼り出された付箋を概観し、同内容のものをグループ化する。

○グループに小見出しをつける。 ○グループ間の関係を見つけ出す。

○成果と課題を明らかにする。 ○課題に対する改善の方向性を見出す。

《全体協議》

○各グループが一定時間で発表する。

○各グループが発表した成果と課題について、ホワイトボードなどにまとめながら共通理解を図る。

Q 10 どれくらいの時間配分で行いますか？

A 10 時間配分は様々ですが、一定の時間を設定して長引かせないことも大切です。

Q 11 授業者もグループに入るのですか？

A 11 各グループの討議を見て回ったり、一つのグループに所属したり、授業者が複数の場合は、授業者でグループをつくったりしてもよいでしょう。意見をもらいたいことなどを投げかけてみるのもよいでしょう。

Q 12 グループ協議はどのように始めればよいですか？

A 12 各個人で書き出した付箋をワークシートに貼ってスタートさせましょう。一斉に貼ってもよいですし、一人が貼ったものに対して同類のものを説明しながら貼っていくのもよいでしょう。

Q 13 付箋をグループ化するとはどういうことですか？

A 13 付箋に書かれたことばや内容で同じものをまとめることを指します。言葉は違ってても内容で共通性を見出せれば、同じまとまりとしてグループ化します。

Q 14 「小見出し」をつける意味は何ですか？

A 14 そのまとまりに「小見出し」をつけることで、付箋の集合を価値づけします。

Q 15 「課題」だけではダメですか？

A 15 共有化が大切なので、「成果」についても共通理解し、今後に積み上げていくことを確認します。

Q 16 「改善の方法」とは何ですか？

A 16 参加者のイメージを付箋によって発散させ、そのグループ化によって焦点化した後は、成果と課題を具体化させ、日常へ還す「実際化」を図ります。日常へ還すための方策を「改善策」ととらえましょう。

Q 17 グループ発表はどのようにしますか？

A 17 「グループ化」「小見出し付け」「関連づけ」などで話し合われた内容をコンパクトに説明します。発表者が発表しやすい協議にすることが、発表しない人たちの役目です。

Q18 ホワイトボードにまとめるのはだれですか？また、どのようにまとめますか？

A18 研修の主担当やファシリテーターの一人が行うのがよいでしょう。各グループの発表の中での相違点や共通点などをつながけながら、グループ協議のつながりを視覚化します。

まとめ

○明らかになった成果と課題についてまとめるとともに、改善の方向性を示す。

Q19 まとめや助言はだれがするのですか？

A19 研修担当がまとめたホワイトボードや、できあがったワークシートを改めて全員で確認します。研修の概要を紙面にまとめて後日提示するなども資料として有効です。

<ワークショップ基本モデル>

ワークショップ型討議は、あくまで一つのツールにすぎません。付箋紙を使ったからといって、必ず討議が深まるというものでもありません。実施する集団の意識が大切です。

Q20 討議の質を高めるためにはどうすればいいですか？

A20 いくら付箋紙を使っても、参加者の中にないものは出てきません。普段の実践から常に課題意識を持つことが大切です。

Q21 ワークショップ型討議の山場はどこですか？

A21 まさしく「A16」がクライマックスです。参加者のイメージの「発散」から始まり、「焦点化」「具体化」「実質化」していく場面が重要なポイントです。

A2 ワークショップに決まったやり方はありません！

ワークショップ型研究会に決まったやり方があるわけではありません。協議自体の流れや付箋の種類、使い方、ワークシートの種類など、その集団の必要に応じて計画します。そのため、準備や計画には時間がかかることも予想されます。

また、協議の質が高まるなど集団自体の質が熟成すると、同じ方法では物足りなくなるかもしれません。実践しながらいろいろな方法を試して、その学校にあった方法を考えていくことが大切です。

A 中学校

- I はじめの言葉
- II 校長の話
- III 研究協議
 - 1 部会の取組（部会長）
 - ・研究主題について
 - ・手立てについて
 - 2 授業について
 - ・授業者から〔5分〕
 - ・質疑〔5分〕
 - ・ワークショップ型〔35分〕
 - ・全体討議型〔20分〕
 - 3 指導助言〔20分〕
 - 4 感想カード記入
- IV 校長より
- V 連絡事項
- VI 終わりの言葉

B 小学校

- I はじめの言葉
- II 日程説明
- III 研究協議
 - 1 ブロック討議〔30分〕
（ワークショップ型）
 - ・KJ法（概念化シート）
 - 2 全体討議①
 - ・授業者から〔5分〕
 - ・ブロック討議発表〔5分〕
 - ・質疑応答〔20分〕
 - ※3ブロック分〔30分×3〕
 - 3 全体討議②
 - ・ブロック間交流を終えて
- IV 研修担当より
- V 校長（指導主事）より
- VI 終わりの言葉

C 中学校

- I はじめの言葉
- II 研究協議
 - 1 教科主任から
 - ・研究会の趣旨と流れ
 - 2 授業者から
 - ・授業のねらいについて
 - ・授業後の感想
 - 3 協議（ワークショップ型）
 - ・概念化シートによる課題確認
 - ・ブレインストーミングによる協議
 - 4 課題の整理
 - ・ワークシートで成果、課題の整理
- III 連絡事項
- IV 終わりの言葉

A 3 共有化を図ることができます！

- ◇幅広い参加者の発言が促されます。 ◇参加者の「距離感」が縮まります。
- ◇中学校でも教科の壁を越えた議論が容易になります。
- ◇繰り返すごとに、参加者が内面を開くようになります。
- ◇議論が焦点化しやすくなります。 ◇多面的な見方ができるようになります。
- ◇限られた時間の中で議論を集約することができます。

というようなメリットが考えられますが、一番の「良さ」は、職員集団で課題や成果を「共有化」できることです。また、改善策が参加者に共通に理解され、足並みをそろえた集団研究が進められることが最大のメリットなのです。

大勢の中での話し合いでは、他の人と同じことを繰り返して発言しにくい雰囲気になりますが、ワークショップ型では、「みんなが同様に感じていたこと」をそれぞれの言葉で話し合うこともできます。

それぞれの個人の中に存在する、学習指導に関する「暗黙知」が形を成して表出し、「共有化」され、集団としての財産になるところもワークショップ型討議のよいところと言えるでしょう。

A 4 様々な場面での活用が可能です！

ワークショップ型討議では、研究授業の事後検討が一般的に広く適用されていますが、様々な場面で活用が可能です。

- ①職員一人一人の考えを引き出したい。 ②一つの事象を多面的にとらえたい。
- ③成果や課題、解決策を明確化したい。 ④職員間で共有化したい。

という場面であれば、いつでも活用できる应该说よいでしょう。もちろん校内研修に限らず、生活指導や教育課程など学校としての問題点などを検討するときにも有効です。

Plan

○研究主題を設定するために…

- ・学校の教育課題を分類、整理するときに「ワークショップ型討議」
- ・児童・生徒の実態を把握するときに「ワークショップ型討議」

Do

○授業実践（校内研究授業）を充実させるために…

- ・指導案検討において「ワークショップ型討議」（Plan）
- ・事後検討会において「ワークショップ型討議」（Check & Action）

Check & Action

○1年間の授業実践をまとめ、次年度への展望を持つために…

- ・年間の成果と課題を分析するときに「ワークショップ型討議」
- ・課題解決へ向けた改善策を検討するときに「ワークショップ型討議」



校内研修以外でも…

- 校内の生活指導上の問題点を把握するときに…
- 目指す子ども像を改善するために、児童・生徒の実態を把握するときに…
- 教育課程を改善するために学校行事に対しての課題を分析するときに…
- 年間指導計画を改善するときに…

A5 大きさや色など学校独自に決めましょう！

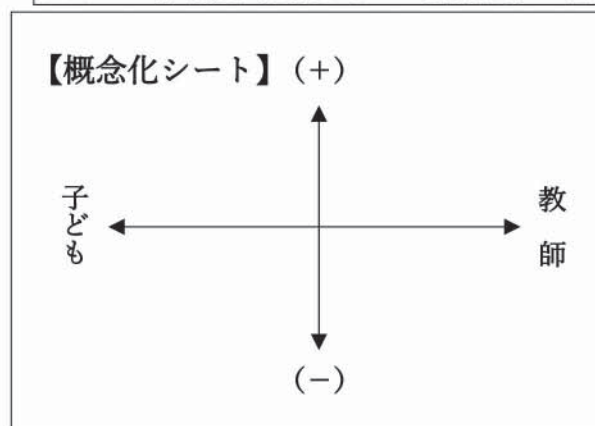
付箋は参加者の考えを他の人に示し、議論の俎上に乗せるための道具です。話し合いの中で、他の考えと結びつけたり、対置されたりすることで広がりや深まりを持つようになってきます。その作業をするときに、貼り替える作業をするために付箋紙は有効です。

大きさは、ワークシートを模造紙サイズにするのであれば、付箋紙は名刺サイズのもので使いやすいでしょう。完成したワークシートを印刷するためにA3サイズのワークシートを使うなら、それに合わせて小さめの付箋にします。

付箋の色による役割分担例			
	例①	例②	例③
黄付箋	課題	教師の姿	視点に関わる
青付箋	成果	子どもの姿	視点に関係なく
赤付箋	なし	改善策	なし

※ワークシートの種類、分類項目なども考慮して設定します。

A7 学校が抱えている課題に合わせてワークシートを検討しましょう！



○横軸は「子ども」と「教師」
 他にも…「研究の視点に関する」と「視点外」
 ○縦軸は「成果 (+)」と「課題 (-)」
 <メリット>
 ・教師と子どもなど、二つの視点から成果と課題を出し合うので、関連付けながら改善策を見出せる
 <デメリット>
 ・他のシートに比べ、枠組みに自由度が増すため、構造化に時間がかかる。

【拡大指導案】		
	学習活動	支援・評価
導入	○前時の想起	見通しの立たない児童には支援カードを配布する。
	○課題把握	
	○自力解決	
展開		
	○全体交流	
終末	○まとめ	
	○定着問題	

○横軸は、「児童の活動」「教師の支援・評価」など
 ○縦軸は、「導入」「展開」「終末」など
 ※指導案の書き方による
 <メリット>
 ・授業の展開に沿って協議できるので、ワークシート型に慣れていなくても扱いやすい。
 ・学習過程や教師の手立てのどの段階に成果や課題が集中しているかが可視化される。
 <デメリット>
 ・協議内容が本時に限定されやすい。

【マトリクスシート】

	視点①	視点②	視点③
成果			
課題			
改善策			

○横軸は、「協議の視点」
○縦軸は、「成果（＋）」と「課題（－）」と
「改善策・助言」

<メリット>

- ・焦点化された支店に沿って協議できる。
- ・成果や課題、改善策を連動させながら協議しやすい。

<デメリット>

- ・視点以外の事項について意見が出にくい。

A10 時間配分は、やり方によって様々ですが、きちんと決めましょう！

ワークショップ型の討議では、活動ごとに時間配分を定め進めるのが望ましいです。初めて行う場合など多少のゆとりは持たせますが、間延びした話し合いにならないように、きちんとしたタイムテーブルを設定するのがよいでしょう。

例①

14:10	事後研開始	
14:15	ブロック研（低・中・高）	（20分）
	（同一教室で）	
14:35	低学年ブロックについて全体討議	（20分）
14:55	中学年ブロックについて全体討議	（20分）
15:15	高学年ブロックについて全体討議	（20分）
15:35	全体を通して ～ まとめ	（10分）
15:45	学校長より	（5分）
15:50	研修終了	

例②

14:15	授業者より	（10分）
14:25	報告・課題グルーピング	（20分）
14:45	改善策付箋記入	（10分）
14:55	報告・改善策グルーピング	（20分）
15:15	各グループ発表	（10分）
15:25	助言者講評	（20分）
15:45	学校長より	（5分）
15:50	研修終了	

3. 校内研修のパッケージ化の取組

校内研修パッケージ①

学級経営交流会

区分 学級経営

ねらい ① これまでの学級経営の成果や課題を伝え合うとともに、各学級の取組の様子を知る。

② 今後の学級経営に生かす。

内容 日常の学級における指導や取組（学習規律、学習指導、生徒指導など）について

時期 学期末など

時間	研修の進め方
2分	ねらいの共有 内容の確認
15分	3人1組（トリオ）で学級の取組を1人ずつ簡単に紹介…①
15分	ワールドカフェ方式で交流…②
5分	最初のトリオで他のグループの情報をシェア
3分	研修担当から全体として見た成果や課題を伝える

【所要時間】



40

分程度

【準備物】

研修担当 ☐ A3程度の紙
(各グループ2枚程度)

☐ ペン

参加者 特になし

【参加者の声】

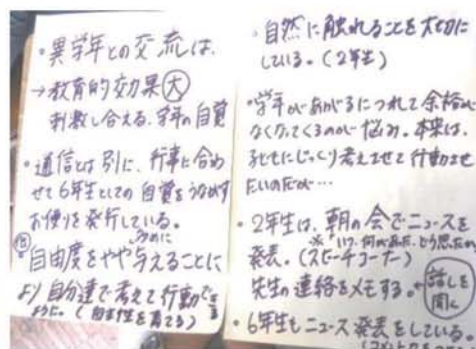
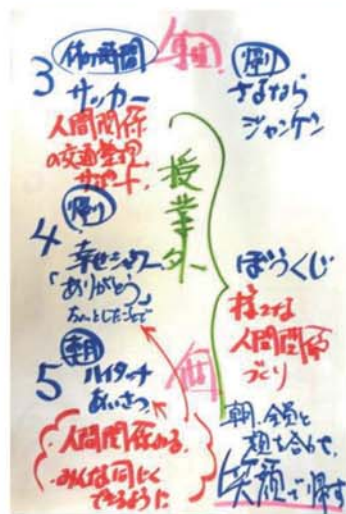
- ◇今後職員室の何気ないやりとりでも話題にして、議論を深められればよいと思います。
- ◇いろいろ話せてすっきりしました。
- ◇今一度自己を振り返るよい機会になりました。
- ◇他の学年の取組を自分の学年でもアレンジして試したいと思います。

実施上のポイント

3人1組（トリオ）で学級の取組を紹介し合う…①

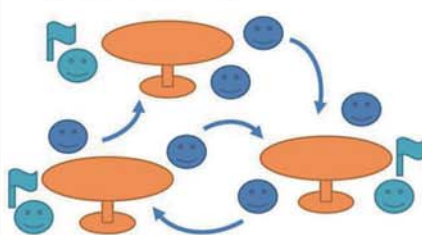


3人1組を数グループ作り、学級で日頃取り組んでいるちょっとしたことを話題にします。担任外やT・Tの先生方は、これまでの実践や関わりのある学級のよいと感じている取組などを紹介します。配付された用紙には話題になったことを書き残しておきます。なお、グループの人数やグループ数は自校の職員数に合わせて変更してもよいです。



ワールドカフェ方式で交流し合う…②

ワールドカフェのイメージ図



1. テーブルを1つの国に見立て、テーマについて話し合う。
2. 参加者を換人に見立て、別の国へ移動する。（進行役は移動しない。）
3. 最後に、最初の国に戻り、結果を話し合う。

左の図のように1人を残し、別のグループの場所へ移動します。残った1人は集まってきた人に、先ほどまでグループで話していた内容を伝えます。この後、最初のグループに戻り、情報をシェアします。

家庭学習交流会

区 分 学習指導

ねらい ① 各学年・学級の家庭学習指導の実際を知り、アイデア等を学び合う。
② 今後の家庭学習指導に生かす。

内 容 家庭学習ノート等を使った取組紹介

時 期 随時

時間	研修の進め方
2 分	ねらいの共有 内容の確認
15 分	各学級の児童のノート等を見たり、紹介し合ったりする…①
10 分	学校全体での取組状況を把握し、今後の方向性を共有する…②
3 分	研修担当から話題に上ったことを確認し、総括する

【所要時間】



30 分程度

【準備物】

研修担当 特になし

参加者 児童の家庭学習ノート
取り組ませているプリント等

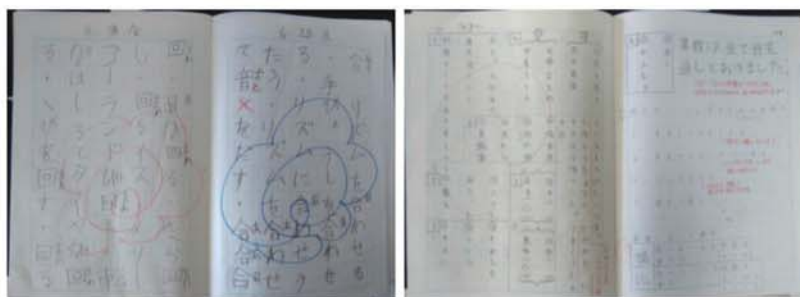
【参加者の声】

- ◇今更取り立てて聞くほどではないと思っていたけれど、実物を見ながら話してみると有益なことがたくさんありました。
- ◇掲示されているノート例以外の様々な子どもたちの普段の家庭学習ノートから本校の実態が分かる部分がありました。
- ◇もっと日常の授業と家庭での学習を連動させられるよう授業計画を作っていこうと思いました。

実施上のポイント

各学級の児童のノート等を見たり、紹介し合ったりする…①

持ち寄った児童の家庭学習ノート等、実物を用いて取組の状況を自由に眺め、交流していきます。どのような過程を踏んで現在に至っているのか等、直接見えない部分は積極的に質問し合います。



学校全体での取組状況を把握し、今後の方向性を共有する…②



学校全体としての取組状況を全体交流の中で明らかにしていきます。学年の系統性や小中連携、日常の教科指導との関連など、配慮すべきことや今後の方向性について共有します。自校で作成している「家庭学習の手引き」が実効性を伴った有効な手立てとなっているかも考えてみるとよいです。

特別支援教育

区 分 特別支援教育

ね ら い ① 学校生活や授業中に特別な支援を要する児童・生徒や困り感を抱えている児童・生徒についての様子を伝え合うとともに指導上の悩みを校内で共有する。

② 改善の方向性や連携できる専門機関等について話し合い、今後の指導に生かす。

内 容 日常の学校生活や授業における特別な支援が必要な児童・生徒について

時 期 研修日など

時間	研修の進め方
2 分	ねらいの共有 内容の確認
5 分	今日的な課題の紹介 特別な支援を必要とする 子どもの例…①
15 分	3 人 1 組（トリオ）で日頃 の指導における悩みについて 1 人ずつ簡単に紹介…②
15 分	各トリオで話し合った内容に ついて情報をシェア、改善の 方向、連携機関等の話し 合い…③
3 分	研修担当から全体として見 えた成果や課題を伝える

【所要時間】

40 分程度

【準備物】

研修担当 □A3 程度の紙
(各グループ2枚程度)

□ペン □付箋

参加者 特になし

【参加者に還元したい内容】

◇何気ないことでも共有することで気持ちや軽くなったり、今後の指導に活かすヒントが得られたりすること。

実施上のポイント

今日的な課題の紹介（特別な支援を必要とする子どもの例）…①



（資料：新潟大学 長澤正樹 教授）

・身体障害 ・知的障害 ・発達障害特性

・二次障害 ・英才児 ・LGBT など



3 人 1 組（トリオ）で日頃の実践やよかったと感じている取組を紹介し合う…②

3 人 1 組を数グループ作り、学級で日頃取り組んでいるちょっとした悩みを話題にします。日頃の実践やよかったと感じている取組などを紹介します。配付された用紙には話題になったことを書き残しておきます。なお、グループの人数やグループ数は自校の職員数に合わせて変更してもよいです。

話し合いの内容のシェア、改善・連携機関等の話し合い…③

各トリオの中から 1 人がグループで話し合った内容を発表します。その後、全体で、共通する悩みや効果的だった取組を共有します。必要に応じて、改善策や連携する専門機関等があれば、方法や時期について話し合います。

オンライン研修会

区分 授業改善

ねらい ① 校内研修の内容に沿った講座を視聴し、研修を深める。

② 教材研究や指導案検討や事後研修に生かす。

内容 NITS（独立行政法人教職員支援機構）オンライン講座を活用して研修を深める

時期 指導案検討・事後研修など

時間	研修の進め方
2分	ねらいの共有 内容の確認
20分	NITS 校内研修シリーズ⑤ 「主体的・対話的で深い学び」を視聴する…①
15分	指導案検討や事後研修に 生かす…②
5分	各グループの交流内容を全 体で交流する
3分	研修担当から全体として見 えた成果や課題を伝える

【所要時間】



45

分程度

【準備物】

研修担当 ☐ 模造紙・付箋・ペン
(各グループごと)

☐ 視聴用テレビ

参加者 指導案等

【参加者の声】

- ◇とてもわかりやすい講座の内容で、特に、「深い学び」のイメージができました。
- ◇普段から「深い学び」となる授業を進められるよう、教材研究で気をつけるようになりました。
- ◇授業を観る視点が広がりました。

実施上のポイント

NITS 校内研修シリーズ⑤「主体的・対話的で深い学び」を視聴する…①

校内研修における指導案検討や事後研修、また日々の教材研究において参考となるテーマを取り上げて視聴し、研修に生かします。

今回は、NITS 校内研修シリーズ No.25「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けてを選択しました。内容は、「主体的・対話的で深い学び」における「深い学び」の具体像を提示し、実現に向けて大切となる「見取る」「つなぐ」授業やこれらの学びを促進するために必要な教師力などについて解説しています。



オンライン講座で学ぶ
校内研修シリーズ
1～42

校内研修シリーズは 42 項目が配信されています。各校の校内研修に即した内容を選択して活用すると、研修の参考になると思います。

指導案検討や事後研修に生かす…②

主体的（粘り強く取り組み）、対話的（互いの考えを比較しながら）で、深い学び（自分の考えを形成していく）となっていたか、生徒の姿や教師の手立てから見よう公開授業を行い、事後研修を行っています。



授業を観ながら付箋に気が付いたことを記入し、事後研修でまとめています。

自分語り、もやもや語り・マンダラを使った課題設定

区分 組織づくり

ねらい ① 得意なこと、課題について話したり聞いたりすることにより、協力しやすい雰囲気を作る。

② 自分の課題を確認するとともに、仲間と協働し解決することの良さを感じる。

内容 協働体制づくり、課題設定

時期 研修の始まり

時間	研修の進め方
2分	ねらいの共有 内容の確認
10分	自分語りを行う
10分	もやもや語りを行う
15分	マンダラを使った課題解決
3分	感想交流

実施上のポイント

全員で自分語り・もやもや語りを行う

チームとして相談しやすい雰囲気づくりの手始めとして、1人1人が話をする場面を設けます。

① 自分語りを行う

自分の得意なこと、学級経営で嬉しかったこと、教員になったきっかけ、将来の夢、自慢したいことなどポジティブな事柄を話す。

② もやもや語りを行う

自分の課題、悩み、解決したいことなどを話す。

【所要時間】



40 分程度

【準備物】

研修担当 ☐ マンダラシート

☐ ペン

参加者 特になし

【参加者の声】

- ◇自分が気付かなかったアイデアを、他の先生から教えてもらい参考になりました。
- ◇普段聞けない先生方の話が聞けて、面白かったです。
- ◇全員に話す機会があり、心がより打ち解けた気がしました。

（留意点）

- ・話す時間は、1人1分程度を目安とする。
- ・参加者は、共感的な態度、否定的な発言はしないということを初めに確認する。

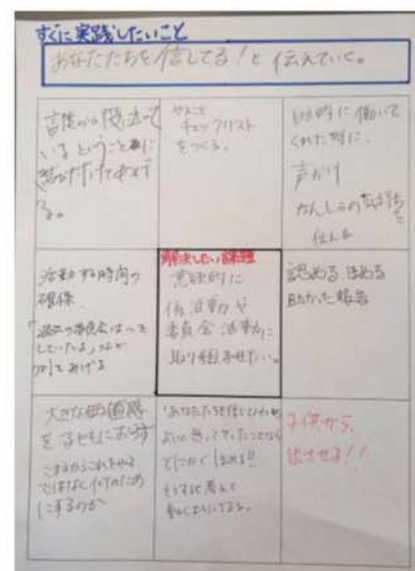
マンダラを使った課題設定、全員で解決

① マンダラシートの中央に、自分の解決したい課題を記入する。

② 時計回りにシートを回し、同僚の先生に課題の解決法を書いてもらう。

※解決法を1つ書いたら、隣の先生に渡す。

③ 全てのマスに解決法が書かれたら、その中から1つ、今すぐ実践したいことを選び、記入する。



メンター研修会

区 分 学級経営

ねらい ① メンターによる学級経営のポイントやアイデアを学び、研修を深める。

② 学級経営の実践に生かす。

内 容 メンターの実践を紹介しメンティを支援する。

時 期 年度初めなど

時間	研修の進め方
2 分	ねらいの共有 内容の確認
15 分	メンターからの提案「学級経営の実践」…①
10 分	メンティの実践や悩みなどの交流…②
3 分	研修担当から全体として共有すべきことを確認する

【所要時間】

30 分程度

【準備物】

研修担当 ☐ メンターとの連携

☐ 視聴用テレビ

参加者 ☐ 特になし

【参加者に還元したい内容】

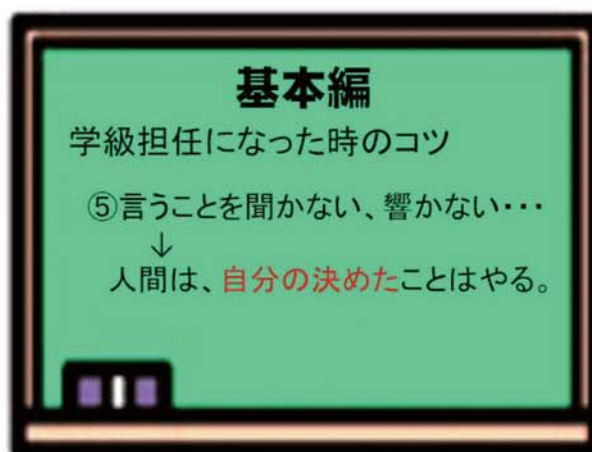
◇メンターの実践例を知ることで、メンティの学級経営や授業づくりのヒントとなる。

◇メンティの不安や悩みの解消につなげる。

◇メンティを学校全体で支える手立てとする。

実施上のポイント

メンターからの提案「学級経営の実践」…①



メンターが実践してきた学級経営のコツや、学校全体として連携していきたい内容などをメンティに伝える。

メンティの実践や悩みなどの交流…②

メンターとメンティによる交流を行う。

メンティの実践での悩みや不安をメンターと共有し、メンターはメンティへの助言や支援を行う。

学校全体で共有すべきことは全体で共有し、今後の方向性を確認する。



メンターとメンティの信頼関係を高め、相乗効果が得られるような関係に努める

【第3章】

検証授業

国語科学習指導案

日 時	令和元年 10 月 24 日 (木)	5 教時
生 徒	蘭越町立蘭越中学校	第 2 学年 33 名
授業者	須 貝 満 恵	

1、教材名 【書く】「根拠を明確にして意見を書こう」意見文を書く

2、教材について

本教材は、「書くこと」領域の教材であり、自分の立場や考えを明確にしたうえで、根拠をあげて説得力をもった「意見文」を書くことを目指している。読み手に、自分の意見を理解あるいは納得してもらうためには、主張を支える根拠やその根拠に基づいた理由を述べるとともに、主張と根拠・理由（客観的事実に対する自分の解釈）の整合性が必要になってくる。したがって、根拠や理由が書けていることに満足せず、その信頼性、妥当性について吟味するところまで学習を進めたい。

また本教材では、自分の立場を決めた後、それと反対の立場から反論をするという活動がある。そのことにより、ものごとを様々な角度からとらえる習慣を身につけさせ、批判的思考力を育成することができる。

昨年度（1年生）は、『根拠を明確にして書こう』で、聞き手が読みやすい論理展開（ナンバリング、ラベリング）を学習した。今年度は昨年度学んだことを発展させ、より説得力のある文章にするためナンバリング、ラベリングを活用しながら、更に「反論・再反論」を取り入れることで相手を意識した深まりのある文章にしていきたい。また、「書く」の領域にとらわれず自分のものの見方やとらえ方に固執せず、柔軟かつ多面的にものごとを捉える態度を育んでいきたい。

3、生徒の実態

積極的に授業に参加しているが、「書く」の領域では苦手意識を持っている生徒が多い。その理由として、「何を書けばいいかわからない。」「書くことがない。」「書き方がわからない。」というものがあげられる。

そこで本教材では、1時間ごとの学習課題を明確にし、1つのフォームに基づきながら、説得力を持つ意見文の「型」を身につけさせたい。

また、普段から友達の意見を聞くと納得してしまい、質問や反対意見が出ないことが多いことから、「反論の予想」が難しいことが予想される。そこで、友達にアドバイスをもらいながら複数の反論を想定し、そこから自分の論を優位に進められる反論を選択することで、より説得力のある意見文になるようにしたい。

さらに、互いのテーマが多岐にわたると、土台となる知識がなく、話し合いも膨らまないことから、簡単なテーマに絞り、誰もが「書ける」授業を展開していきたい。

4、校内研修との関わり

蘭越中学校研究主題

「学びに向かう力を持った生徒の育成」
～主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して～

【研究の視点1】

「主体的な学び」では、身近なテーマを設定し、学習の見通しを持たせ、生徒が主体的に考えを発展させることで、学んだことを次に生かし、「何ができるようになるか」という視点での指導を展開する。【興味や関心を持つ】【見通しを持つ】

「対話的な学び」では、まず第3・4時の「情報の収集」において、インターネットの利用、身近な人へのインタビュー、アンケート調査など多様な情報収集を行わせたい。様々な媒体を通して、様々な情報と対話することで、これまでの知識や経験では得られなかった知見を得ることができると考える。【多様な情報収集】

また、「ペア」「グループ」で、「反論の想定」をアドバイスし合ったり、「相互評価」を付箋に書く場面を設定し合ったりと互いに考えを広げたり、深めたりするようする。【協働して課題解決する】

【研究の視点2】

「深い学び」では、「自分の考えが伝わる文章」を書くために、根拠とする事実や事柄と、記述する文章における表現の相互関係、また、根拠そのものについて吟味したり、再考したりする学習場面を随所に設定することで、生徒の深い学びにつなげていきたい。【自分の考えを形成する】

5、単元目標

- ・課題に適した情報を集めて、自分の考えを持つことができる。（書く（1）ア）
- ・自分の意見と根拠を明確にして、効果的に伝わるよう文章構成などを工夫して書く。（知（2）ア、書（1）イ・ウ・エ）
- ・意見や根拠を明確にしなが、主体的に取り組むことができる。（関・意・態）

6、単元の指導計画と評価計画

【単元を貫く学習課題】		
・自分の意見とその根拠を明確にして、文章構成を工夫して書こう。		
時数	指 導 計 画（ 8時間扱い 本時 7/8 ）	評 価 規 準
第1時	【振り返り】 ○1年次で学んだ「ナンバリング」「ラベリング」の活用して、簡単な文章を書く。 ○自分の文章を振り返る。 ・意見が明確で、その意見に根拠があるか。 ・客観的なデータがあるか。 ○友達同士で反論、それに対する再反論をする。 ○自分の考えだけで、客観的なものがないことを確認する。	【書】 自分の意見（立場）に関して、根拠をあげて述べている。 【関】 昨年度の内容を思い出し、進んで発言したり、相手の話を聞こうとしている。
第2時	【練習】 意見文の説得力を考える。 ○A・Bの教材文を読み、説得力のある方を選び、その理由を考える。 ○説得力のある文章にするためにはどのようなことが必要か考える。	【書】 意見を効果的に伝えるための要素として、根拠と反論に対する考えの示し方を理解している。 【関】 意見文における説得力の必要性を理解し、そのための工夫を文章の中から見つけようとしている。
第3時	○テーマに沿って、自分の立場を明らかにし、「ナンバリング」「ラベリング」を使った文章を書く。 ○自分の意見を支える根拠となる情報を、多様な方法を用いて集める。	【書】 テーマに対する立場を明らかにし、理由をナンバリングを用いて書いている。 【関】 自分の意見を支えるために、どんな情報が必要かを考えている。
第4時	○自分の意見を支える根拠となる情報を、多様な方法を用いて集める。	【書】 説得力のある意見文を書くために有効な根拠かどうか、精選しながら情報を収集している。
第5時	○集めた情報を整理し、意見文の下書きを書く。	【書】 集めた情報を整理し、「客観的事実」と「自分の捉え方」を分けて書いている。

第6時	○反論を想定して書く（付箋で貼り付け） ○同じ立場の友達からアドバイスをもらう（グループ） ○友達からの反論を参考に、自分の意見を強固にするための反論を決め、再反論を想定する。	【書】相手の意見に対して論点のかみあった反論を展開している。 【関】反論に対する自分の意見を主体的に考えようとしている。
第7時 本時	○反論と再反論を入れた文章のフォームについて話し合い、確認する ○アドバイスをもとに、反論と再反論を入れた文章を、フォームに従って書く ○書いた文章を交流し、友達からアドバイスをもらう（テーマにこだわらない3人グループ）	【言】意見文にふさわしい論の展開や、語句の使い方などに気づいている。 【書】相手からの反論に対して、論点のかみあった再反論を展開している。
第8時	・根拠や反論を踏まえ、改めて自分の意見をまとめる。 ・前時の交流を生かし、更に説得力のある文章に仕上げる。（清書） ・清書された文章の交流。授業を終えて、その効用の交流	【書】自分の意見とその根拠を明確にして、文章構成を工夫して書いている。 【言】書き言葉として適切な表現を心がけることができたか。 【関】交流で得たことや友達の記事のよいところを今後の自分の文章に生かそうとしている。
【単元で目指す生徒の姿】 自分の立場を決め、文章構成を工夫して、根拠を明らかにした「意見文」を書ける。		

言葉による見方・考え方 自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること。	【深い学びを目指す手立て】 「自分の考えが伝わる文章」を書くために、根拠とする事実や事柄と、記述する文章における表現の相互関係、また、根拠そのものについて吟味したり、再考したりする学習場面の設定 【自分の考えを形成する】
---	---

7、単元の評価規準

関心・意欲・態度	書 く	言語に関する知識・理解
・自分の立場や意見が伝わるように、根拠を明らかにして書こうとしている。	・自分の立場を決め、根拠を明らかにして、構成を工夫して文章を書いている。 ・意見とそれを支える根拠との関係性を明確にして書いている。	・意見文にふさわしい論の展開や、語句の使い方などに気づいている。

8、本時の目標

- ・意見文にふさわしい論の展開や、語句の使い方などに気づくことができる。
- ・相手からの反論に対して、論点のかみあった再反論を展開することができる。

9、本時の展開

	生徒の学習活動	教師の働きかけ	評価・備考
導入 (7分)	1、挨拶 2、漢字学習 3、振り返り（ペア） ※今回のテーマ ・中学生のインターネット使用に制限は必要か。 ・電車やバスに優先席は必要か。	○学習への意識づくり ○前時の確認	
展開 (36分)	4、本時の目標と確認 「反論」に対して、みんなが納得する「再反論」を書こう。 5、文章のフォームについて話し合い、確認する。（ペア） 6、アドバイスをもとに、反論と再反論を入れた文章を、フォームに従って書く。（個） 7、書いた文章を交流し、友達からアドバイスをもらう。（グループ）	○フォームの用紙の説明 ○文章展開にふさわしい接続詞を考えさせる ○根拠のある再反論になることを確認 ○事前の調べた資料の引用も可能であることを補足 ○友達の再反論を聞き、納得できるかどうか、なぜできないのかを話し合うよう説明	【言】意見文にふさわしい論の展開や、語句の使い方などに気づいているか。 【書】相手からの反論に対して、論点のかみあった再反論を展開しているか。
まとめ (7分)	8、友達から受けたアドバイスを次時の清書にどう生かすか考え、友達に伝えることで整理する。（ペア） 9、全体に発表（数人）	○再反論に対して、意見が出たものは、再反論を再検討、もしくは補足するよう伝える	

10、本時の評価

○判断基準

十分満足できる状況（A）	おおむね満足できる状況（B）
・反論を取り入れた再反論を書くことで、更に説得力のある意見文を書くことができています	・主張とその主張を支える根拠がある意見文を書くことができています

○Cと判断される生徒への支援の手だて

自分が調べた資料の中に、再反論の手がかりとなるものがないか促す

「根拠を明確にして意見を書こう」

氏名

「反論」・「再反論」を取り入れた文章を書こう。

1、今回の授業は、以前学んだの手法をさらに発展させ、「反論」・「再反論」を取り入れた文章を書いていきます。

と

【不二堂】 今回取り上げるテーマ

①動物園の動物は幸せか。

3、シートを書く時のポイント

ア 自分の立場をはっきりと述べ、根拠（理由）を明確に書く。
イ 文末は「とする。（?）と考える。」である。
ウ あいまいな言い方を避け、事実と意見の区別もつける。
事実・・・はっきりとした言い方（?）だった。「?」でている。
聞いたこと（?）だそうだ。」

意見・・・言い切る「～と考える」「～のである。」

意見を提示する「しるべきである。」

控えめな言い方「さだろう」「さとも言える」
否定する「さではない。」「さとは考えられない。」

【1年生の復習】

氏名

・シート①のフォームを確認しよう。

(1) 私は

である。と考える。

(2) 理由

つある。

①まず・一つ目は

くからである。

理由の説明・具体例

②次に・二つ目は

くからである。

理由の説明・具体例

③ (まとめの言葉)

以上のことから・従って

私
は

である。と考える。

意見文の説得力を考える 氏名

【目標】意見を支える根拠を明確に示したり説得力を高めたりする工夫を考えよう。

① AとBを、読み比べ、説得力のある文章はどちらか。()

理由

②

①意見を支えている根拠として、客観的な事実を挙げているのはどちらだろう。()

②意見を支えている根拠として、客観的な事実を挙げている部分に線を引こう。

③A・Bの文章のうち、根拠と意見を結び付け、根拠と結び付けた自分の意見が書かれている部分に波線を引こう。

④A・Bの文章のうち、反論とそれに対する考えを示しているのはどちらだろう。()

⑤反論を示した部分に色ペンで線を引こう。

⑥反論に対する考えを示した部分に蛍光ペンで線を引こう。

⑦A・Bの文章のうち、説得力のあるのはどちらだろう。()

根拠を明確にして書こう1 氏名

※自分の立場とその根拠を明確にし、「ナンバリング」や「ラベリング」を活用しながら自分の意見を書こう。

自分のテーマ・立場

(1) 出だし

(2) (根拠) ※理由は

(3) まとめの言葉

根拠を明確にして書こう2

氏名

自分の意見を支える根拠となる情報を集めよう。

一、自分の意見を支える根拠として、どんな情報が必要か考えよう。

③	②	①

二、自分の意見を支える根拠となる情報を集めよう。

情報の種類 (事実・調査結果・アンケート・専門家の考えなど)			主 な 内 容	情報源 (新聞・本・インターネット) 日付
③	②	①		

根拠を明確にして書こう3

氏名

○調べた情報をもとに、自分の根拠を支える客観的事実・例をまとめて書こう。

③	②	①

根拠を明確にして書こう 4

氏名

自分の意見や根拠に対する反論を想定しよう。

課題

○自分の立場

賛成

反対

○反対意見

賛成

反対

○反対意見の根拠の想定

○反対意見の根拠の想定を踏まえ、自分の意見に対する反論を書こう。

○友達からの助言

○自分の意見を強固にするために選んだ反論

根拠を明確にして書こう5

氏名

○「反論」に対して、みんなが納得する「再反論」を書こう。

(1) 取り上げる反論

(2) それに対する再反論

根拠を明確にして書こう6

氏名

○これまで書いた意見文を友達と読み合い、意見の明確さ、反論の検討による意見の深まりなどについて話し合おう。

○グループで意見文を評価し、助言し合おう。

評価基準 (A、できている B、あと少し)

名前	評価の観点	評価	メモ
①	自分の意見が明確に述べられているか。	A・B	
②	根拠が納得できるものになっているか。	A・B	
③	反論をうまく使い、再反論できているか。	A・B	
④	反論を検討して、意見を深めているか。	A・B	
①	自分の意見が明確に述べられているか。	A・B	
②	根拠が納得できるものになっているか。	A・B	
③	反論をうまく使い、再反論できているか。	A・B	
④	反論を検討して、意見を深めているか。	A・B	
①	自分の意見が明確に述べられているか。	A・B	
②	根拠が納得できるものになっているか。	A・B	
③	反論をうまく使い、再反論できているか。	A・B	
④	反論を検討して、意見を深めているか。	A・B	

友達からの助言

メモ

根拠を明確にして書こう？

氏名

○学習を振り返り、次につなげよう。

一、説得力のある意見文を書くために、次の点に気をつけたか。

評価の規準 A、十分できた B、だいたいできた C、あまりできなかった

【自分の意見をもつことについて】

・テーマを選択し、自分の考えを書くことができた。

【説得力のある意見文を書くにあたって】

・文章の構成を工夫して書いたか。

(A・B・C)

・根拠となる事実を具体的に書くことができたか。

(A・B・C)

・反論を想定し、それに対する考えを示すことができたか。

(A・B・C)

・再反論することで、より説得力のある意見文になっているか。

(A・B・C)

二、次へつなげよう。

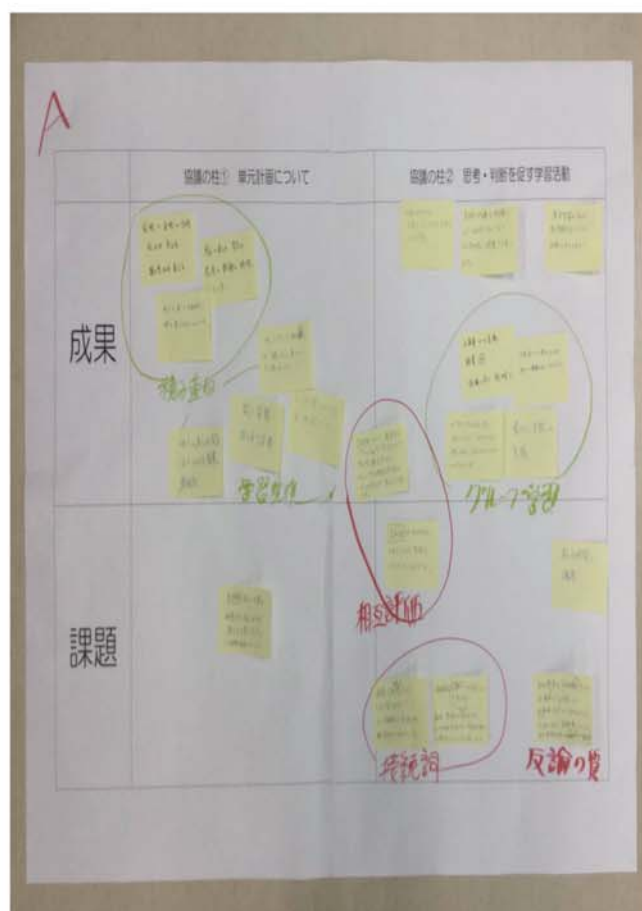
①できたと思うこと

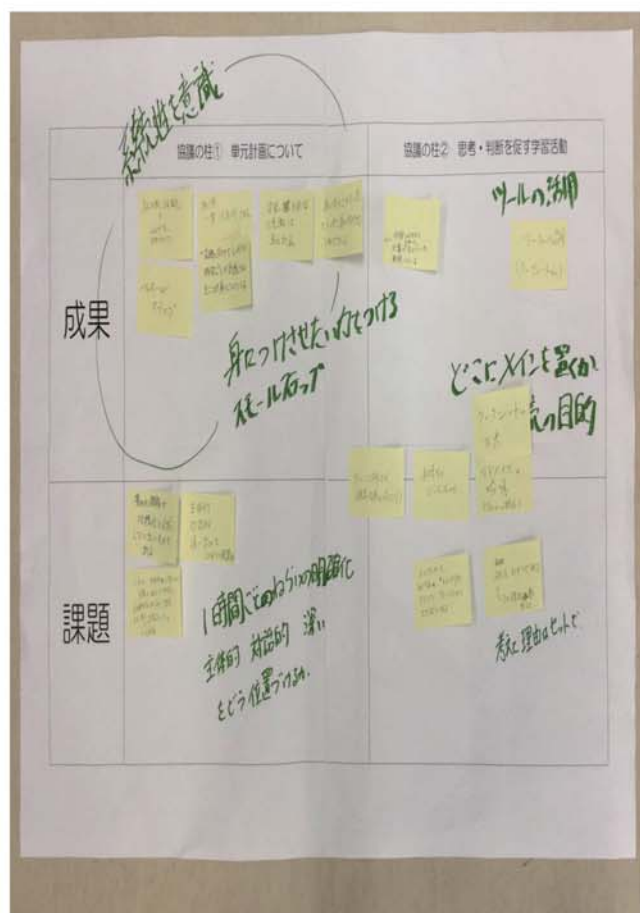
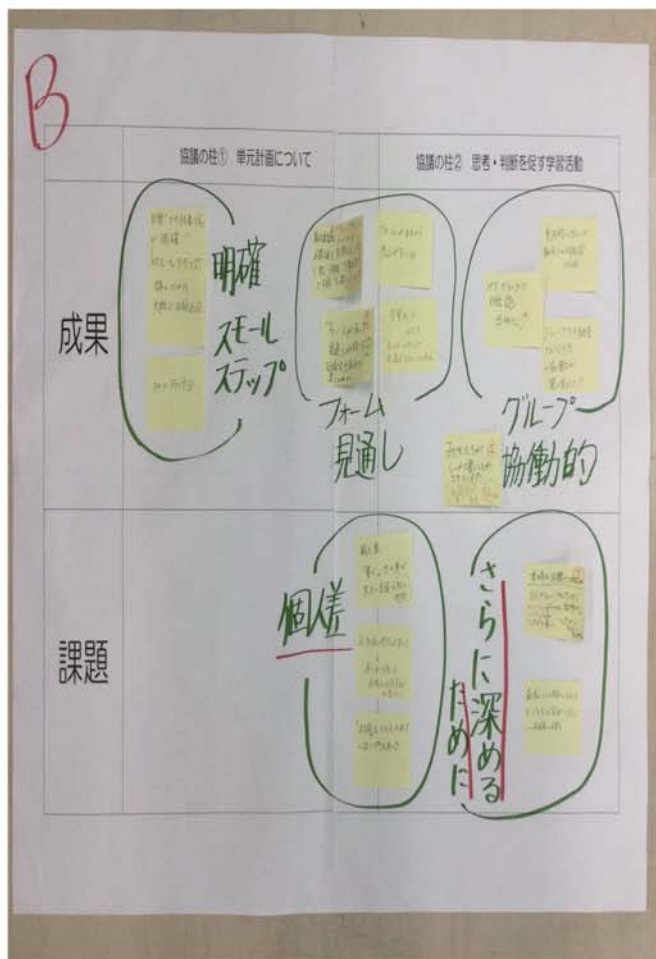
②できなかったと思うこと

③活動を通して気づいたことや学んだこと

④今後、どんな場面で生かしたいか。

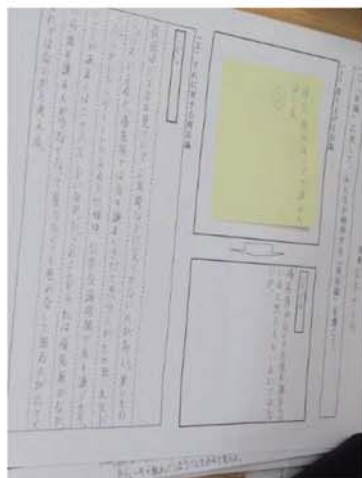
①できたと思うこと	②できなかったと思うこと
③活動を通して気づいたことや学んだこと	④今後、どんな場面で生かしたいか。





蘭越中 国語科「根拠を明確にして意見を書こう」の実践から

【単元計画について】



- 「書く」の領域が苦手な生徒が少なくない集団においても、【誰もが書ける】を目標にスモールステップを意識した計画が立てられていた。
- 【単元を貫く学習課題】が明確に示されているため、生徒が見通しを持って主体的に取り組んでいた。
- 既習内容とのつながりや単元の中での積み重ねを意識した計画が立てられていた。
- 【主体的・対話的・深い学び】の活動を単元計画に明記することで、より体系的な指導につながる。

【本時について】

- 少ない言葉でしっかりと指示を出すことで、生徒が何をすべきかを端的に捉えることができた。
- 文章を組み立てる際のフォームがしっかりと示されているため、多くの生徒が書くことができた。
- 単元を通して系統立てられたワークシートが用意されていたり、付箋を使ったりすることで活動内容が明確になり、生徒が主体的に取り組めた。
- グループ活動として、確認作業はペア、話し合いはトリオとグループサイズ工夫して授業展開をしていた。
- 根拠となる情報の信憑性を高めるために、選び方や探し方の指導を継続的に取り組む必要がある。
- トリオの話し合い活動では、アドバイスの仕方を提示したり、「よかった、分かりやすかった」だけではなく、その理由も加えて話したりすることでより活発な交流つながる。
- 本時の課題設定のような「～しよう」(Let's課題)だけではなく、「どのように、どのような」(How課題)を設定することで、本時で何を目指し、どのような活動を行うのかなど、生徒が学習の展開の見通しが持ちやすくなる。



第1学年 算数科指導案

日時 令和元年10月31日(木) 5校時
児童 真狩小学校第1学年
11名(男子5名、女子6名)
指導者 松本 純一

1、単元名 「ひきざん」

2、単元について

《教材観》

本単元で扱う11～18から1位数繰り下がりのある減法計算の仕方は、学習指導要領には以下のよう
に位置づけられている。

第1学年

A 数と計算

(2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。

ア 加法及び減法が用いられる場合について知ること。

イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実に
できること。

ウ 簡単な場合について、2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

D 数量関係

(1) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる
ようにする。

本単元では、10までの数の合成・分解の学習を活かし、半具体物を用いた活動などを通して繰り下
がりのある減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできるようにすることをおもなねらいとし
ている。このとき、「十いくつ」を「10といくつ」と捉えることによって、筋道を立てて計算の仕方を
説明できるようにすることが大切である。

減法計算は、これまでに1位数－1位数や13－3，15－3などの計算で、繰り下がりのない場合
は学習してきた。また、「たしざん」では1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法を指導したが、
本単元ではその逆の減法、すなわち11から18までの2位数から1位数をひいて繰り下がりのある減
法について指導する。繰り下がりのある計算は初出であり、次学年以降の減法の基礎となるものなので、
第1学年の大変重要な内容である。

《児童観》

本学級は、男子5名女子6名の合計 11名である。前に出てブロックを操作したり、説明したりする
ことが好きで、課題に対して前向きに努力しようとする児童も多い。また、しっかりと聞いている様だ
が中身が聞けていない児童もいるので、友達の意見の復唱を求めたりして聴くことの大切さを意識させ
てきた。

計算については、特に10までの加減法、繰り上がりのある加法の習熟を目指して取り組んでいる。10までの加法は、「20問を3分以内で」という目標は10名達しているが、減法はまだまでである。計算練習を未だに手を使っている児童もいて、習熟するのにかなり時間を要する児童がおり、学力差も大きい。文章問題については、「ちがいはいくつか」「どちらがどれだけおおいか」を求める求差が正確にできにくい。計算とともに文章問題の指導にも力を入れなければいけない。

《指導観》

- ・ 具体物を掲示したり、半具体物（ブロックや数図カード）を活用したりして、10のまとまりに着目しやすくする。
- ・ 本単元で活用できる既習事項を掲示しておくことで、自力解決をするためのヒントとする。
- ・ 書画カメラに児童の考え方を写し出し、全体で共有しやすくするとともに、理解を深められるようにする。

3、単元の目標

○十何一1位数で繰り下がりのある減法計算のしかたを理解する。

○十何一1位数で繰り下がりのある減法計算が確実にでき、用いることができる。

4、単元の評価規準

評価規準			
関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
・ 繰り下がりのある減法計算の仕方を考えようとしている。	・ 十何一1位数で繰り下がりのある減法計算のしかたを、ブロックや言葉、数、式、図を用いて考えている。	・ 十何一1位数で繰り下がりのある減法計算が確実にできる。	・ 繰り下がりのある減法の意味や計算の仕方を理解している。

5、指導計画

時間	単位時間の目標	☆学習課題 ○主な学習活動	■評価規準 □評価方法
1	減法の作問をして、既習の計算とそうでない計算があることに気づく。	☆えをみて、ひきざんのもんだいをつくろう。 ○引き算の問題を立式する。 ○既習の計算の式や答えを求める。	■（関）絵を見て、減法の問題を作ったり、既習の計算を振り返ったりしようとしている。 □ノート・発言
2	十何一1位数で繰り下がりのある減法計算の仕方を考える。 (減加法)	☆12-9けいさんのしかたをかんがえよう。 ○ノートに計算の仕方を書く(ブロックや図を用いて)	■（考）12-9の計算の仕方について、図やブロックを用いてノートに表すことができている。 □ノート・発言
3	十何一1位数で繰り下がりのある減法計算の仕方を理解する。	☆ひきざんマスターになろう。 ○計算の手順を言いながらブロックを動かす。	■（知）繰り下がりのある計算の仕方を手順通りに説明できる。 □ノート・発言 穴埋め問題
4 本 時	十何一1位数で繰り下がりのある減法計算の仕方を理解する。 (減減法)	☆12-3のけいさんのしかたをかんがえよう。 ○ノートに計算の仕方を書く。 ○ブロックを操作して減加法と減減法の仕方を確かめる。	■（知）12-3の計算の仕方についてブロックを操作しながら説明することができる。 □発言
5	繰り下がりのある減法計算ができる。	☆ひきざんマスターになろう。 ○練習問題を解く。	■（技）繰り下がりのある引き算の計算ができる。 □ノート
6	十何一1位数で繰り下がりのある減法計算ができる。	☆ぶんしょうもんだいとこう。 ○文章問題を解く。	■（技）繰り下がりのある引き算の計算ができる。 □ノート
7 8	1位数+1位数で繰り上がりのある加法計算に習熟する。	☆ひきざんのれんしゅうをしよう ○ひき算カードを用いて、問題を出し合う。	■（技）繰り下がりのある減法計算が確実にできる。 □活動の様子・発言
9 10	同じ答えの加法の式を見つけて順序よく並べることとおして被加数や加数の変化のきまりに着目することができる。	☆おなじこたえをみつけよう。 ☆14になるきまりをみつけよう。 ○ペアで同じ答えになるように並べる。	■（知）足し算の変化のきまりに気づく。 （考）変化のきまりを見つけ、答えが同じになる式を見つける。 □発言

6、本時の学習

(1) 本時の目標と評価基準

○十何一1 位数で繰り下がりのある減法計算の仕方を理解する。(減減法)

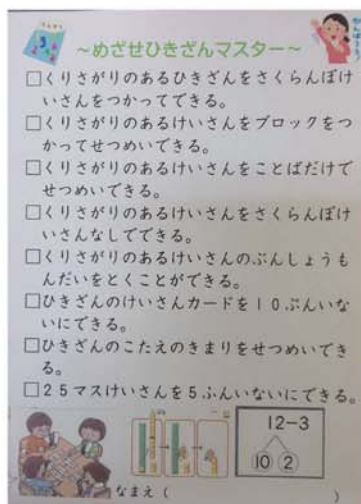
(2) 本時の展開 (4/10)

	学習活動・教師のかかわり	主な評価規準
導 入	○前時を振り返り、本時の見通しをもつ。 ○本時の課題を確認する。 問題：おかしが12こあります3こたべると、のこりはなんこでしょう。 $12 - 3$ のけいさんのしかたをかんがえよう。	
展 開	○どのような物を使って考えればよいですか。 ブロックや図！ ひきたすけいさん！ ○既習の計算方法を使って説明する。(ペアで確認) ①2から3はひけない。 ②12を10と2にわけ。 ③10から3をひいて7。 ④7と2で9。(減加法) ○新しい考え方で計算の仕方を考える。(自力解決) ①2から3はひけない。 ②3を2と1にわけ。 ③12から3をひいて10。 ④10から1をひいて9。(減減法) ○全体交流 ・子どもの考えをテレビに映す。	【考】ブロックや図を用いて、減法計算の仕方を説明することができる。 [ノート、発言]
ま と め	○まとめをかく 「$12 - 3$ のけいさんはひきひきけいさんでもできる。」 ※時間があれば練習問題を行う。 ○振り返りをノートに書く。 ○次時への見通しをもつ。	

(3) 評価

ブロックや図を用いて、減法計算の仕方を説明することができる

真狩小 算数科「繰り下がりのあるひきざん」の实践から



【単元計画について】

- まだ順序立てて説明することが苦手な1年生が、計算の仕方を説明できるように、説明の話形を用意するし、抵抗感なく話すことができるようになった。
- 単元を貫く目標「めざせひきざんマスター」を児童に配布し、単元で学習する内容を示し、見通しをもたせ、意欲を持続させることができた。
- 技能・知識面の習得やスモールステップを意識しすぎたあまり、教師主導の場面が多くなり、児童の主体的で対話的な活動、深い思考活動が見られる場面が少なくなった。

【本時について】

- 問題→課題→解決→まとめまでの流れができており、児童は見通しをもって、落ち着いて授業に取り組んでいた。
- 日常からペア交流、ノート交流に取り組んでおり、その形式慣れていることから、本時の活動もスムーズに取り組むことができていた。
- スモールステップを心がけた授業作り、支援員さんとの連携など、細かい発問などの工夫により、低位の子に手厚い授業作りとなっていた。
- ノートの書き方、学習用具の準備など学習規律が身についていた。
- 発問や指示中心の授業にとどまらず、児童の思考を促す活動の場面が見られると良かった。また、教師主導の時間を調整し、主体的な活動の場面を増やせると良かった。ブロック操作などの具体物操作、さくらんぼ計算などの図式化を自力で行う中で、児童が自然と話したり、つぶやいたりする場面が見られたので、その瞬間をいかしていく指導に向かうと良かった。
- ペア交流をする目的が曖昧で、話し合いの内容と本時の課題に対してのズレが生じた。何を伝えればよいのか児童が理解することで、活発な話し合い活動に繋がると感じた。



第1学年 国語科UD学習指導案

俱知安町立西小学校樺山分校

日時：12月13日（金）6校時

授業者：教諭 橋谷 紘彰

児童：5名

1. 単元名

「たぬきの糸車」

2. 単元について

この作品は、『伊豆の民話』収録の「たぬきの糸車」を、編者である岸なみ氏が、1年生向けに再話し直したものである。『伊豆の民話』では、「たぬきは、おかみさんのために、一年中の糸を、みんなつむいでおいてくれたのでありました。」とあり、報恩譚（恩返しの話）として描かれている。しかし、教科書版ではこの一文が割愛されているため、たぬきが糸を紡いだ理由がはっきりとはわからない。様々な解釈ができる作品である。

この物語が、おかみさんの視点で書かれている。だから、おかみさんの心情はよくわかるが、たぬきの心情はよくわからない。また、冬の間、たぬきが糸を紡いでおいてくれたとは、どこにも書かれていない。つまり、物語の読み方としては、おかみさんの視点でおかみさんの心情の変化に着目しながら読み進めることになる。

たぬきの様子を表す箇所では、声喩（擬声語・擬態語）が多く用いられている。たぬきのかわいらしさを引き立てる効果がある。また、「キーカラカラ キークルクル」という糸車を回す音が二箇所出てくるが、おかみさんとたぬきを引き寄せる重要な音としての役割を果たしている。

指導にあたっては、挿絵や動作化、言葉から登場人物の様子について自由に想像を膨らませていく。また、物語のあらすじや難しい言葉の意味を押さえたうえで、場面ごとのたぬきの様子やおかみさんの思いを想像しながら読ませていく。

3. この単元で身に付けたい読解力

- (1) 場面の様子を想像したり、登場人物の心情の変化をとらえたりして、楽しく読む力
- (2) 物語の読み方（語り手の位置や視点、心情の変化、声喩）を理解しながら読む力

4. 児童の実態（SDQ、LDCの結果を踏まえて）

（1）これまでの学習経験

はなのみち
おむすび ころりん
おおきな かぶ

ゆうやけ

くじらぐも

たぬきの糸車

場面の様子や登場人物については、「ゆうやけ」や「くじらぐも」などで、音読については「おむすびころりん」や「おおきなかぶ」をはじめ、詩や物語で数多く学習してきている。

「くじらぐも」では、登場人物が同じ一年生の子どもたちであり、想像を広げて読むことを自然に体験できていた。また、他の物語においても、登場人物がどんな気持ちなのか、どんなことを考えているのか、想像する経験はしてきている。文章を読んだり理解したりすることを苦手としている児童については、友達の発表を聴いたり、挿絵をヒントにしたりすることで、課題に取り組むことができている。

（2）仮説1【国語科授業ユニバーサルデザイン】に関わって

仮説2の研究内容であるSDQとLDCの結果も踏まえての単元を通しての配慮と手立て

困難の状態	児童	配慮の意図	手立て	UD視点
書かれている文章を読み間違えたり、勝って読みをしたりすることが多い。また、音読するのに時間がかかる。	A	書かれている文章を、正しく読むことができるようにする。	事前の音読 ダウトゲーム	視覚化 共有化 補充
文章の内容を理解したり、その場面をイメージしたりすることが難しい。	A	登場人物の行動や気持ちを読み取ることができるようにする。	挿絵 動作化 事前の音読	視覚化 共有化 補充

（3）仮説2【教室環境ユニバーサルデザイン】に関わって

教室前面は、児童の学習への集中を高めることができるようにシンプルにしている。授業で活用してきたものについては、教室側面に掲示するようにして、振り返りをしやすくする。

児童は、凹凸の青色の紙になった集中力UPノートを使用し始めている。さらに、授業の中では、赤色で残り時間を見通せるタイマーや、今すべき活動の種類がわかる表示などを授業の内容によって使用している。

また、単元全体の見通しがもてるように教室側面に単元計画を掲示する。学習への見通しをもち、安心して進んで授業に参加できるように努める。

5. 単元のイメージ（総時数 11 時間）

単元 目標	声に出して読んだり，劇遊びをしたりして物語を読み，登場人物になったつもりで場面ごとの日記を書くことができる。		
評価 規準	【関心・意欲・態度】 ○場面の様子や，登場人物の心情の変化を楽しみながら，意欲的に読もうとしている。	【読む能力】 ○場面の様子や，登場人物の心情の変化をとらえながら，想像して読むことができる。	【言語の関する知識・理解・技能】 ○物語から読み取ったことを，句読点やかぎ（「」）を使って書くことができる。
授業 づくり の工夫	■見える（視覚化） ○場面ごとに，登場人物（おかみさん）になったつもりで日記を書くことで物語の内容を読み深める。	★しぼる（焦点化） ○挿絵を用いて，板書を整理する。 ○着目させたい言葉や文章を選んで提示する。 ○文章に書かれていることを動作化させる。	▲シェア（共有化） ○日記の間違いを探す際，ペアで話し合わせる。 ○友達の動作化を見て，自分の考えを述べ合わせる。
次	時	目 標	指 導 の 工 夫 ■みえる ★しぼる ▲シェア （視覚化） （焦点化） （共有化）
一	1	たぬきについての話し合いを通してイメージをとらえ，作品の概要を一言で書くことができる。	●必要の児童の教科書に振り仮名を記入しておく。 ○音読カードを使い，家庭で音読をする
	2	場面分けの仕方に気づき，場面を意識しながら音読練習をすることができる。	
二	1	1 場面のきこり夫婦の行動と心情をとらえ，おかみさんの視点で日記を書くことができる。	

	2	2場面のおかみさんとたぬきの行動をとらえ、動作化することができる	■黒板に貼る挿絵カードを用意する。 ▲動作化をし合い、文章を理解する。	●必要な児童の教科書に振り仮名を記入しておく。 ○音読カードを使い、家庭で音読をする。
本時	3	2場面のおかみさんのたぬきに対する心情をとらえ、おかみさんの視点で日記を書くことができる。	■黒板に貼る挿絵カードを用意する。 ★教科書にあるおかみさんの会話文を囲む。 ★必要に応じて、形式の違うワークシートを用意しておき、選ばせる。	
	4	3場面のおかみさんの行動と心情をとらえ、おかみさんの視点で日記を書くことができる。	■黒板に貼る挿絵カードを用意する。 ★必要に応じて、形式の違うワークシートを用意しておき、選ばせる。	
	5	4場面のおかみさんの行動と心情をとらえ、おかみさんの視点で日記を書くことができる。	■黒板に貼る挿絵カードを用意する。 ▲間違えている日記を用意し、どこが間違っているのか見つけさせる。	
	6	4場面のたぬきを見るおかみさんの心情をとらえ、おかみさんの視点で日記を書くことができる。	■手元で並べ替えができるカードを用意しておく。	
三	1	物語を一文にまとめ「たぬきの糸車」のよいと思うところを話すことができる。	■黒板に貼る挿絵カードを用意する。 ★つるの恩返しの読み聞かせをして、終わり方を比較する。	
	2	昔話に登場するたぬきの人物像をとらえ、どの話が一番好きか感想をもつことができる。	▲「かちかちやま」と「ぶんぶくチャガマ」など、児童がこれまでに読んだことのある話を取り扱う。	
四	1	単元テストに取り組む。		

6. 本時の展開 (5 / 11)

(1) 本時のねらい

たぬきの行動や様子を話し合うことを通して、2場面のおかみさんのたぬきに対する心情をとらえ、おかみさんの視点で書くことができる。

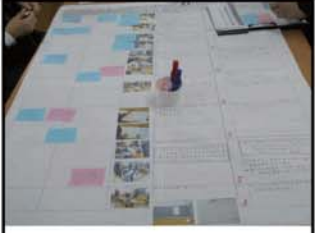
(2) 本時のイメージ

時間 (分)	学習活動・学習内容 ◇教師の発問 ◆児童の発言・活動	UD視点の指導の工夫◎ 個別の配慮○
7	①前時までの確認をする。 ◆昨日は、劇をしたよ ◆先生が読んで、ぼくたちが動いたよ。 ②課題の確認をする。 ◇今日も2の場面の勉強をします。 ◇昨日は、どんなことをしていたのか、 考えながら読んだよね。 ◇今日の課題は おかみさんになったつもりで、 2のばめんのにつきをかこう です。 ③2の場面を音読する。	◎前時で使用した2場面の拡大コピーを 教室側面に掲示する。 ◎使用した掲示物を用いながら、おかみさん とたぬきの行動を、書かれている文章 をもとに確かめる。 ◎ノート（ワークシート）と板書のマスの 数を同じにする。 ○児童の実態に合わせて、一緒に読むペア ・グループを設定し、丸読みをさせる。
5	④教師が書いた「おかみさんの日記」を 読み、間違いを見つける（2こ程度） ◇今日もおかみさんになったつもりで、日 記を書きます。また、先生が日記を書い てみたよ。合っているかな？ ◆「とても きみがわるい」なんて 変だよ。とてもかわいいと思ったよ。	◎全員が意欲的に間違いを見つけることが できるよう、簡単なものから見つけさせ る。
8	⑤げきあそびをする ◇おかみさんは、たぬきのどんなところ をかわいいと思ったのかな。 劇遊びをしながらかわいいところを探 しましょう。	◎おかみさん役を全員に体験させる。 ◎障子に代わるものも用意し、場面の イメージをつかませる。 ○イメージがつかみにくければ、映像も 準備しておく。
7	⑥げきあそびを振り返り、おかみさんの たぬきに対する心情について話し合う。 ◆「二つのくりくりした目玉が、	◎たぬきのどんなところがかわいいか、 発表させる。 （フリートークによる対話）

	こちらをのぞいていました」でしょ。 ◆「まいばんまいばん」来て、糸車を回すまねをするから、かわいいんだよ。	○劇遊びで、おかみさんの心情をとらえにくい場合は、会話文に着目したり、挿絵のおかみさんの表情に注目して考えるよう促す。
8	⑦おかみさんの視点で日記を書き、自分の読みを整理する ◇おかみさんになったつもりで、日記を書きましょう。	○形式の違うワークシートを用意しておき、おかみさんの心情がしっかり書けるように選ばせる。
7	⑧書いた日記を交流する。 たぬきが、まいばんまいばんやってきて、糸車を、まわすまねをします。糸車にあわせて目玉をまわすところがかわいいです。またきてほしいな。	【読】2場面のおかみさんのたぬきに対する心情をとらえ、おかみさんの視点で日記を書いている。 (ワークシート・発表) ◎交流では、自分と同じ考え、違う考えの友達を探すように促す。 ○書けない児童は、口頭で意見を出させて、教師が簡単に書き方を例示する。
3	⑨まとめの振り返りをする。	◎たぬきに対しての心情を確認し、次時の学習内容を伝える。

(3) 板書計画

【12月13日(金)第1学年国語科UD授業 研究討議(二複研大会)のまとめ】

事後研での活動	具体的な内容とまとめ
1. 授業者から 倶知安町立 西小学校 樺山分校教諭 橋谷 紘彰  	①②前時までの学習内容や本時の課題は一人ひとりが理解できていたが、想定した以上に時間を必要とした。字を書くのに時間がかかる児童がいるので、教師が事前に書いたノートを見せて支援したが、時数を減らすなど、他にも支援を行えたらよかった。 ④教師が作成した「おかみさんの日記」を貼ったが、間違っているところをすぐに見つけ、進んで発表しようとする姿が見られた。日記と教科書との言葉の違いが気になり、想定した所以外も「ダウト」にしてしまったため、本来強調したかった箇所が少し目立たなくなってしまった。 ⑤単元全体を通して、「おかみさん」の心情を想像しながら読む活動を取り入れており、本時の劇遊びでも、おかみさんを体験することで、「いたずらもんだがかわいいな」のセリフにどんな気持ちが込められているのか、みんなで考えることができるようにした。1回目の文章を読むときは教師が読み、それ以外は児童全員で読んだが、単調になってしまったので、1人で読ませたり、分担させたりするなどしてもよかった。 ⑥一人ひとりがよく考え、おかみさんの心情について話し合うことができていた。よい意見も出てきたので、もう少し1つ1つの意見を全員で交流した方がより深く読もうとするきっかけを作ることができたと思う。 ⑧友達の意見と「同じようなところ・違うところ」を見つけることを視点にしているので、互いの意見をよく聴くことができていた。
2. グループワークの方法 「タイムライン型拡大指導案」を使用したグループワーク  「タイムライン型拡大指導案」 ※本時指導案の導入からまとめまでの指導案の番号(①～)にそって時間を記録し、その活動に合わせた写真を張り付けている。	(1)事後検討参加者を4人×4グループに分け、色々な学校の先生方が混在するように配置した。 (2)各グループに樺山分校の職員、研修センターの所員を配置し、グループワークの後の、ワールドカフェによる交流活動が円滑に進むように工夫をした。 (3)30分の時間で「タイムライン型拡大指導案」を使用してグループワークを行った。 (※尚、タイムライン型で使用する本時の写真については、記録係と職員室に残る職員が、開会式から研究発表までの間に作成をした。)  その後、各グループの所員に残ってもらい、担当グループの話合いの内容について、他のグループの参加者に伝える役として残ってもらった。  (4)5分間の交流の時間を取り、それぞれのグループのメンバーが自分のグループ以外のグループに移動し、そのグループでの話合いの内容についてきく活動を行った。

事後研での活動	具体的な内容とまとめ	
「ワールドカフェ」を使ったグループ間交流  実際の様子	↓ (5) 終了後、自分のグループに戻り、今聞いてきたグループでの話し合い内容について貫流しあった。 	
3. グループワークを通して「みえた」成果と課題	【成 果】	【課 題】
◎本時に向かう 教室環境 ◎全体を通して	教室環境のUD化 UD授業を進める姿勢 UD授業の流れ	複式授業のUD化
① 前時までの確認をする。	学習計画の掲示と場所がわかる矢印 【みえる（視覚化）】	前時確認をシンプルに 【しぼる（焦点化）】
② 課題の確認をする。	明確な本時課題 【しぼる（焦点化）】 個の対応と準備【UD】	板書とノート的一致 【みえる（視覚化）】 書く分量の調整 【しぼる（焦点化）】
③ 2 の場面を音読する。	意図したペア・トリオによる音読	時間の調整 【しぼる（焦点化）】

④教師が書いた「おかみさんの日記」を読み、間違いを見つける。	ダウトを使った 本時学習内容への 意識付け	ダウトの意図 を明確に! 着目する言葉は? 【しぼる(焦点化)】 ダウトは導入 以外でも使えそう 言葉を紡ぐ 対話の方法
⑤げきあそびをする。	実物の使用 音読場面の設定 授業中の児童の 見取りと判断	劇遊びの意図 【しぼる(焦点化)】 イメージ化に 向かう教材解釈と 実物の利用方法 音読の方法 分量の意図
⑥げきあそびを振り返り、おかみさんのためきに対する心情について話し合う。	繰り返す意味 音読予習 つくし効果	挿絵の活用 【みえる(視覚化)】
⑦おかみさんの視点で日記を書き、自分の読みを整理する。	主体性を促す焦点化 したワークシート 個への手立て 自力活動の時間確保	言葉のおさえ ワークシートを 渡すタイミング 書いた文章を どう見取るか

⑧書いた日記を 交流する。	交流の視点の明確化 タイマーの活用 【みえる（視覚化）】 信頼関係を作るUD つくし効果	交流視点の難易度 児童の発表最後まで
⑨まとめの振り返りをする。		全体交流での 発表内容の明確化
3. 助言者から 北海道教育庁後志教育局 学校支援課 義務教育指導班 指導主事 和田 悟 様 	1. 温かい雰囲気がある。 2. UDを軸に、学校で取り組まれている。 ▷ 何をしてきたかがわかるように、環境整備がされている。 ▷ 今すべきことがわかる:課題提示 ▷ いつまでがわかる:タイマー ▷ 未来がわかる:単元計画 ▷ 視覚的な支援:スモールステップを考慮したダウト UD 3. げき遊びは子どもが活動できるので、集中力が続く。 4. 発表、アウトプットの視点を与えていた。(同じ考え、違う考え) 5. 指導案の構成について ▷ 何ができるようになるのか(本時の目標) ▷ どのようにするのか(内容、学習活動) ▷ 何が身についたか(評価) UD が指導案にかかれている。 6. 授業改善は、学校全体でそろえる、全体で取り組むよさがある。 7. いろいろ授業を見て、「授業を見る目」をつけていってほしい。	

【12月13日（金）第1学年国語科UDの授業事後研～教室環境・①】

【成果】			【課題】		
本時での授業者の発問や 流し方，UD視点からの気付き	児童の発言や学習活動での 様子からの気付き	本時の流れと 手立てが見える写真	本時での授業者の発問や 流し方，UD視点からの気付き	児童の発言や学習活動での 様子からの気付き	
教室環境がととのっていた。D 黒板の周りがすっきりしていて 学習に集中できている。A 誰もが参加できる学級の雰囲気D UD授業を進める姿勢 ユニバーサルを意識した取り組みはスッキ リしている。指導者の簡潔な授業作りに つながる。B	←教室環境のUD化 子どもたちの学習に向かう姿D 先生の声がよい。あたたかい。C 子どもの発言を全て受け入れる。 わかる、できるの根底A ←UD授業の流れ	本時に向かう 教室環境 全体を通して	複式授業での取り組み方	←複式授業のUD化	
学習計画の提示、指矢印B 学習課題。単元計画があって よい。C	学習計画の揭示と 場所がわかる矢印 ←↓[みえる(視覚化)] 意欲的にスタートできた。モチベー ションをあげることができた。B	①前時までの 確認をする。 	課題の確認までもっとシンプル に行けた。前時までのふり返りを 焦点化。B	前時確認をシンプルに ←[しぼる(焦点化)]	

【12月13日（金）第1学年国語科UDの授業事後研～②・③】

【成果】		【課題】	
本時での授業者の発問や 流し方，UD視点からの気付き 児童の発言や学習活動での 様子からの気付き	本時の流れと 手立てが見える写真 ②課題の確認 をする。 	本時での授業者の発問や 流し方，UD視点からの気付き 児童の発言や学習活動での 様子からの気付き	児童の発言や学習活動での 様子からの気付き
課題ではていねいな確認で視点を明確にしていたよかった。C 「先生と同じスピードで」という声かけ。D Sくんにノートを渡す。D 先生がフォローしている。A 外国籍の子へのノート支援。B ↑個の対応と準備【UD】	③2の場面を音読する。  ペア読み・音読の仕方 D 音読、助け合う温かい雰囲気。B	黒板のマスがノートと合っているとよよい。A ← 時間の調整 【しぼる(焦点化)】 課題を書く時間がかかる。B	板書とノートの一致 ←【みえる(視覚化)】 書く分量の調整→ 【しぼる(焦点化)】
意図したペア・トリオによる音読 →			

【12月13日（金）第1学年国語科UDの授業事後研～④】

【成果】		【課題】	
本時での授業者の発問や 流し方，UD視点からの気付き	児童の発言や学習活動での 様子からの気付き	本時での授業者の発問や 流し方，UD視点からの気付き	児童の発言や学習活動での 様子からの気付き
ダウトゲームは導入として有効。B 文章に注目させるという意味で 間違いさがしは面白い。C	語の内容理解が子ども達がきち んとわかっていった。内容理解の下 準備がしっかりできていたのので、 授業に集中できてきている。B	「まちがいが探し」の意図はわかっ たが、それを授業の中に活かして いくのかと思っていたが、意図（目 的をもう少し知りたい。A Ans.きもちわるいに目を向け させようと思った。A	ダウト読みはげき遊びの後の方が 効果的だったのではないかと。C
ダウトを使った↑ 本時学習内容への 意識付け →		↑ダウトの意図 を明確に！	
板書の言葉（限定）C		児童と先生の対話の場面は、 他の児童に返すことで全体に 共有される。B	
↑ダウトは導入 以外でも使えそう		↑言葉を紡ぐ 対話の方法	
間違いに気付くだけの読み の深め方D 子どもの集中力・注意力。D		間違いを正す問題。C ダウトを見つけたことで、どの子 も内容把握。B 間違いさがしに楽しみながら 取り組んでいる。C ダウト読みで教科書を正しく読み取ろう という児童の姿が見えてよかった。C 先生の日記に子ども達がとても 興味を持って取り組んでいた のがよかった。D	
④教師が書いた 「おかみさんの 日記」を読み、 間違いを見つけ る（2程度）		④教師が書いた 「おかみさんの 日記」を読み、 間違いを見つけ る（2程度）	
			
本時の流れと 手立てが見える写真		本時の流れと 手立てが見える写真	

【12月13日（金）第1学年国語科UDの授業事後研～⑤】

【成果】		【課題】	
本時での授業者の発問や 流し方，UD視点からの気付き	児童の発言や学習活動での 様子からの気付き	本時での授業者の発問や 流し方，UD視点からの気付き	児童の発言や学習活動での 様子からの気付き
無理にやらせない。 (Sくんの劇) A 何度も読む場の設定。 A 実物があることで読みの深まり 劇と其の後の交流。 D	←実物の使用 ←音読場面の設定 ←授業中の児童の 見取りと判断 劇と其の後の交流。 D	⑤げきあそびを する  げき遊びはたぬきとおかみさんのやり とりの方が場の様子を想像できたと思う。 話合った後でやってみるのも変容がみえる ことができたかも。B 障子の活用ができればよりイメー ジがわいたかも。 ※今日は、なくてもイメージ できていた。C ←イメージ化→ 向かう教材解釈と 実物の利用方法 挿絵の活用→想像につながる。A 表面的になり、「まいばいまいばん」 やってくるからそこそかわいいと思 えた心情がとらえられなかった。B 劇遊びの意図 【しぼる(焦点化)】	全員は多かった。代表1名でよい。B 劇遊びのところの音読は先生 と一緒にだったが、一人ずつでも 良かった。D 教科書を追えていない音読側の 児童の支援。B 劇 すわってできたら。A 黒板にあったやぶれ障子の穴に たぬきの目玉があるとまたよい です 障子に変わるものを用意されてい たので、活用できるとよかった。B 糸車だけにあってしまったのでは？C 糸車を回したことで、おかみさんになっ たつもりになれていただろうか？興味が 劇遊びに入る際の子どもへのお さえが今ひとつ不明瞭。A 劇遊びはおかみさんだけでよかった のか？C

【12月13日(金)第1学年国語科UDの授業事後研～⑥・⑦】

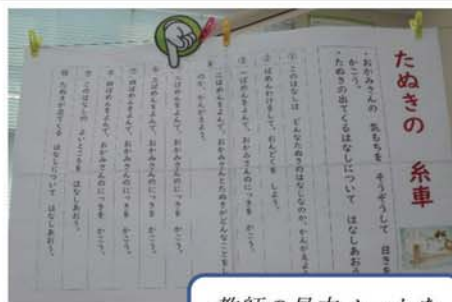
【成果】		【課題】	
本時での授業者の発問や 流し方、UD視点からの気づき	児童の発言や学習活動での 様子からの気づき	本時の流れと 手立てが見える写真	本時での授業者の発問や 流し方、UD視点からの気づき
げき遊びを繰り返すことで、どの子も 話の流れ、心情をつかむことができた B	音読の予習により、おかみさんの気持 ちに寄り添いながら考えることができた B	⑥げきあそびを 振り返り、おか みさんのたぬき に對する心情に ついて話し合う 	黒板に挿絵を掲示し、情景理解へ つなげたい。 B
←繰り返す意味	←音読予習	←つくし効果	←挿絵の活用 【みえる(視覚化)】
文頭を示してあげるのとは良いと思う。A	ワークシートの書き出し。D	日記を書くという単元を通じた言語 活動。児童が主体的に取り組める。B	「かわいい」を「おもしろい」とし ている子がいたがそれによいのか？
ワークシートは、途中まで入ってい ることで続きを楽しく想像しながら 考えることができる。C	ワークシートの提示や形式の異なるワークシ ートで個に応じた支援ができていた。B	ワークシートをもう少し早め にわたすと見通しが持てる？	←ワークシートを 渡すタイミング
ヒントありとヒント無し。	十分な活動があったからこそ、全員 参加のできる書く活動ができていた。C	言葉のおさえ→	書いた文章を どう見取るか→
主体性を促す ←焦点化した ワークシート	←個への手立て	⑦おかみさん の日記を読み 視点を自分の読 きき を整理する  	ワークシートは、おかみさんの 視点になりきっていたか？

【12月13日（金）第1学年国語科UDの授業事後研～⑧・⑨】

【成果】		【課題】	
本時での授業者の発問や流し方，UD視点からの気付き	児童の発言や学習活動での様子からの気付き	本時での授業者の発問や流し方，UD視点からの気付き	児童の発言や学習活動での様子からの気付き
交流の視点を確認してよかった。C	←交流の視点の明確化	1年生の段階では同じ、似ていることを見つけることはできるのか。違いを 探すことは難しいのではないかと。B	←交流視点の難易度
タイマーの活用→ 【みえる(視覚化)】	タイムタイマーの使用。B	児童の発表最後まで→	Sくんが話していたけれど、時間になっちゃって途中で途中できれてしまったことが残念。
担任と子どもの信頼関係、子どもの 発言の受け止め、返しがよかった。B	←信頼関係を作るUD	全体での交流では友だちの考えなのか、 自分の考えなのかをはっきりさせた ほうがよい。A	←全体交流での 発表内容の明確化
子ども同士で話合うことが身に付いた。B	←つくし効果	⑧書いた日記を交流する。 	
		⑨まよめの振り返りをする。 	

樺山小 国語科「たぬきの糸車」の実践から

【単元計画について】



教師の見本ノートを見て写しています。



○UDの考えを活かした単元構成

⇒【単元を貫く課題(言語活動)】を明確に設定し、単元指導計画とつながる『児童の学習計画』を教室に掲示していた。こうすることで、どの子にも、それぞれの時間の役割や、繋がりを把握することができていた。また、指の印で示すことで、現在の学習地点が分かり、前時や次時のつながりも意識できていた。

⇒【達成度の個別性への対応】

内容に対し、困難を持つ可能性のある児童とつまづき想定し、それらに対する「個別の指導」「補充的指導」を準備していた。そのため、困り感を持つ子どもにもスムーズで適切な対応ができていた。

⇒「指導の工夫」も見える化！

指導の工夫を「視覚化」、「焦点化」、「共有化」の3つに分類し、指導案に明示した。これにより、教師側が意識して指導できる。

【本時について】

○児童の実態に合わせ、何度も読む場を設定していた。これが「わかる」「できる」につながっていた。

○板書とノートのマスの数を同じにしていた。

○教師作の日記を見て「間違いさがし」をすることで、子どもたちの言葉に注目する意識も高まり、興味を持って取り組むことができた。

○文頭を指のマークで示しており、どの子も分かりやすかった。

○●ワークシートでは、日記の書き出しの部分が書かれており、それにつなげる工夫があった。書き出しに困っている子にのみ、教師が書画カメラで見せながら書く指導方法も考えられる。

●劇遊びでは、おかみさんが糸車を回す動作を子どもたちにさせたが、おかみさんから見たたぬきのかわいらしさを理解させるなら、障子から見ているたぬきの目玉の映像を見せたり、他の子にたぬきの役をさせたりしてもよかったかもしれない。ただ、そうすると子どもたちの意識が色々な方向に行ってしまう可能性があり、難しいところ。映像や障子の準備はされていたので、授業者としても難しい判断だったと考えられる。

●全体での交流では、より他の子の意見を取り入れ、新しい見方ができるように、「5人の名前が書き書いてあり、チェックできる何かがあれば、よりよかった。



【第4章】

研究の 成果と課題

今年度の研究の成果と次年度に向けた課題

1. 「《視点1》実践的指導力の向上を図るための教職員研修の工夫・改善」の成果

- 研修講座「校内研修」において、所員の所属校の校内研修を例に挙げ、1年間を見通して研修を進めていくことや、「視覚化」「焦点化」「共有化」を意識して校内研修を進めていることを紹介できた。
- 校内研究を進めるための手順や、研究主題・仮説の設定、研究推進計画の作成提案できた。
- 短時間で効果的な研修を進める方策の一つとして、校内研修のパッケージを紹介したり、外部機関である独立行政法人教職員支援機構(NITS)を活用した研修の時間について実際に参加者に視聴体験してもらい、紹介したりすることができた。
- ファシリテーターの心得やワークショップ型討議の方法について提案し、参加者同士で実際にワークショップ型討議の交流をすることができた。

2. 「《視点2》確かな学力を育成するための授業改善」の成果

研修講座「学習指導」(授業づくり)では…

- 講座を通して、1単位時間の授業づくりについて取り上げ、設定したゴールに向けて明確な課題設定をすることや、課題を把握する場面、学習活動の場面、まとめの場面のそれぞれで、効果的な学習活動は何かをよく吟味して位置づけることをセンターの研究成果を活用して説明できた。
- 課題提示、自分の意見の形成、交流場面、振り返りと評価を指導案上に位置付けて授業を構築することの意義について事前の説明と、授業場面の両方で参加者に理解してもらうことができた。
- 学習規律などについて、受講者の日常実践や悩みを交流し、解決策を考える協議を行うことができた。
- 単元の指導計画についてポイントを示し、作成例を提示し理解を促すことができた。
- 所員の授業公開を通して、主体的対話的な深い学びの実現について、NITSのピクトグラムを用いながら単元での位置づけを明示することなどを提案できた。
- 所員の実践紹介では、日常授業の改善や、ICTの活用、板書型指導案について紹介できた。

研修講座「学習指導」(授業改善)では…

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた具体的手立てという内容で、受講者が聞いてみたい内容について取組を紹介できた。
- 講義での具体例をもとに、本時指導案を作成し、所員がその指導案を使って授業を行うという形で進めた。受講者が主体的に授業参観を行うことができた。また、観察児童を決め、その児童の理解について、教師の手立ては妥当であったかという視点で参観してもらうことができた。
- 授業後の事後検証では、参観の視点をもとにした、活発なグループ討議を持つことができた。

3. 検証授業の成果

- 所員が所属する3校(小学校2校・中学校1校)で、3教科の検証授業を行った。その中で「単元の構成」「授業の流れ」「交流場面の充実」の3点に焦点化して検証授業を参観し、事後の検証を行うことができた。
- 検証授業を通して、「子供の思考を整理する板書づくり」「ノートづくりの指導の充実と書く活動の重視」「ペア交流や小集団交流の効果的な活用」などの成果が見られた。
- 主体的な学びにつながる「前時の振り返り」や本時の「見通しを持たせる活動」が充実した。
- ホワイトボードを活用する具体的な操作を伴うグループ活動を通して、協働的な学びがなされた。

4 次年度に向けての課題

- 受講者の悩みや困り感を受け止めながら、より学校全体として授業力の向上を目指すための校内研修の在り方や校内研修パッケージ、NITSの活用などを発信していくセンターとしての機能を強化していく。
- 北海道教育研究所連盟第17次共同研究と照らし合わせながら、次年度の方向性を早急に組み立てていく。

あ と が き

今年度、小学校では、次年度から始まる新学習指導要領の全面実施に向けた年間指導計画の作成、プログラミング学習や外国語への準備など大きな変化への対応が迫られました。

また、今後十数年で約 2 倍になると予測されている北海道の教員退職者数。後志管内においても、徐々に経験の浅い教員の割合が高まってきます。このことにより、ベテラン教員の学級経営や教科経営、生徒指導等に関する知識や技能を学ぶことが難しくなることも危惧されます。各学校では、新しい時代の教育に対応できるよう、学習指導要領の趣旨を実現するための教員の資質向上に向けた取組が急務となっています。

そのような中、当センターでは教育研究所としての役割の大切さを改めて認識し、昨年度の調査研究事業報告会でご示唆いただいた主体的・対話的で深い学びのある授業にするための単元構成について、3 本の授業検証を行いました。また、3 本の研究の柱（「検証授業」「研修講座」「校内研修のパッケージ化」）が研究主題のもと結びついていく研究とするための活動という観点で、所員一同話し合いを進めてきました。今回の No.94 は、今年度の調査研究を中心に、より「見える」形での内容構成に変更しています。さらに、今年度からの新しい取組として、後志管内の小中学校の教職員の皆様方に、より研修センターを身近に感じてもらうためのリーフレットの作成も行いました。こちら是非ご覧ください。

末筆になりましたが、本研究紀要作成にあたり、お力添えをいただきました研究委員の先生方をはじめ、研修講座授業会場校、検証授業会場校及び授業協力いただいた先生方、児童生徒のみなさん、教育関係機関の皆様方に心より感謝申し上げます。

令和 2 年 3 月

----- 研 究 委 員 -----

学習指導に関する調査研究委員会

研究委員長	亀井 孝志	（島牧村立島牧中学校	教諭）
副委員長	本間 拓喜	（京極町立京極中学校	教諭）
委 員	笠原 雄哉	（岩内町立岩内第二中学校	主幹教諭）
	鶴見 卓哉	（岩内町立岩内西小学校	教諭）
	山崎 知可子	（ニセコ町立ニセコ小学校	教諭）
	小西 淳樹	（余市町立黒川小学校	教諭）
	高岸 京平	（蘭越町立蘭越小学校	教諭）
	河合 正広	（蘭越町立蘭越中学校	教諭）
	馬場 真理子	（倶知安町立倶知安小学校	教諭）
	寺井 球	（真狩村立真狩小学校	教諭）

研究協力員

担当指導主事 鈴木 理抄（北海道教育庁後志教育局義務教育指導班 主任指導主事）

研究紀要発行委員会

研修部長	原田 益明	（倶知安町立倶知安小学校	教諭）
研修講座主事	松林 丘峰	（倶知安町立倶知安中学校	教諭）
調査研究主事	清水 栄治	（倶知安町立西小学校樺山分校	教諭）